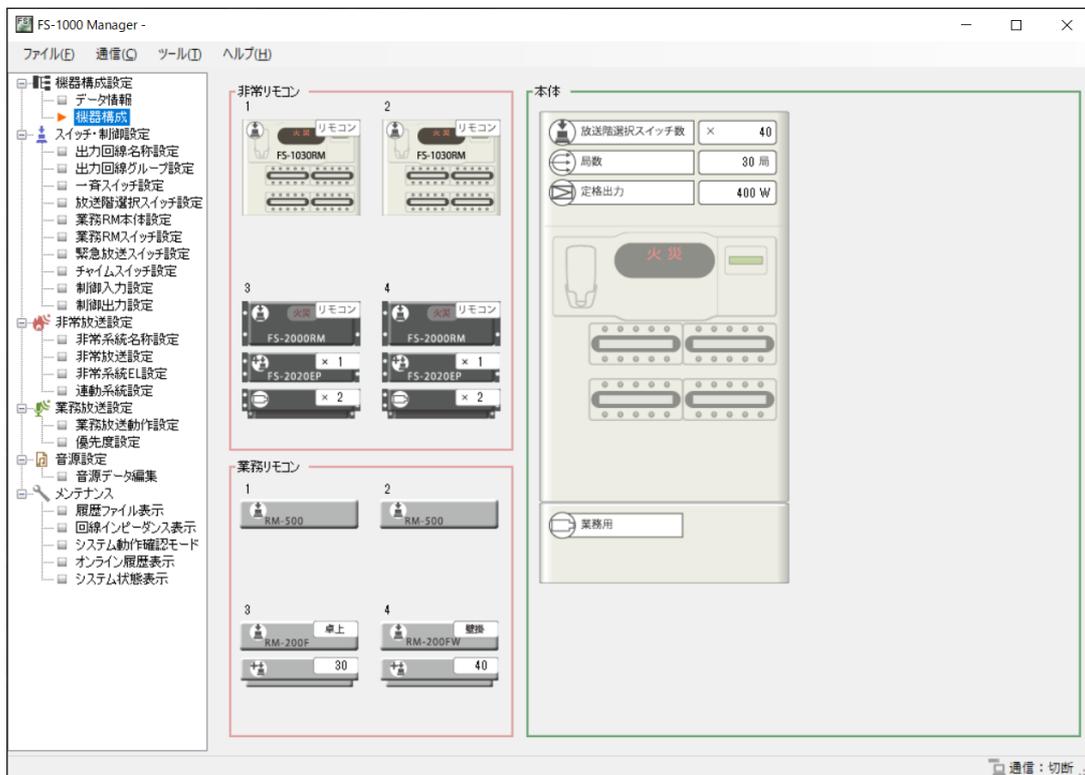


# 壁掛型非常用放送設備

# 型名 FS-1000 Ver. 4



このたびは、TOA 壁掛型非常用放送設備をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

正しくご使用いただくために、必ずこの設定支援ソフトウェア取扱説明書をお読みにになり、末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

# 目次

設定支援ソフトウェアの概要 .....	4
設定の前に .....	4
動作環境 .....	4
使用上のご注意 .....	4
設置時の設定の流れ .....	6
設定支援ソフトウェアの準備 .....	7
設定支援ソフトウェアFS-1000 Managerをインストールする .....	7
設定支援ソフトウェアFS-1000 Managerを修復する .....	9
設定支援ソフトウェアFS-1000 Managerをアンインストールする ...	10
設定支援ソフトウェアを起動する .....	11
設定データの新規作成 .....	12
設定の項目 .....	18
メニュー構成 .....	19
メニューバーの項目と解説 .....	20
機器構成設定 .....	21
データ情報 .....	21
機器構成 .....	22
スイッチ・制御設定 .....	23
出力回線名称設定 .....	23
出力回線グループ設定 .....	24
一斉スイッチ設定 .....	29
放送階選択スイッチ設定 .....	30
業務 RM 本体設定 .....	33
業務 RM スイッチ設定 .....	37
緊急放送スイッチ設定 .....	39
チャイムスイッチ設定 .....	41
制御入力設定 .....	42
制御出力設定 .....	46
非常放送設定 .....	48
非常系統名称設定 .....	48
非常放送設定 .....	50
非常系統 EL 設定 .....	53
連動系統設定 .....	54
業務放送設定 .....	58
業務放送動作設定 .....	58
優先度設定 .....	64

音源設定 .....	66
音源データ編集 .....	66
メンテナンス .....	85
履歴ファイル表示 .....	85
回線インピーダンス表示 .....	87
システム動作確認モード設定 .....	88
オンライン履歴表示 .....	90
システム状態表示 .....	91
FS-1000 とパソコンの通信 .....	92
FS-1000 とパソコンを通信接続する .....	92
FS-1000 とパソコンの通信を切断する .....	94
設定データを FS-1000 にアップロードする .....	95
設定データを FS-1000 からダウンロードする .....	96
設定・音源データを FS-1000 にアップロードする .....	97
設定・音源データを FS-1000 からダウンロードする .....	98
履歴ファイルを FS-1000 からダウンロードする .....	99
通信ができないときは .....	100
ラベルの出力 .....	101
履歴の出力 .....	104
設定データの出力 .....	105
設定のコピー .....	106
設定ファイルの読み込み .....	107
設定ファイルの保存 .....	108
CF カードイメージの読み込み .....	109
CF カードイメージの作成 .....	110
設定支援ソフトウェアを終了する .....	111

※ Microsoft、Windows、Windows Vista、および Excel は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

※ Pentium は、米国およびその他の国における Intel Corporation の商標です。

※ その他の会社名および製品名も各社の商標です。

# 設定支援ソフトウェアの概要

設定支援ソフトウェア FS-1000 Manager は、壁掛型非常用放送設備 FS-1000 シリーズ専用のソフトウェアです。パソコンにインストールして使用します。

FS-1000 Manager を使用すると、FS-1000 のシステム稼働に必要な設定データを作成、保存することができます。

パソコンと FS-1000 を接続することにより、オンラインで設定データの送受信を行ったり、システムの動作状態や履歴を確認することができます。

また、設定データや音源データを CF カードに保存して FS-1000 に読み込ませることもできます。

## 設定の前に

### ■ 動作環境

設定支援ソフトウェア FS-1000 Manager を正常に動作させるために、パソコンは以下の条件を推奨します。

● OS	: Windows 10 (32 bit/64 bit)、Windows 8.1 (32 bit/64 bit)、 Windows 7 (32 bit/64 bit)、Windows Vista (32 bit/64 bit)
● CPU	: 2 GHz 以上、Intel Pentium 4 以上
● メモリー	: 1.5 GB 以上
● ハードディスク	: 200 MB 以上の空き容量* <sup>1</sup>
● ディスプレイ	: 1024 × 768 ピクセル以上
● アプリケーションソフトウェア	: Microsoft Excel* <sup>2</sup>
● その他	: Microsoft .NET Framework 3.5 以上 CF カードが読み書きできる環境* <sup>3</sup>

\*<sup>1</sup> 設定支援ソフトウェア FS-1000 Manager のインストール時に必要な空き容量です。

\*<sup>2</sup> 設定支援ソフトウェア FS-1000 Manager でラベル印刷するときには必要です。

パソコンの OS が Windows 10 または Windows 8.1 の場合は Microsoft Excel 2013 以上、Windows 7 または Windows Vista の場合は Microsoft Excel 2007 以上のバージョンのものをお使いください。

\*<sup>3</sup> PC カードスロットおよび CF カードアダプターを使用するか、外付けの CF カードリーダー／ライターなどを用意してください。

### ■ 使用上のご注意

#### ● CF カードについて

##### [データの保存]

- 設定支援ソフトウェア FS-1000 Manager で設定したデータを CF カードに保存する場合は、FS-1000 に付属の CF カードを使用してください。
- 設定支援ソフトウェア FS-1000 Manager に関係のないファイルは、CF カードに保存しないでください。誤動作の原因となります。

##### [挿抜に関して]

設定データの読み込み中および書き込み中に CF カードを抜き差ししないでください。  
設定データや CF カードが破損する可能性があります。

##### [その他]

他の機器で使用した CF カードは絶対に使用しないでください。

## ● ソフトウェア使用許諾契約について

設定支援ソフトウェア FS-1000 Manager のインストール時に使用許諾契約への同意が必要です。契約書の条項に同意されない場合、TOA はお客様にこのソフトウェアのインストールおよび使用のいずれも許諾することはできません。

## ● ディスプレイについて

設定支援ソフトウェア FS-1000 Manager は画面領域 1024 × 768 ピクセルのサイズで作成されています。1024 × 768 ピクセル以下の画面領域を設定している場合や表示ウィンドウをリサイズした場合には、正しく表示されないことがあります。

## ● 画面表示について

本書で説明している設定支援ソフトウェア FS-1000 Manager の画面は表示例です。お使いの設定用パソコンの環境によっては表示が異なる場合があります。

## ● FS-1000 本体のファームウェアバージョンについて

- 以下の機能は、FS-1000 本体のファームウェアバージョンが 2.00 以降でないとは使用できません。
  - ・非常用リモコンの機種選択：FS-1010RM、FS-1020RM、FS-1030RM (P. 15)
  - ・RM-200F の AUX 入力 (P. 34)
  - ・制御入力への緊急放送・緊急放送停止機能割当て (P. 43)
  - ・ボイススイッチ機能 (P. 58)
- 以下の機能は、FS-1000 本体のファームウェアバージョンが 3.00 以降でないとは使用できません。
  - ・定格出力：270 W (P. 13)
- 以下の機能は、FS-1000 本体のファームウェアバージョンが 3.01 以降でないとは使用できません。
  - ・警報言語の三ヶ国語・四ヶ国語 (P. 51)
  - ・外部マイク放送の BGM 制御方式：ボイススイッチ (P. 61)
  - ・非常断 24 V 電源の緊急カット (P. 62)
- 以下の機能は、FS-1000 本体のファームウェアバージョンが 4.00 以降でないとは使用できません。
  - ・業務用リモコンの機種選択：RM-500、および RM-500 に固有の設定 (P. 15)
  - ・業務 RM 本体設定の RM-500 に固有の設定 (P. 33)
  - ・制御入力設定の RM-500 の制御入力端子への割り当て (P. 42)
  - ・制御出力設定の RM-500 の制御入力端子への割り当て (P. 46)
  - ・作動表示灯設定 (P. 62)
- FS-1000 本体の液晶画面で設定したデータまたは設定支援ソフトウェア FS-1000 Manager で設定したデータよりも新しいバージョンでのみ使用可能な機能を選択したときは、画面左下に警告文が赤字で表示されます。

本設定データを使用する場合、FS-1000FUのファームウェアをVer.2.0以降に更新する必要があります。

また、画面下部のステータスバーにも警告文が表示されます。この表示は、他の画面に移っても表示され続けます。

本設定データを使用する場合、FS-1000FUのファームウェアをVer.2.0以降に更新する必要があります。

通信：切断 ...

- FS-1000 本体のファームウェアバージョンの確認のしかたは、FS-1000 システム設定説明書「システム状態確認」をお読みください。
- FS-1000 本体のファームウェアバージョンが 3.01 のときは、設定支援ソフトウェア FS-1000 Manager 3 をお使いください。
- FS-1000 本体のファームウェアバージョンが 4.00 のときは、設定支援ソフトウェア FS-1000 Manager 4 をお使いください。
- FS-1000 本体のファームウェアのアップデートについては、当社営業所へお問い合わせください。

## ■ 設置時の設定の流れ

**1** 設定支援ソフトウェア FS-1000 Manager をパソコンにインストールする。(P. 7)



**2** 設定支援ソフトウェア FS-1000 Manager を起動する。(P. 11)



**3** 設定データの新規作成をする。(P. 12)

データ情報、ネットワーク情報、本体構成、リモコン構成を設定します。



**4** スイッチ・制御設定 (P. 23)、非常放送設定 (P. 48)、業務放送設定 (P. 58) をする。



**5** 音源データを編集する場合は、音源設定をする。(P. 66)



**6** 設定・音源データを付属の CF カードに保存する。

2つの方法があります。

### 【方法 1】

付属の CF カードに設定・音源データを保存した後、その CF カードを FS-1000 本体に挿入します。

- ① CF カードイメージを作成する。(P. 110)
- ② 設定・音源データが保存された CF カードを FS-1000 本体に挿入する。(別冊の設置説明書参照)

### 【方法 2】

FS-1000 本体とパソコンを通信接続して、FS-1000 本体に挿入された CF カードに設定・音源データをアップロードします。

- ① FS-1000 本体とパソコンを通信接続する。(P. 92)
- ② 設定・音源データを FS-1000 にアップロードする。(P. 97)

### 【ご注意】

音源データを編集していない場合も、「設定アップロード」ではなく、「設定・音源データアップロード」をしてください。



**7** CF カードの設定・音源データを FS-1000 システムに反映させる。

FS-1000 本体の設定操作部で「設定データ更新」の操作を行います。(別冊のシステム設定説明書参照)

### 【ご注意】

設定・音源データが保存された CF カードは、そのまま FS-1000 本体に挿入しておいてください。

# 設定支援ソフトウェアの準備

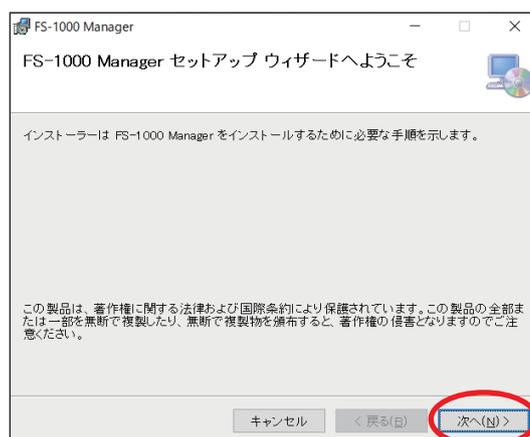
## ご注意

- 以下の作業を行うときは、すべてのアプリケーションを終了させてください。
- 設定用のパソコンには管理者アカウントでログオンしてください。

## ■ 設定支援ソフトウェア FS-1000 Manager をインストールする

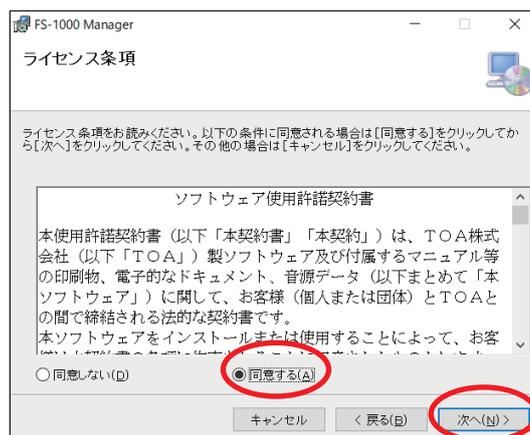
### 1 「FS-1000\_manager\_ja\_setup.msi」をダブルクリックする。

インストール画面が表示されます。



### 2 [次へ] ボタンをクリックする。

ライセンス条項の画面が表示されます。

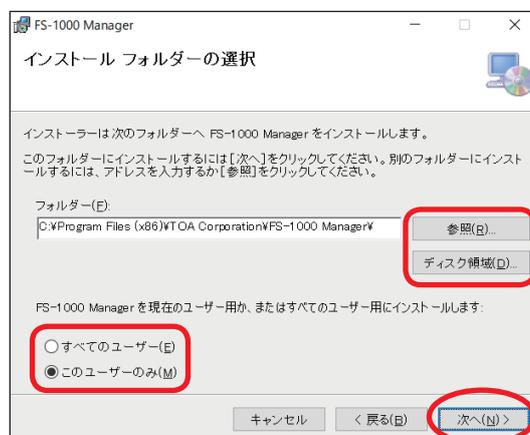


### 3 使用許諾契約に同意後、「同意する」を選択して、[次へ] ボタンをクリックする。

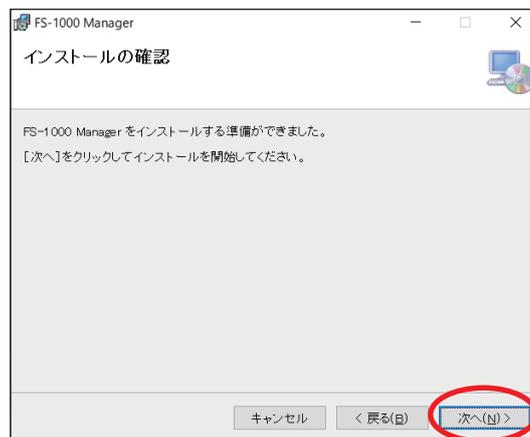
インストール先のフォルダー選択画面が表示されます。

### 4 インストール先を指定する。

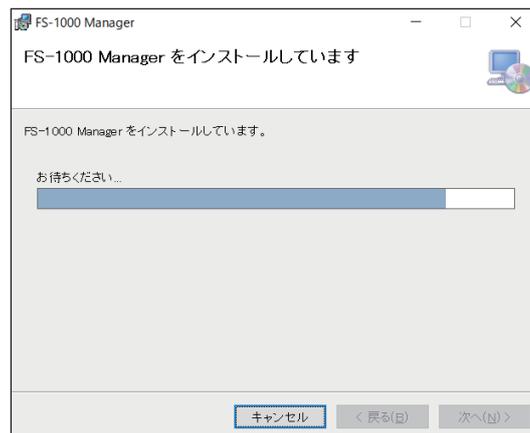
インストール先を変更する場合は、「参照」をクリックし、インストール先のフォルダーを選択してください。「ディスク領域」をクリックすると、パソコンの各ドライブの使用可能なディスク容量と、インストールに必要なディスク容量が表示されます。また、インストールを適用するユーザーについて、「すべてのユーザー」または「このユーザーのみ」のいずれかを選択してください。



**5** [次へ] ボタンをクリックする。  
確認画面が表示されます。

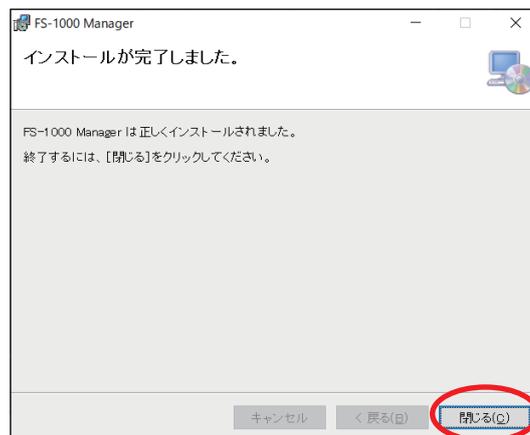


**6** [次へ] ボタンをクリックする。  
インストールが開始されます。



インストールが終了すると、完了画面が表示されます。

**7** [閉じる] ボタンをクリックする。  
これで、インストールは完了です。  
インストールが完了すると、自動的に、ショートカット  
がデスクトップに作成されます。



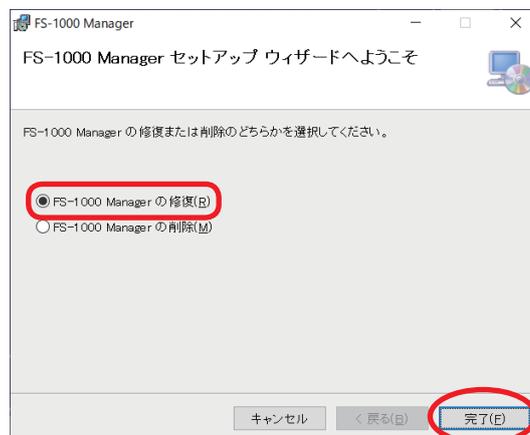
※ 設定支援ソフトウェア FS-1000 Manager をアップデートするときも、インストール手順と同様に行います。

# ■ 設定支援ソフトウェア FS-1000 Manager を修復する

※ 実行ファイルを削除してしまったときや、破損してしまったときは、以下の手順で修復を行ってください。

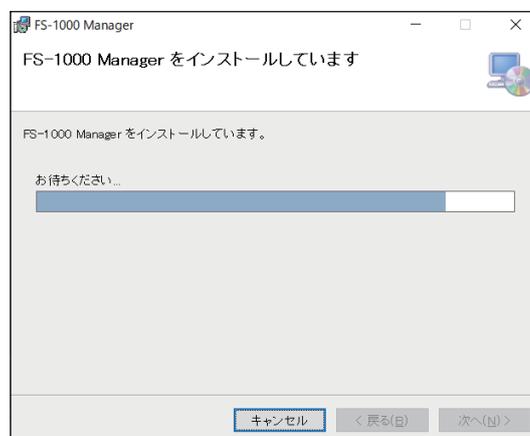
## 1 「FS-1000\_manager\_ja\_setup.msi」をダブルクリックする。

セットアップ画面が表示されます。



## 2 「FS-1000 Manager の修復」を選択し、[完了] ボタンをクリックする。

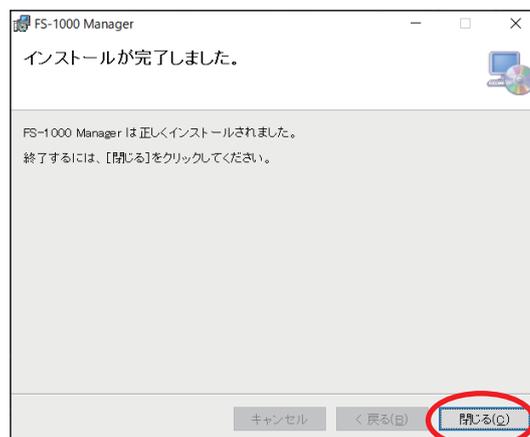
修復が開始されます。



修復が終了すると、完了画面が表示されます。

## 3 [閉じる] ボタンをクリックする。

これで、修復は完了です。



## ■ 設定支援ソフトウェア FS-1000 Manager をアンインストールする

### ● OS が Windows 10、Windows 8.1 の場合

- 1** 「コントロールパネル」を開く。  
「コントロールパネル」画面が表示されます。
- 2** 「プログラムのアンインストール」をクリックする。  
現在インストールされているプログラムが表示されます。
- 3** 「FS-1000 Manager」を選択する。
- 4** 「アンインストール」をクリックする。  
ソフトウェアがアンインストールされます。

### ● OS が Windows 7、Windows Vista の場合

- 1** デスクトップ画面のスタートボタンをクリックし、[コントロールパネル] を選択する。  
「コントロールパネル」画面が表示されます。
- 2** 「プログラムと機能」のアイコンをクリックする。  
現在インストールされているプログラムが表示されます。
- 3** 「FS-1000 Manager」を選択する。
- 4** 「アンインストール」ボタンをクリックする。  
ソフトウェアがアンインストールされます。

# 設定支援ソフトウェアを起動する

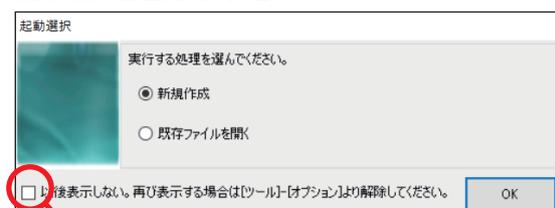
**1** インストール時、デスクトップに作成された設定支援ソフトウェア FS-1000 Manager のショートカットをダブルクリックする。

または、デスクトップ画面のスタートボタンをクリックし、プログラムから [TOA Corporation → FS-1000 Manager] を選択する。

設定支援ソフトウェア FS-1000 Manager が起動します。



起動選択画面が表示されます。



このボックスにチェックを入れると、ソフトウェアを起動するときに、次回からこの画面は表示されません。

**2** 設定データを新規作成する場合は [P. 12](#) へ進む。

既存のデータを開く場合は [P. 107](#) へ進む。

# 設定データの新規作成

- 1 設定支援ソフトウェア FS-1000 Manager の起動後に表示される起動選択画面で、「新規作成」を選択し、[OK] ボタンをクリックする。



または、メニューバーから【ファイル→ 新規作成】を選択する。

データ情報、ネットワーク情報の設定画面が表示されます。

## 2 データ情報、ネットワーク情報の設定をする。

### ① データ情報

設定データの作成者、物件名称、納入日時、作成日時、備考を入力します。  
入力できる文字数は以下のとおりです。

- 備考欄以外：36 文字（全角／半角区別なし）
- 備考欄：1000 文字（全角／半角区別なし）

### ② ネットワーク情報

FS-1000 の IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイを設定します。  
ネットワーク設定は、オンライン接続時に使用します。ネットワーク環境に合わせて、設定してください。  
詳しくは、ネットワーク管理者にご確認ください。  
FS-1000 とパソコンを接続しない場合は設定不要です。

※ デフォルトは次のとおりです。

- IP アドレス：192.168.14.1
- サブネットマスク：255.255.255.0
- デフォルトゲートウェイ：0.0.0.0

× モ

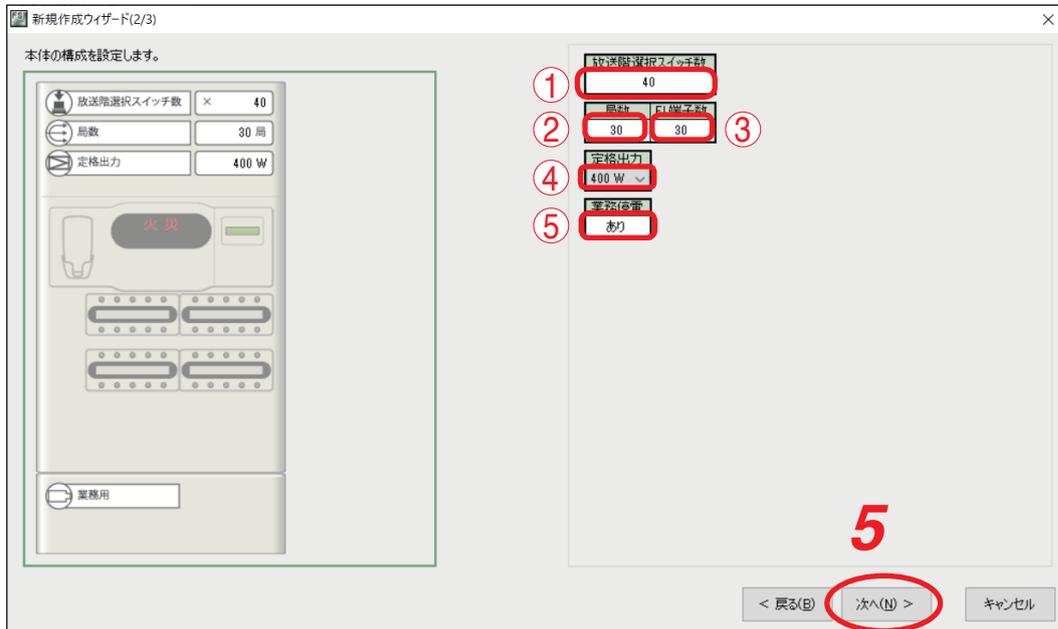
IP アドレス設定済みの FS-1000 と通信する方法については、P. 92 「FS-1000 とパソコンの通信」をお読みください。

### 3 [次へ] ボタンをクリックする。

本体の構成設定画面（手順4参照）が表示されます。

### 4 本体構成の設定をする。

[本体構成設定画面]



#### ① 放送階選択スイッチ数

ボックスまたは矢印キーをクリックし、放送階選択スイッチ数を選択します。（デフォルト：20）

設定範囲	20、30、40
------	----------

放送階選択スイッチ数、局数、EL端子数は本体ユニットの機種ごとに異なります。  
また、上記のいずれか1つを設定すると他の設定は自動的に決定されます。

機種	放送階選択スイッチ数	局数	EL端子数
FS-1010FU	20	10	10
FS-1020FU	30	20	20
FS-1030FU	40	30	30

#### ② 局数

ボックスをクリックし、局数を選択します。（デフォルト：10）

設定範囲	10、20、30
------	----------

#### ③ EL端子数

ボックスをクリックし、EL端子数を選択します。（デフォルト：10）

設定範囲	10、20、30
------	----------

#### ④ 定格出力

定格出力を選択します。（デフォルト：90 W）

設定範囲	90 W、180 W、270 W、400 W
------	------------------------

機種	出力W数
FS-1109PU	90 W
FS-1118PU	180 W
FS-1127PU	270 W
FS-1140PU	400 W

#### ご注意

「270 W」(FS-1127PU)の設定は、FS-1000 本体のファームウェアバージョンが 3.00 以降でないと使用できません。

## ⑤ 業務停電

業務用電源ユニットの有無を選択します。(デフォルト：なし)

設定範囲	なし、あり
------	-------

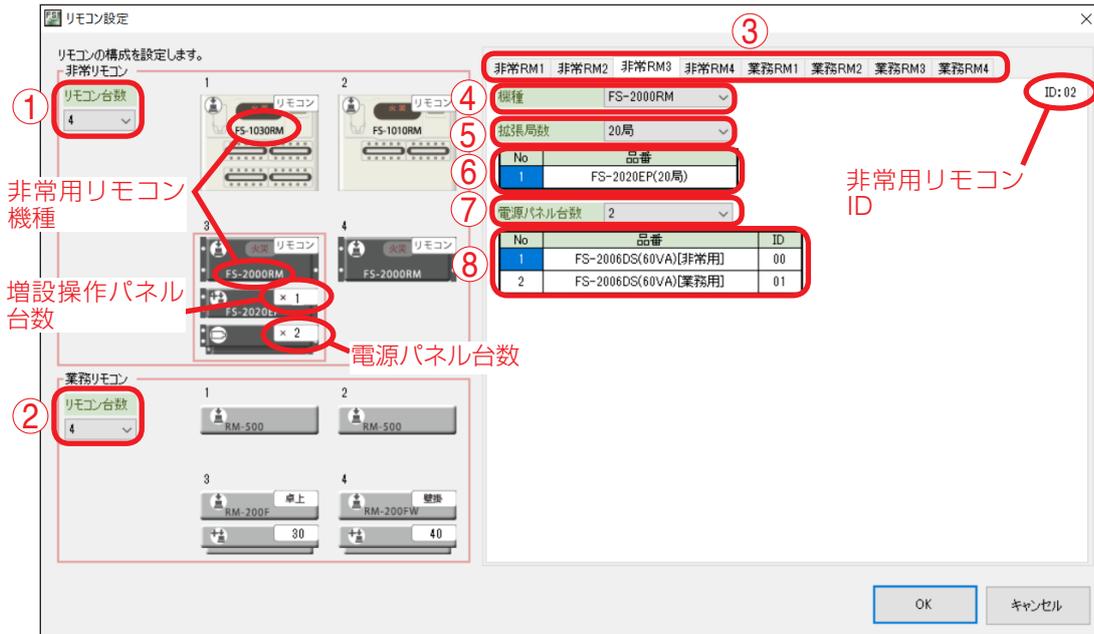
## 5 [次へ] ボタンをクリックする。

リモコンの構成設定画面(手順6参照)が表示されます。

## 6 非常用リモコンおよび業務用リモコンの設定をする。

※ 非常用リモコンおよび業務用リモコンを使用しない場合、この設定は不要です。

[リモコン構成設定画面(非常 RM3 タブ選択時)]



### ① 非常リモコン台数

ボックスまたは矢印キーをクリックし、非常用リモコン台数を選択します。(デフォルト：0台)

設定範囲	0～4
------	-----

### ② 業務リモコン台数

ボックスまたは矢印キーをクリックし、業務用リモコンの合計台数を選択します。(デフォルト：0台)

#### ご注意

接点式リモコン RM-1100 の台数は含みません。

設定範囲	0～4
------	-----

### ③ 非常 RM、業務 RM 選択タブ

設定を行いたいリモコンを選択します。

非常 RM タブを選択した場合、非常用リモコンの機種や増設操作パネル、電源パネルの設定をします。

業務 RM タブを選択した場合、業務用リモコンの機種や拡張局数の設定をします。

非常用/業務用リモコンの台数設定後に、リモコンのアイコンをクリックしても、同様の操作が行えます。

## 6-1 非常 RM タブを選択して、非常用リモコンの設定をする。

設定画面は前ページを参照してください。

### ④ 機種名

ボックスまたは矢印キーをクリックし、非常用リモコンの機種を選択します。(デフォルト：FS-1010RM)

設定範囲	FS-2000RM、FS-1010RM、FS-1020RM、FS-1030RM
------	---

※ 機種名を FS-2000RM 以外に設定した場合は、以降の⑤拡張局数、⑦電源パネル台数の設定は行えません。

### ⑤ 拡張局数

ボックスまたは矢印キーをクリックし、増設操作パネルのスイッチ数を選択します。(デフォルト：0局)

設定範囲	0局、10局、20局
------	------------

### ⑥ 増設操作パネル品番

⑤で設定した局数により、使用する増設操作パネルの品番が表示されます。

### ⑦ 電源パネル台数

ボックスまたは矢印キーをクリックし、電源パネル台数を選択します。(デフォルト：0台)  
業務停電放送機能を使用する場合と使用しない場合で、接続できる台数は異なります。

#### [業務停電放送機能を使用する場合]

設定範囲	0、2
------	-----

#### [業務停電放送機能を使用しない場合]

設定範囲	0、1
------	-----

### ⑧ 電源パネル品番

電源パネルの品番は固定になっています。

「ID」は各機器のアドレススイッチで設定が必要な番号を表します。

電源パネルの品番は以下のとおりです。

No. 1：FS-2006DS（非常用）      No. 2：FS-2006DS（業務用）

## 6-2 業務 RM タブを選択して、業務用リモコンの設定をする。

[リモコン構成設定画面（業務 RM1 タブ選択時、機種：RM-500 選択時）]

リモコンの構成を設定します。

非常リモコン

リモコン台数 4

リモコン 1 FS-1010RM 2 FS-1010RM 3 FS-2000RM 4 FS-2000RM

業務リモコン

リモコン台数 4

リモコン 1 RM-500 2 RM-500 3 RM-200F 4 RM-200FW

非常RM1 非常RM2 非常RM3 非常RM4 業務RM1 業務RM2 業務RM3 業務RM4

機種 RM-500 9

ページ数 1ページ 10

バックライト消灯時間 3分 11

操作音 ON 12

マイク表示灯 ON 13

キーロック 使用しない 14

ID:00

業務用リモコン ID

業務用リモコン機種

7

< 戻る(B) 完了(E) キャンセル

[リモコン構成設定画面（業務 RM3 タブ選択時、機種：RM-200F（卓上）選択時）]



### ⑨ 業務リモコン機種

ボックスをクリックし、業務用リモコンの品番を選択します。（デフォルト：RM-500）

設定範囲	RM-500、RM-200F（卓上）、RM-200FW（壁掛）
------	---------------------------------

### ⑩ ページ数（機種が RM-500 の場合のみ）

ボックスをクリックし、液晶画面に表示するページ数を選択します。（デフォルト：1）

設定範囲	1～4
------	-----

### ⑪ バックライト消灯時間（機種が RM-500 の場合のみ）

ボックスをクリックし、RM-500 の操作をしていないときに液晶画面のバックライトが消灯するまでの時間を設定します。（デフォルト：3分）

バックライトを点灯させると、暗い所でも見やすくなりますが、点灯時間が長くなるほど、バックライトの寿命が短くなります。

設定範囲	常時 OFF、1～15分（1分間隔）、常時 ON
------	--------------------------

### ⑫ 操作音（機種が RM-500 の場合のみ）

ボックスをクリックし、RM-500 の各キーを押したときに操作確認音を鳴らすかどうかを設定します。（デフォルト：ON）

設定範囲	ON、OFF
------	--------

### ⑬ マイク表示灯（機種が RM-500 の場合のみ）

ボックスをクリックし、RM-500 のマイク使用中にマイク表示灯を点灯させるかどうかを設定します。（デフォルト：ON）

設定範囲	ON、OFF
------	--------

### ⑭ キーロック（機種が RM-500 の場合のみ）

ボックスをクリックし、キーロック機能を使用するかどうかを設定します。使用する設定にすると、キーロック操作が有効になります。（デフォルト：使用しない）

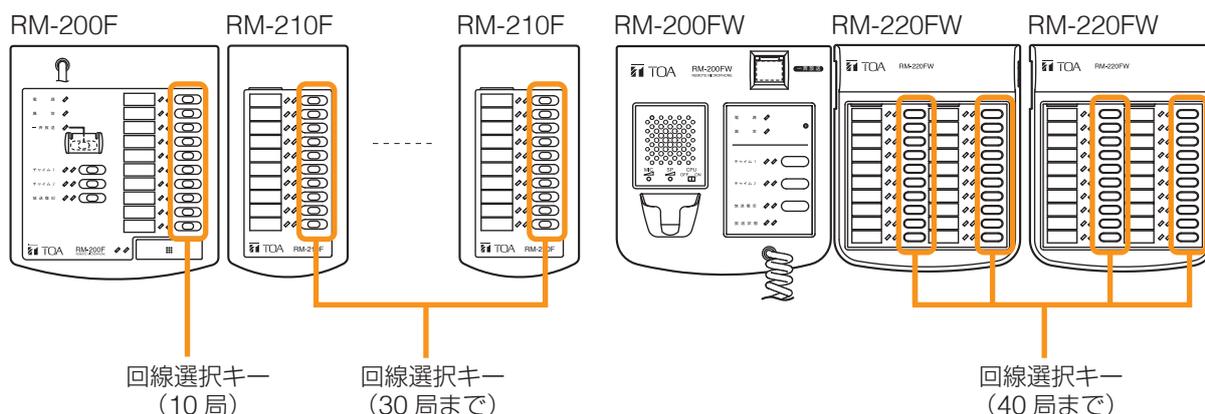
設定範囲	使用しない、使用する
------	------------

### ⑮ 拡張局数（機種が RM-500 以外の場合）

ボックスまたは矢印キーをクリックし、拡張局数を設定します。（デフォルト：0 局）

業務用リモコンの機種により、設定できる局数は異なります。

拡張できる局数は、RM-200F のときは 30 局まで、RM-200FW のときは 40 局までです。



#### [RM-200F を使用する場合]

設定範囲	0 ~ 30 (10 局単位)
------	-----------------

#### [RM-200FW を使用する場合]

設定範囲	0 ~ 40 (20 局単位)
------	-----------------

#### ご注意

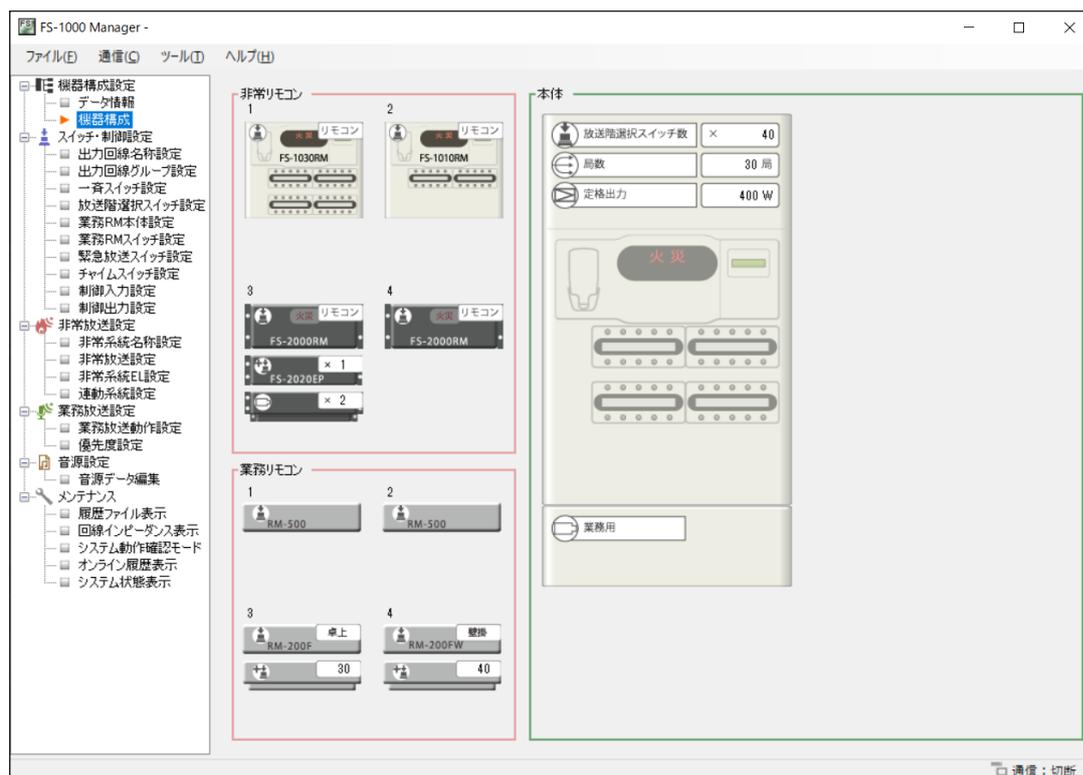
RM-200FW は 20 局単位でのみ拡張可能です。

拡張ユニットを使用する場合は、局数の値に注意して 20 局単位で設定を行ってください。

## 7 [完了] ボタンをクリックする。

機器構成設定が完了し、機器構成画面が表示されます。

途中で [キャンセル] ボタンをクリックした場合も、この画面が表示されます。



# 設定の項目

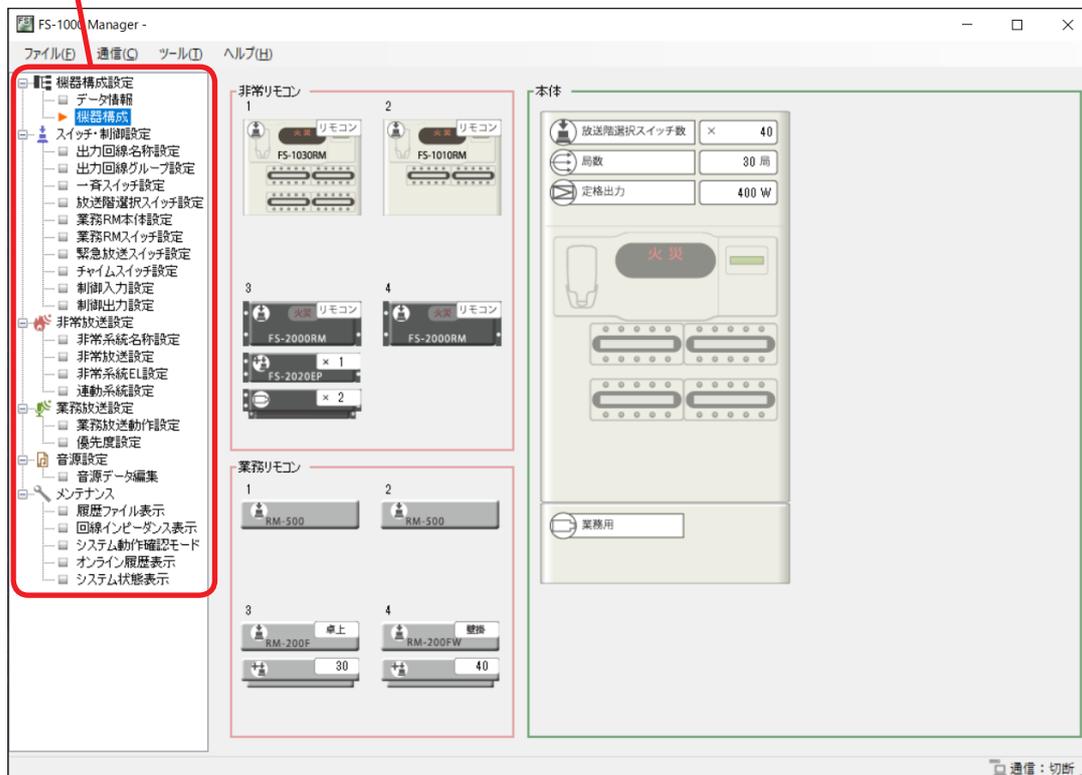
設定画面左に表示されているのが、メニュー項目です。

「機器構成設定」から「業務放送設定」まで、上から順番に設定していきます。

新規作成で機器構成設定が完了している場合は、スイッチ・制御設定から設定していきます。

メニュー項目をクリックすると、各項目の設定画面が表示されます。

メニュー項目



## ■ メニュー構成

機器構成設定 (P. 21)	データ情報 (P. 21)	物件情報およびネットワーク情報を設定します。
	機器構成 (P. 22)	機器の構成を決定します。
スイッチ・制御設定 (P. 23)	出力回線名称設定 (P. 23)	出力回線の名称を設定します。
	出力回線グループ設定 (P. 24)	出力回線のグループ設定を行います
	一斉スイッチ設定 (P. 29)	FS-1000 本体および非常用・業務用リモコンの一斉スイッチの設定をします。
	放送階選択スイッチ設定 (P. 30)	FS-1000 本体および非常用リモコンの回線選択スイッチの設定をします。
	業務 RM 本体設定 (P. 33)	業務用リモコンの動作を設定します。
	業務 RM スイッチ設定 (P. 37)	業務用リモコンのキーの設定をします。
	緊急放送スイッチ設定 (P. 39)	緊急放送スイッチの設定をします。
	チャイムスイッチ設定 (P. 41)	FS-1000 本体および非常用・業務用リモコンのチャイムスイッチの設定をします。
	制御入力設定 (P. 42)	制御入力の設定をします。
制御出力設定 (P. 46)	制御出力の設定をします。	
非常放送設定 (P. 48)	非常系統名称設定 (P. 48)	非常系統の名称を設定します。
	非常放送設定 (P. 50)	非常放送時の動作を設定します。
	非常系統 EL 設定 (P. 53)	階別信号の設定をします。
	連動系統設定 (P. 54)	放送階の連動設定をします。
業務放送設定 (P. 58)	業務放送動作設定 (P. 58)	業務放送時の動作を設定します。
	優先度設定 (P. 64)	音源の優先度を設定します。
音源設定 (P. 66)	音源データ編集 (P. 66)	内蔵音源データを編集します。
メンテナンス (P. 85)	履歴ファイル表示 (P. 85)	履歴を表示します。
	回線インピーダンス表示 (P. 87)	ダウンロードして取得したインピーダンス値を表示します。
	システム動作確認モード設定 (P. 88)	システム動作確認時の動作を設定します。
	オンライン履歴表示 (P. 90)	履歴をオンラインで表示します。
	システム状態表示 (P. 91)	システムの状態をオンラインで表示します。

# ■ メニューバーの項目と解説

## ● ファイル (F)

- 新規作成 (N) : FS-1000 システムの設定データを新規作成します。(P. 12)
- 開く (O)  
設定ファイル (S) : FS-1000 システムの設定データを読み込みます。(P. 107)  
履歴ファイル (H) : FS-1000 システムの履歴データを読み込みます。(P. 86)  
上書き保存 (S) : 編集中の FS-1000 システムの設定データを上書き保存します。(P. 108)
- 名前をつけて保存 (A) : 編集中の FS-1000 システムの設定データを名前をつけて保存します。(P. 108)
- CF カードイメージの読み込み (R) : CF カードから設定データと音源データを読み込みます。(P. 109)  
CF カードイメージを作成 (W) : CF カードに、適切なフォルダー名とファイル名で、設定データと音源データを保存します。(P. 110)
- 設定データ出力 (B) : 設定支援ソフトウェア FS-1000 Manager で設定したデータを出力します。(P. 105)
- ラベル出力 (L) : FS-1000 本体、非常用リモコンおよび業務用リモコンのラベルを出力します。(P. 101)
- 履歴出力 (H) : 設定支援ソフトウェア FS-1000 Manager に読み込んだ FS-1000 システムの履歴データを出力します。(P. 104)
- 終了 (X) : 設定支援ソフトウェア FS-1000 Manager を終了します。(P. 111)

## ● 通信 (C)

- 接続 (C) : FS-1000 とパソコンを接続します。(P. 92)  
切断 (D) : FS-1000 とパソコンの通信を切断します。(P. 94)
- 設定ダウンロード (本体 CF → PC) (R) : FS-1000 の CF カードの設定データを読み込みます。(P. 96)
- 設定アップロード (PC → 本体 CF) (W) : FS-1000 の CF カードに設定データを書き込みます。(P. 95)
- 設定・音源ダウンロード (本体 CF → PC) (O) : FS-1000 の CF カードの設定・音源データを読み込みます。(P. 98)
- 設定・音源アップロード (PC → 本体 CF) (U) : FS-1000 の CF カードに設定・音源データを書き込みます。(P. 97)
- 履歴ファイル取得 (H) : FS-1000 の CF カードの履歴データを読み込みます。(P. 99)
- 通信設定 (S) : FS-1000 とパソコンを接続するときの通信設定をします。(P. 92)

## ● ツール (T)

- 設定をコピー (C)  
本体・非常用リモコン (E) : FS-1000 または非常用リモコンの設定内容を設定対象にコピーします。(P. 106)  
業務用リモコン (G) : 業務用リモコンの設定内容を設定対象にコピーします。(P. 106)
- オプション (O) : 設定支援ソフトウェア FS-1000 Manager 起動時の画面選択をします。(P. 11)

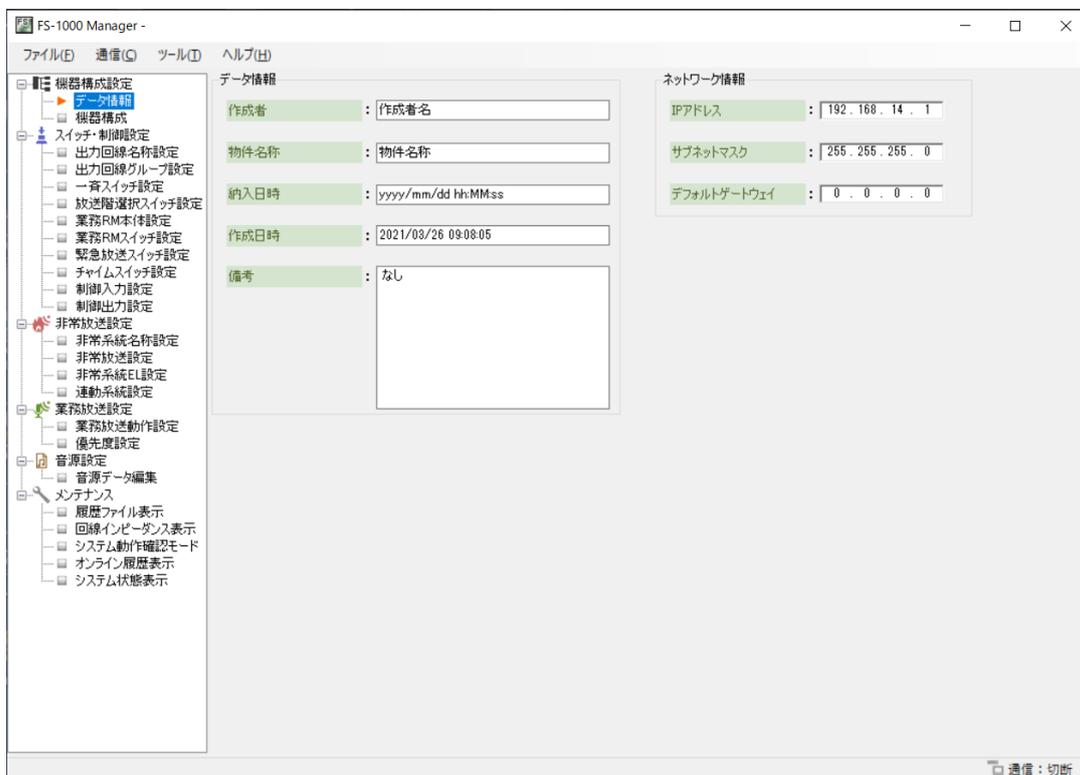
## ● ヘルプ (H)

- バージョン情報 (A) : 設定支援ソフトウェア FS-1000 Manager のバージョン情報を表示します。

# 機器構成設定

## ■ データ情報

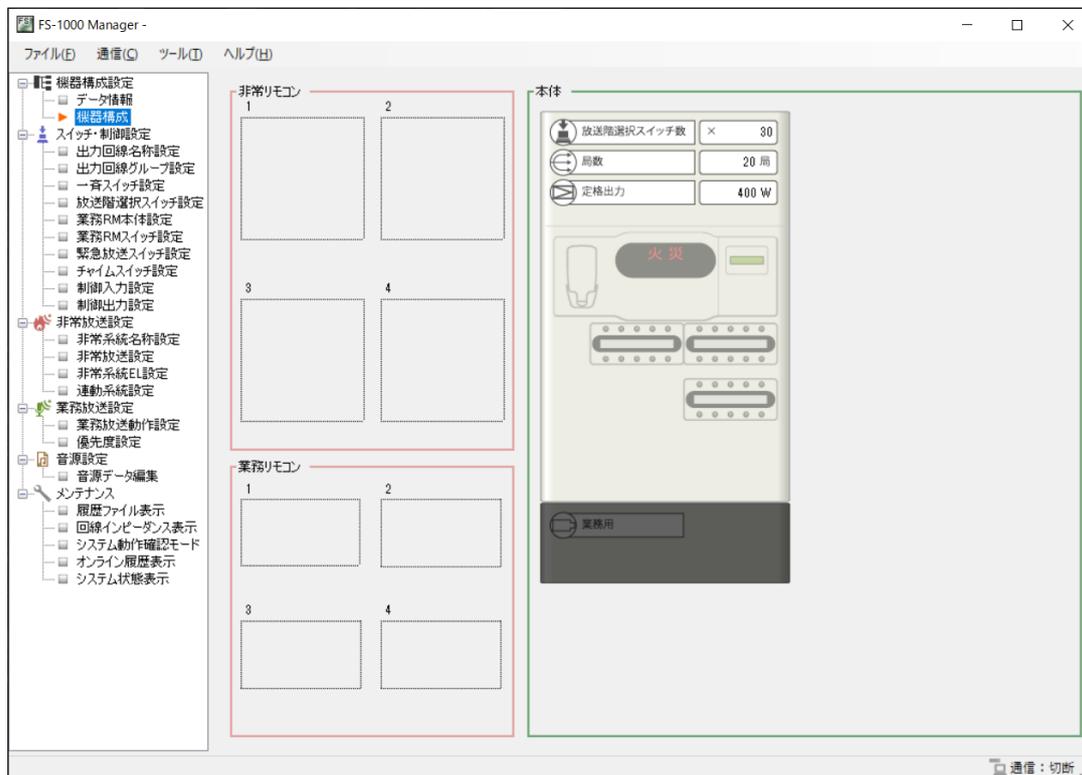
メニュー項目の「機器構成設定」→「データ情報」をクリックすると、データ情報画面が表示されます。設定データ作成時の情報およびネットワークの設定を行います。設定の詳細については、P. 12「設定データの新規作成」をお読みください。



## ■ 機器構成

メニュー項目の「機器構成設定」→「機器構成」をクリックすると、機器構成設定画面が表示されます。FS-1000 本体、業務用電源パネル、非常用リモコン、業務用リモコン、デジタルパワーアンプの設定を行います。

設定の詳細については P. 12 「設定データの新規作成」をお読みください。



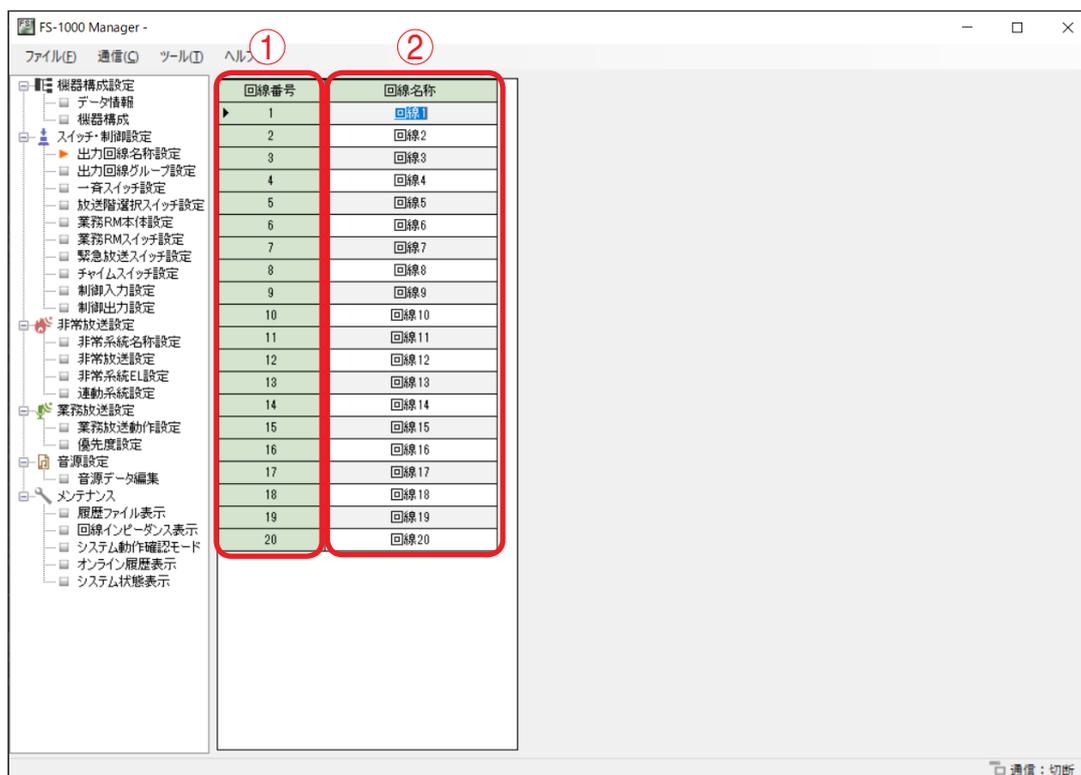
# スイッチ・制御設定

FS-1000 本体、非常用リモコン、および業務用リモコンのスイッチ、制御入出力などの設定を行います。

## ■ 出力回線名称設定

メニュー項目の「スイッチ・制御設定」→「出力回線名称設定」をクリックすると、出力回線名称設定画面が表示されます。

各出力回線の回線名称を変更することができます。



### ① 回線番号

出力回線の番号を表示します。

### ② 回線名称

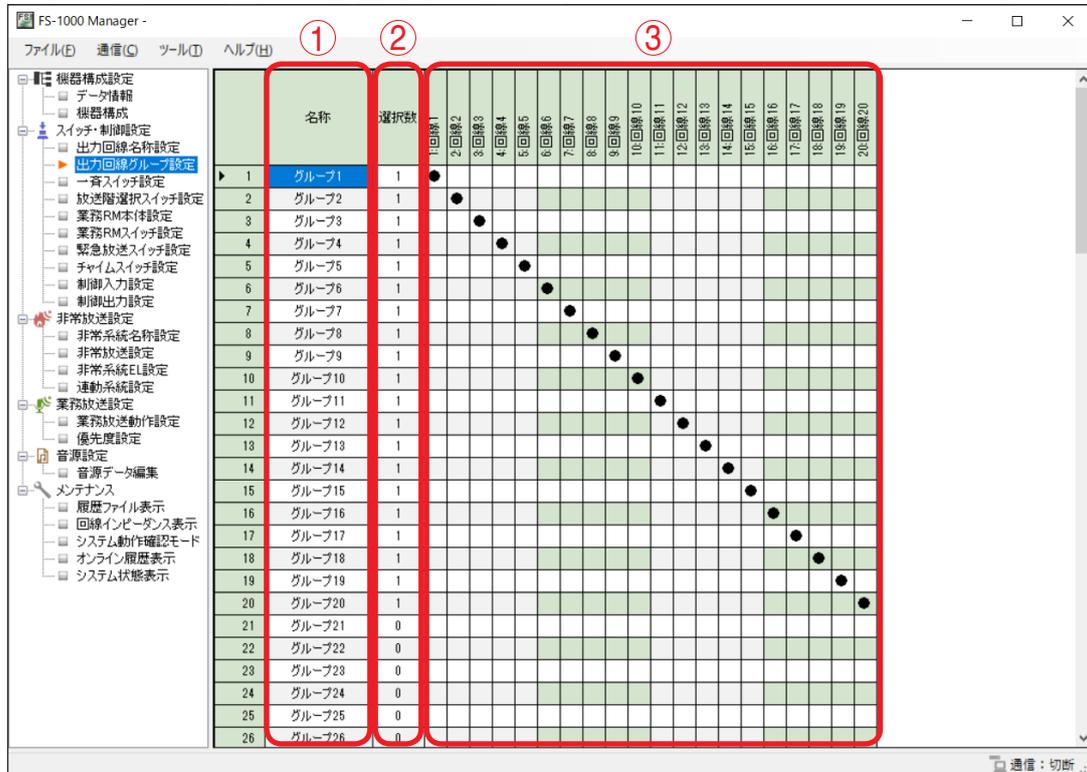
出力回線の名称を設定します。(デフォルト：回線 1～回線 30)

設定範囲	半角 32 文字以内、全角 16 文字以内
------	-----------------------

# ■ 出力回線グループ設定

メニュー項目の「スイッチ・制御設定」－「出力回線グループ設定」をクリックすると、出力回線グループ設定画面が表示されます。

設定した出力回線グループを割り当てることで、非常放送および業務放送を行うときに、複数の回線へ放送することができます。



## ① 名称

出力回線グループの名称を設定します。(デフォルト：グループ 1 ～ 100)

設定範囲	半角 32 文字以内、全角 16 文字以内
------	-----------------------

## ② 選択数

グループに割り当てられた出力回線の数を表示します。

## ③ 出力回線 ON/OFF

グループに割り当てる回線を設定します。(設定のしかた [次ページ](#))

使用する回線には「●」がつかます。

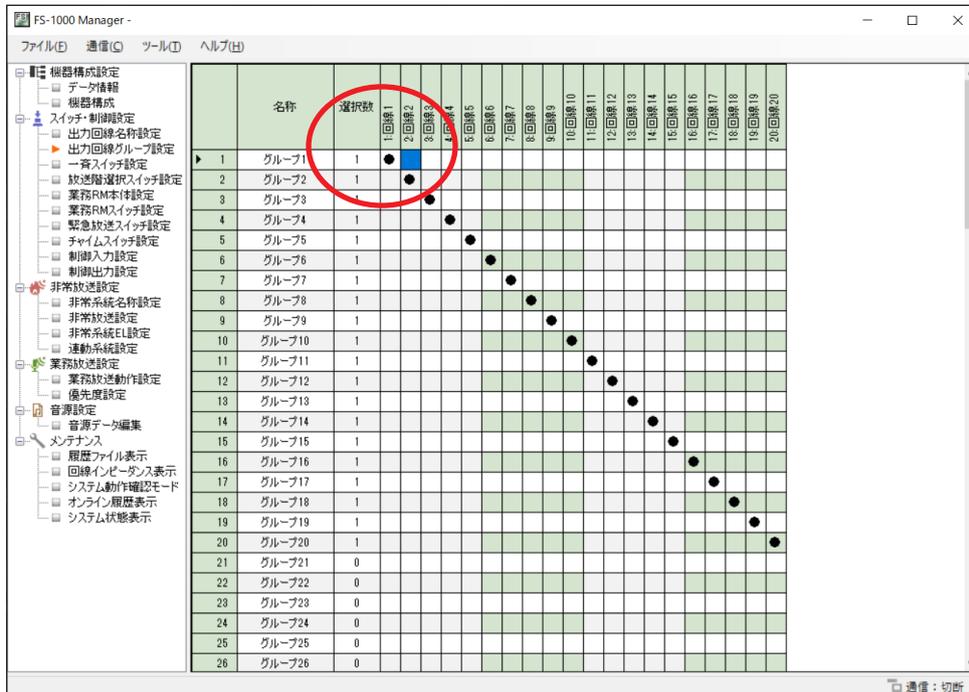
また、グループ 100 は、全回線が選択されています。

## ● 設定のしかた

### [1 回線を追加するときの例]

#### 1 追加したい回線のセルをクリックする。

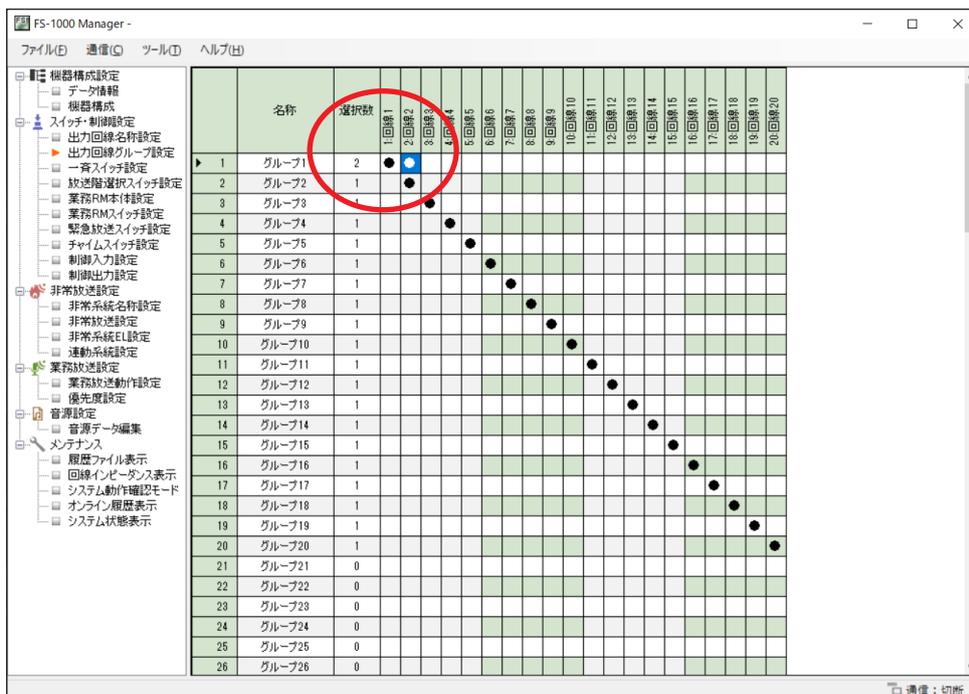
選択されたセルの色が青色になります。  
(グループ 1 の回線 2 を選択した例)



#### 2 回線を選択した状態でダブルクリックするか、または Enter キーを押す。

選択した箇所に「●」がつき、選択数が「1」から「2」に変化します。

(グループ 1 に回線 2 を追加した例)

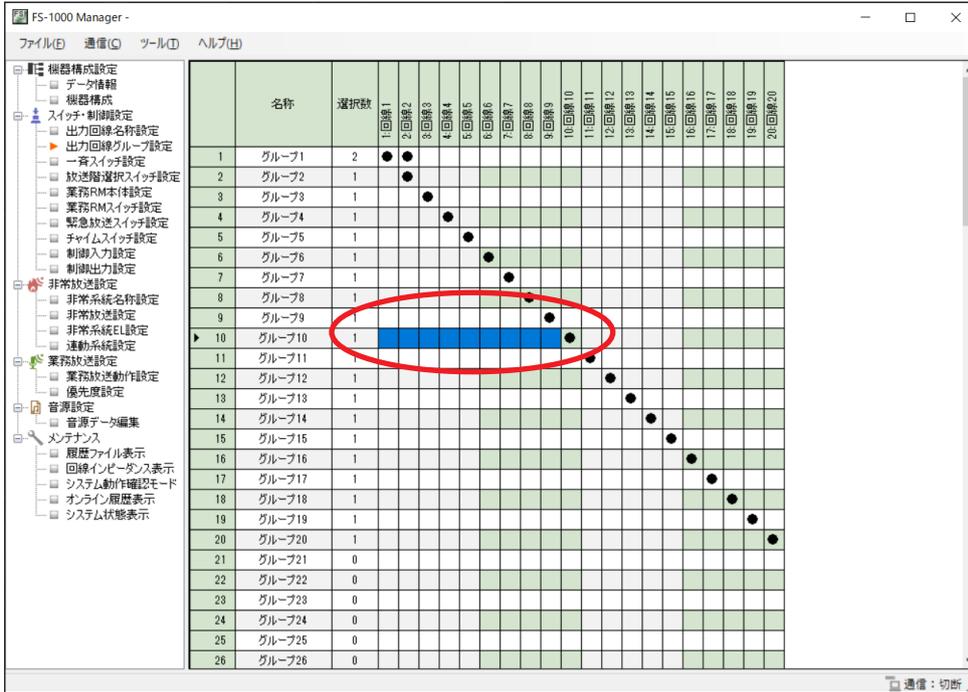


#### メモ

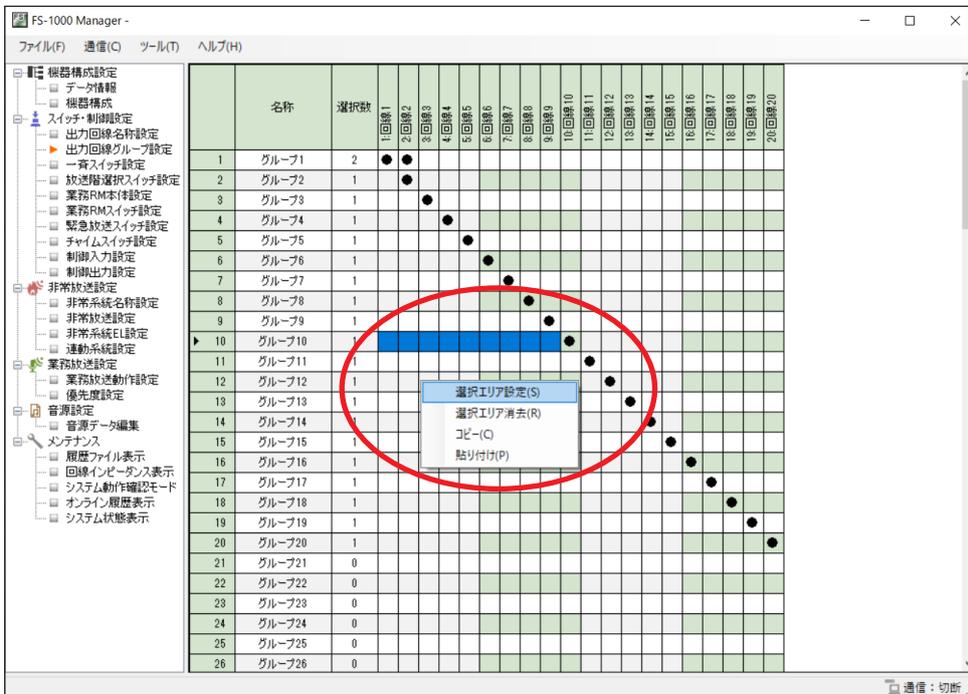
選択されている箇所をダブルクリック、または Delete キーを押すと選択が解除されます。

【複数回線を追加するときの例】

- 追加したい回線のセルをドラッグする。  
 選択されたセルの色が青色になります。  
 (グループ 10 の回線 1 ~ 9 を選択した例)

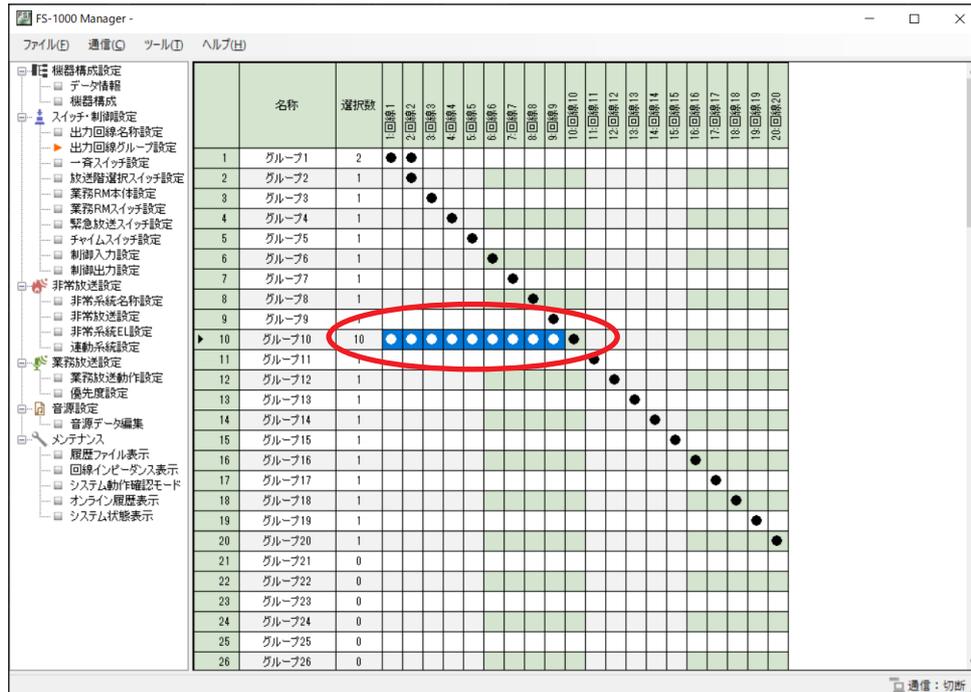


- Enter キーを押すか、またはマウスを右クリックし「選択エリア設定」をクリックする。  
 (マウスを右クリックした例)



選択した箇所に「●」がつき、選択数が増加します。

(グループ 10 に回線 1～9 を追加した例)

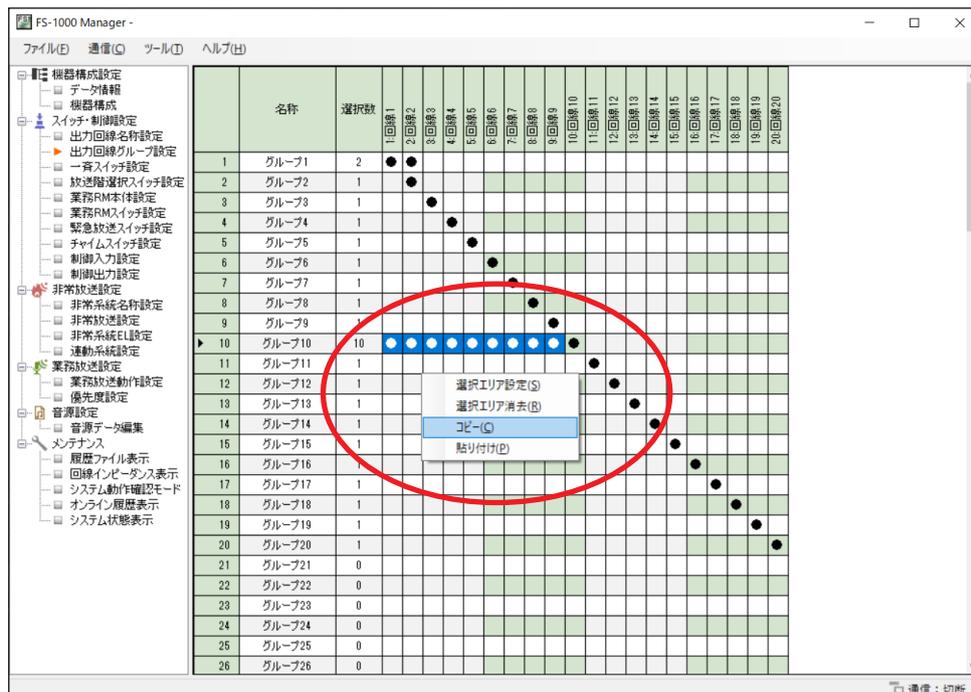


× 毛

解除したい回線を選択し Delete キーを押すか、またはマウスの右クリックで「選択エリア消去」を選択すると、複数回線の選択を解除できます。

### [回線の選択状態をコピーして貼り付けるときの例]

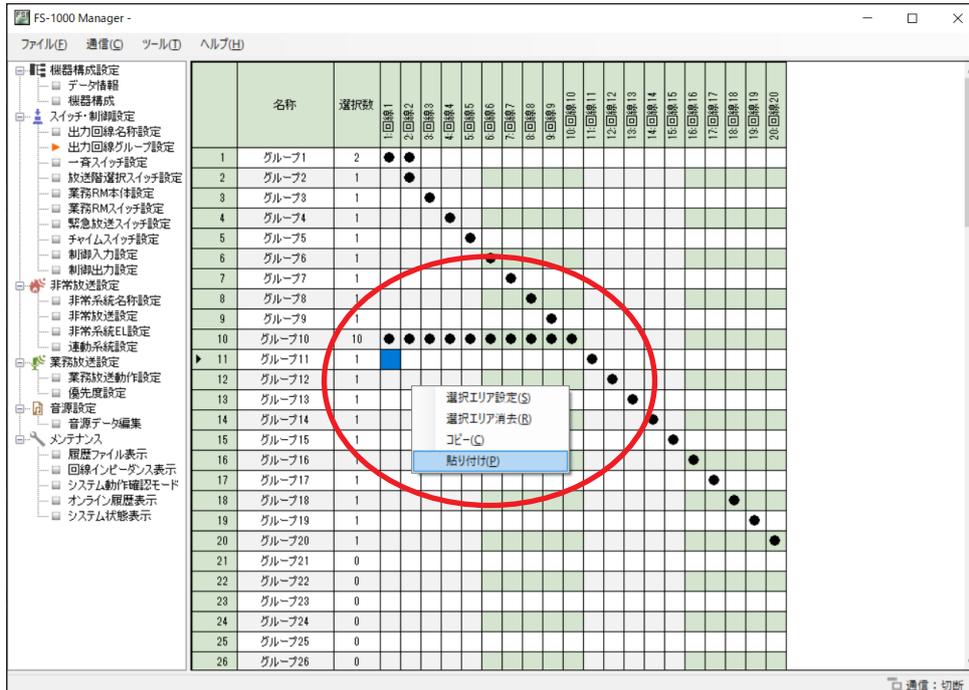
- 1 コピーしたい回線のセルを 1 つクリックするか、または複数箇所ドラッグする。  
選択されたセルの色が青色になります。
- 2 マウスを右クリックし「コピー」をクリックする。



### 3 貼り付けしたい回線のセルの先頭をクリックする。

選択されたセルの色が青色になります。

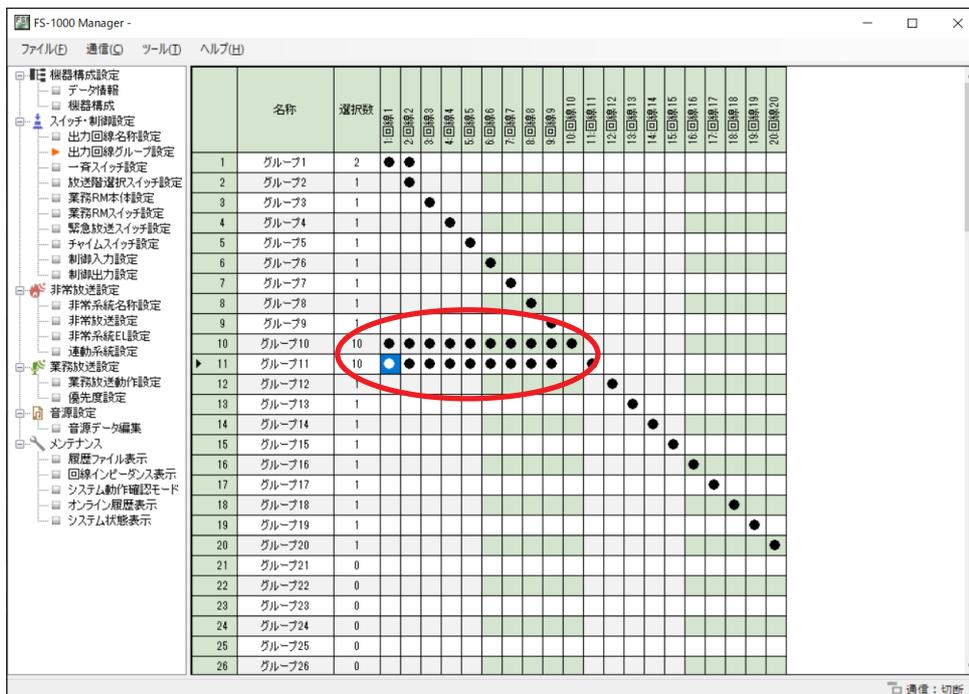
### 4 マウスを右クリックし「貼り付け」をクリックする。



選択した箇所に「●」がつき、選択数が「1」から「2」に変化します。

貼り付けた箇所に「●」がつき、選択数が貼り付けた数だけ増加します。

(グループ 11 に回線 1～9 を追加した例)

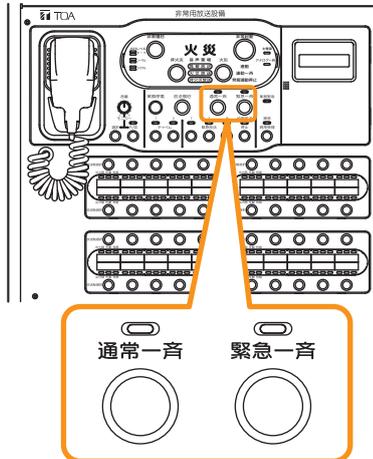


# ■ 一斉スイッチ設定

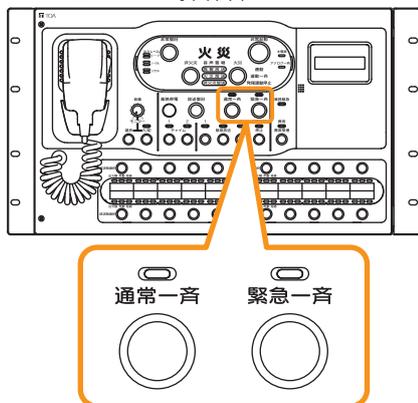
メニュー項目の「スイッチ・制御設定」→「一斉スイッチ設定」をクリックすると、一斉スイッチ設定画面が表示されます。

FS-1000 本体および非常用リモコンの通常一斉放送スイッチと緊急一斉放送スイッチ、業務用リモコンの一斉放送キーに任意の出力回線グループを設定することができます。

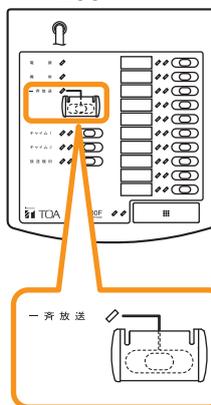
FS-1000 本体、RM-1000 操作部



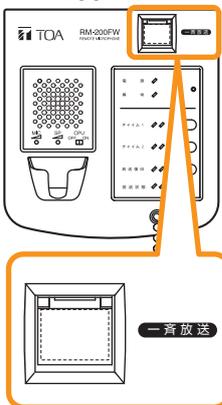
FS-2000RM 操作部



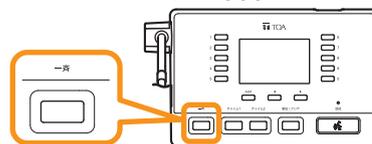
RM-200F



RM-200FW



RM-500



## ご注意

機器構成設定で未設定のユニットについては設定できません。

FS-1000 Manager -

① ② ③

機器	SW名称	グループ番号	緊急	回線数	1回線1	2回線2	3回線3	4回線4	5回線5	6回線6	7回線7	8回線8	9回線9	10回線10	11回線11	12回線12	13回線13	14回線14	15回線15	16回線16	17回線17	18回線18
1	本体	通常一斉	100グループ100	<input type="checkbox"/>	20	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
2	本体	緊急一斉	100グループ100	<input checked="" type="checkbox"/>	20	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
3	非常RM1	通常一斉	100グループ100	<input type="checkbox"/>	20	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
4	非常RM1	緊急一斉	100グループ100	<input checked="" type="checkbox"/>	20	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
5	非常RM2	通常一斉	100グループ100	<input type="checkbox"/>	20	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
6	非常RM2	緊急一斉	100グループ100	<input checked="" type="checkbox"/>	20	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
7	非常RM3	通常一斉	100グループ100	<input type="checkbox"/>	20	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
8	非常RM3	緊急一斉	100グループ100	<input checked="" type="checkbox"/>	20	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
9	非常RM4	通常一斉	100グループ100	<input type="checkbox"/>	20	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
10	非常RM4	緊急一斉	100グループ100	<input checked="" type="checkbox"/>	20	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
11	業務RM1	一斉スイッチ	100グループ100	<input type="checkbox"/>	20	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
12	業務RM2	一斉スイッチ	100グループ100	<input type="checkbox"/>	20	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
13	業務RM3	一斉スイッチ	100グループ100	<input type="checkbox"/>	20	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
14	業務RM4	一斉スイッチ	100グループ100	<input type="checkbox"/>	20	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

### ① グループ番号

任意の出力回線グループ番号を設定します。(デフォルト：グループ 100)

設定範囲	1 ~ 100
------	---------

## ② 緊急

一斉放送時に、アッテネーターを有効にするか無効にするかを設定します。

アッテネーターを有効にするときは、チェックを外します。(緊急なし)

アッテネーターの設定に関係なく常に最大音量で放送するときは、チェックを入れます。(緊急あり)

業務用リモコンのみ変更が可能です。(デフォルト：緊急なし)

設定範囲	緊急あり、緊急なし
------	-----------

## ③ 回線数、回線選択表示

通常一斉放送スイッチ、緊急一斉放送スイッチ、および一斉放送キーに設定されたグループ番号の出力回線数と、出力先を表示します。

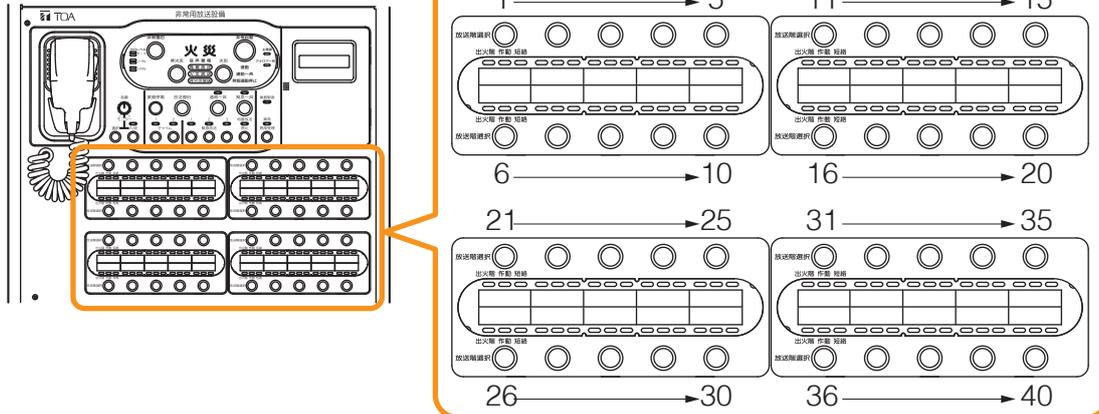
# ■ 放送階選択スイッチ設定

メニュー項目の「スイッチ・制御設定」→「放送階選択スイッチ設定」をクリックすると、放送階選択スイッチ設定画面が表示されます。

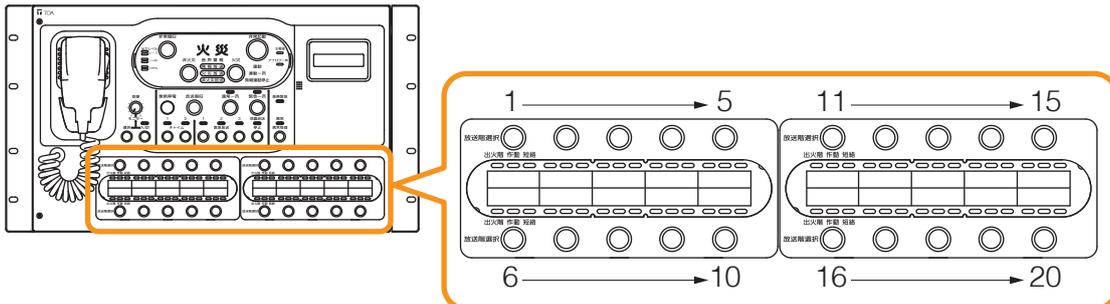
FS-1000 本体または非常用リモコンの放送階選択スイッチに、用途や出力回線などの設定をします。

放送階選択スイッチおよびスイッチ番号は下図のとおりです。

FS-1000本体、RM-1000操作部  
(30局の場合)

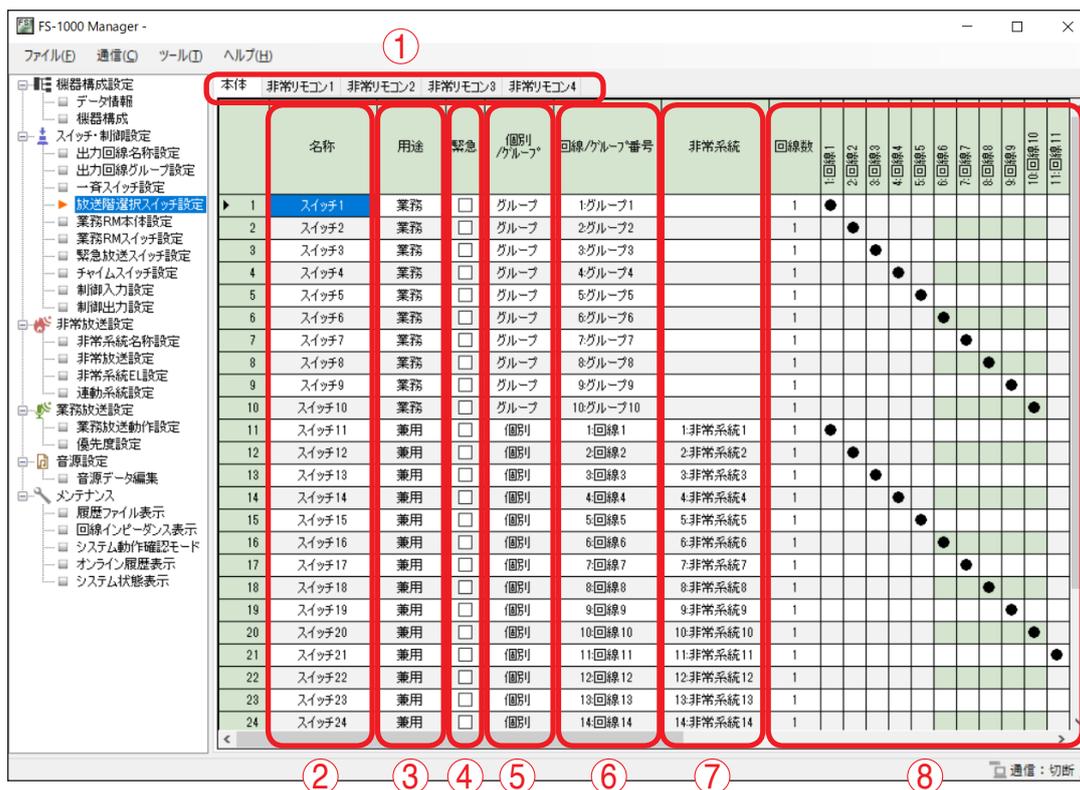


FS-2000RM 操作部



## ご注意

機器構成設定で未設定のユニットについては設定できません。



### ① ユニット選択タブ

「本体」(FS-1000) または「非常リモコン 1～4」の放送階選択スイッチ設定画面を切り換えます。

### ② 名称

スイッチの名称を設定します。(デフォルト：スイッチ 1～最大スイッチ数)

設定範囲	半角 32 文字以内、全角 16 文字以内
------	-----------------------

### ③ 用途

スイッチの用途を設定します。(デフォルト：兼用)

設定範囲	非常、業務、兼用、BGM、未使用
------	------------------

### ④ 緊急

放送時に、アッテネーターを有効にするか無効にするかを設定します。

アッテネーターを有効にするときは、チェックを外します。(緊急なし)

アッテネーターの設定に関係なく常に最大音量で放送するときは、チェックを入れます。(緊急あり)

(デフォルト：緊急なし ※用途が「非常」の場合、緊急あり)

設定範囲	緊急あり、緊急なし
------	-----------

#### ご注意

スイッチの用途を「非常」、「BGM」、「未使用」にしたときは変更できません。

### ⑤ 個別／グループ

出力回線を個別またはグループに設定します。(デフォルト：個別)

スイッチの用途が「未使用」のときは設定できません。

設定範囲	個別、グループ
------	---------

## ⑥ 回線／グループ番号

出力回線を設定します。

スイッチの用途が「未使用」のときは、設定できません。

設定可能な回線番号は局数によって決まります。(参照 P. 23「出力回線名称設定」)

### 【個別の場合】

設定範囲	1～出力回線最大数
------	-----------

### 【グループの場合】

設定範囲	1～100
------	-------

## ⑦ 非常系統

非常系統を設定します。

スイッチの用途を「業務」、「BGM」、「未使用」にしたときは変更できません。

設定範囲	1～30 ※ 名称は「非常系統名称設定」(参照 P. 48)で登録した内容となります。
------	---

## ⑧ 回線数、回線選択表示

放送階選択スイッチに設定された出力回線数と、出力先を表示します。

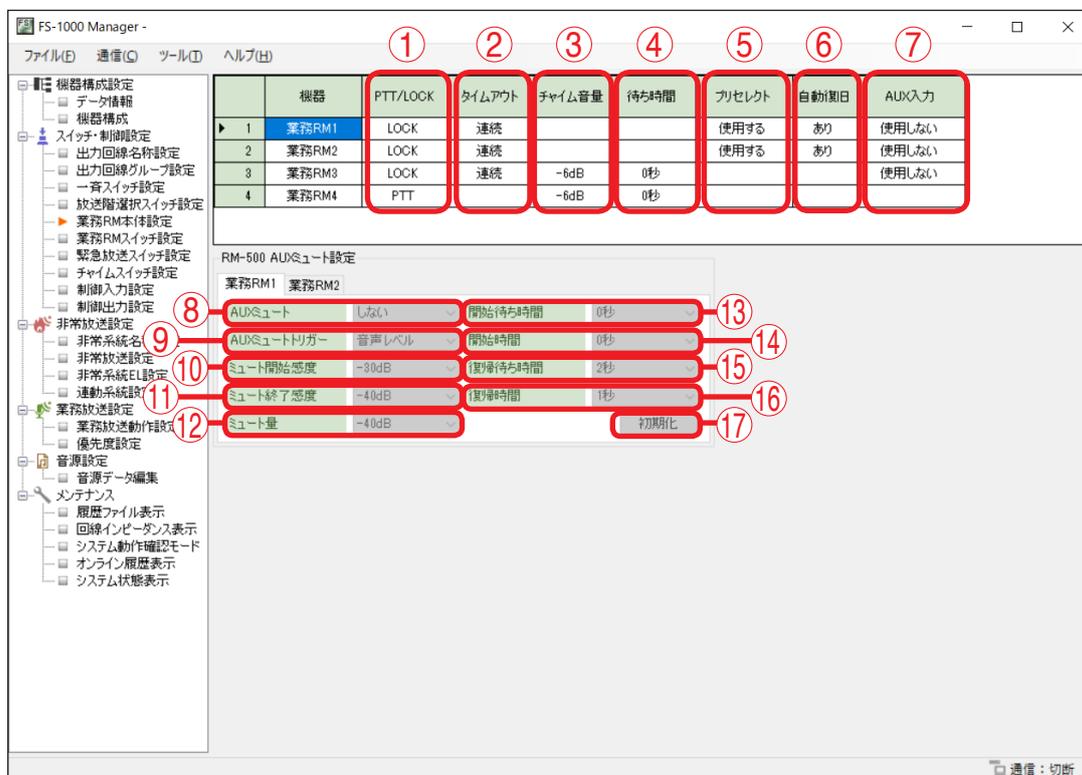
# ■ 業務 RM 本体設定

メニュー項目の「スイッチ・制御設定」→「業務 RM 本体設定」をクリックすると、業務 RM 本体設定画面が表示されます。

業務用リモコンの動作設定をします。

## ■ ご注意

機器構成設定で未設定のユニットについては設定できません。



### ① PTT/LOCK

RM-500、RM-200F のトークキーの操作方式を選択します。(デフォルト：LOCK)  
RM-200FW は PTT 式で固定となります。

設定範囲	LOCK、PTT
------	----------

#### メモ

トークキーの操作方式にはロック式 (LOCK) とプレストーク式 (PTT) があります。

LOCK : トークキーを一度押すとマイク放送が可能になり、もう一度押すとマイク放送を終了します。

PTT : トークキーを押している間だけマイク放送が可能です。

### ② タイムアウト

マイクを切り忘れたときのために、自動的に放送を終了させる時間を選択します。(デフォルト：連続)

※ トークキーの操作方式が「LOCK」の場合のみ選択できます。

設定範囲	連続、1～20分
------	----------

### ③ チャイム音量 (RM-200F、RM-200FW の場合のみ)

業務用リモコンから放送されるチャイムの音量を選択します。(デフォルト：-6 dB)

設定範囲	0～-20 dB ※ 2 dB ステップ
------	----------------------

④ **待ち時間 (RM-200F、RM-200FW の場合のみ)**

業務用リモコンのトークキーを押してから放送開始までの時間\*を設定します。(デフォルト：0秒)  
デジタルパワーアンプや回線リレーの起動時間に合わせて設定してください。

\* マイク放送開始時のチャイム音を「未使用」にしている場合は、マイク放送が始まるまでの時間、チャイム音を放送する設定にしている場合は、チャイムが放送されるまでの時間になります。

設定範囲	0秒、0.5秒、1.0秒、1.5秒、2.0秒、3.0秒、4.0秒
------	----------------------------------

⑤ **プリセレクト (RM-500 の場合のみ)**

放送開始時にプリセレクト機能を使用するか、使用しないかを設定します。(デフォルト：使用しない)

使用しない：放送階を選択した時点で放送を開始します。

使用する：放送階の選択で予備選択状態に移行し、トークキーまたはAUXキーの操作で放送を開始します。

設定範囲	使用しない、使用する
------	------------

⑥ **自動復旧 (RM-500 の場合のみ)**

トークキーのオフにより放送を終了するかどうかを設定します。(デフォルト：あり)

**[プリセレクトの設定を「使用しない」に設定したとき]**

あり：トークキーをオフにした時点で放送を終了します。

なし：トークキーをオフにしても放送を継続します。

設定範囲	あり、なし
------	-------

**[プリセレクトの設定を「使用する」に設定したとき]**

あり：トークキーまたはAUXキーをオフにすると放送階の予備選択状態に戻ります。

なし：トークキーまたはAUXキーをオフにしても放送を継続します。

設定範囲	あり、なし
------	-------

⑦ **AUX入力 (RM-500、RM-200F の場合のみ)**

RM-500またはRM-200FのAUX入力を使用するか選択します。(デフォルト：使用しない)

※ RM-200Fの場合は、内部のジャンパー設定の変更も必要です。

設定範囲	使用しない、使用する
------	------------

⑧ **AUXミュート (RM-500 の場合のみ)**

AUX入力を使用する場合、マイク使用時にAUX入力をミュートするかどうかを設定します。(デフォルト：しない)

しない：マイク使用時にAUX入力をミュートせず、ミックスして放送します。

する：マイク使用時にAUX入力をミュートします。

設定範囲	しない、する
------	--------

### ⑨ AUX ミュートトリガー (RM-500 の場合のみ)

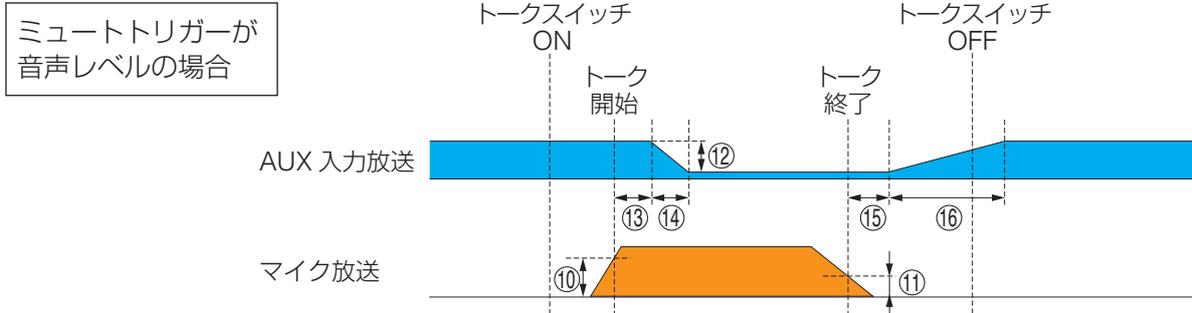
AUX ミュート使用時に AUX 入力のミュートトリガーを設定します。(デフォルト：音声レベル)

音声レベル：マイク入力の音声レベルが設定された値になると、AUX 入力のミュート制御を開始します。

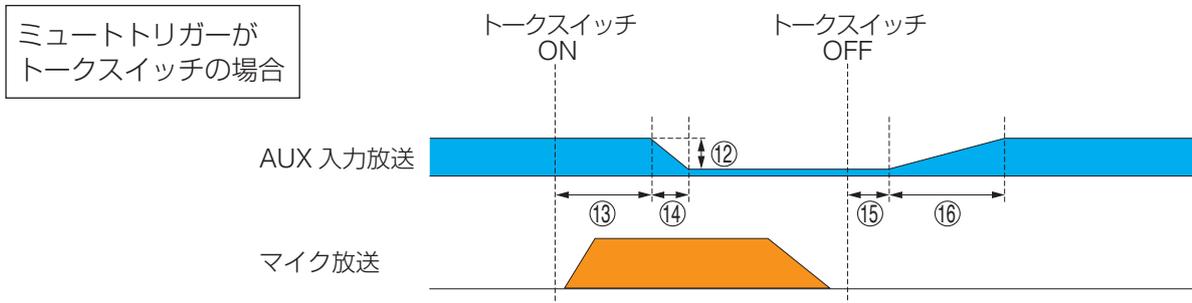
トークスイッチ：トークスイッチを押したときに AUX 入力のミュート制御を開始します。

設定範囲	音声レベル、トークスイッチ
------	---------------

ミュート制御の動作はミュートトリガーにより次のようになります。



※ ⑩～⑰は以降の設定項目です。



※ ⑩～⑰は以降の設定項目です。

### ⑩ ミュート開始感度 (RM-500 の場合のみ)

ミュートトリガーが「音声レベル」のときに、ミュート制御を開始する AUX 入力信号のレベルを設定します。(デフォルト：-30 dB)

設定範囲	-40 dB ~ -1 dB (1 dB 間隔)
------	--------------------------

### ⑪ ミュート終了感度 (RM-500 の場合のみ)

ミュートトリガーが「音声レベル」のときに、ミュート制御を終了する AUX 入力信号のレベルを設定します。(デフォルト：-40 dB)

設定範囲	-50 ~ -30 dB (1 dB 間隔)
------	------------------------

### ⑫ ミュート量 (RM-500 の場合のみ)

マイク放送を開始したときの AUX 入力の減衰量を設定します。(デフォルト：-40 dB)

設定範囲	-∞、-50 ~ -10 dB (1 dB 間隔)
------	---------------------------

### ⑬ 開始待ち時間 (RM-500 の場合のみ)

ミュートトリガーの発生から減衰が始まるまでの時間を設定します。(デフォルト：0 秒)

設定範囲	0 ~ 10 秒 (1 秒間隔)
------	------------------

### ⑭ 開始時間 (RM-500 の場合のみ)

元のレベルから「ミュート量」で設定されたレベルに低下するまでの時間を設定します。(デフォルト：0 秒)

設定範囲	0 ~ 10 秒 (1 秒間隔)
------	------------------

⑮ **復帰待ち時間 (RM-500 の場合のみ)**

ミュートトリガーが解除された後に AUX 入力の放送音量が元のレベルへ復帰開始するまでの時間を設定します。(デフォルト：2 秒)

設定範囲	1 ～ 10 秒 (1 秒間隔)
------	------------------

⑯ **復帰時間 (RM-500 の場合のみ)**

AUX 入力の放送音量が元のレベルへ復帰するまでの時間を設定します。(デフォルト：1 秒)

設定範囲	0 ～ 10 秒 (1 秒間隔)
------	------------------

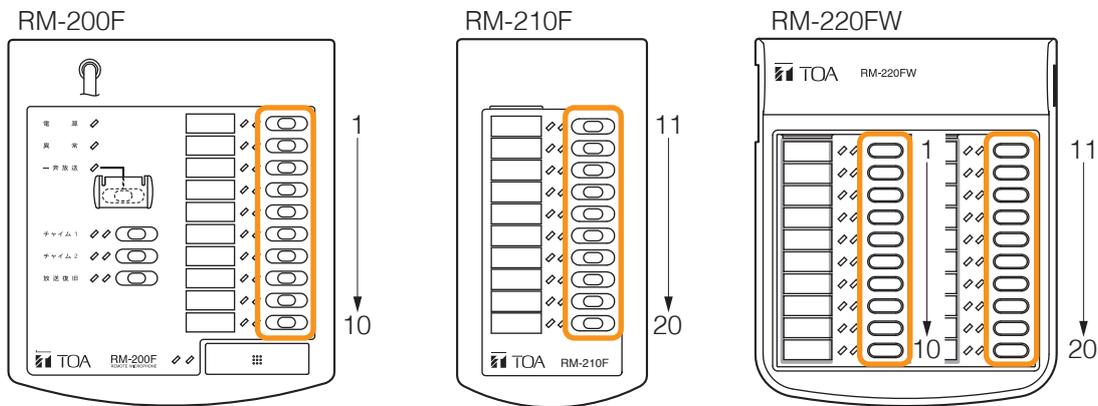
⑰ **初期化ボタン (RM-500 の場合のみ)**

このボタンをクリックすると、⑪～⑰の設定値をすべてデフォルトの値にします。

## ■ 業務 RM スイッチ設定

メニュー項目の「スイッチ・制御設定」－「業務 RM スイッチ設定」をクリックすると、業務 RM スイッチ設定画面が表示されます。

業務用リモコンの回線選択キーの設定をします。  
回線選択キーおよびキー番号は下図のとおりです。

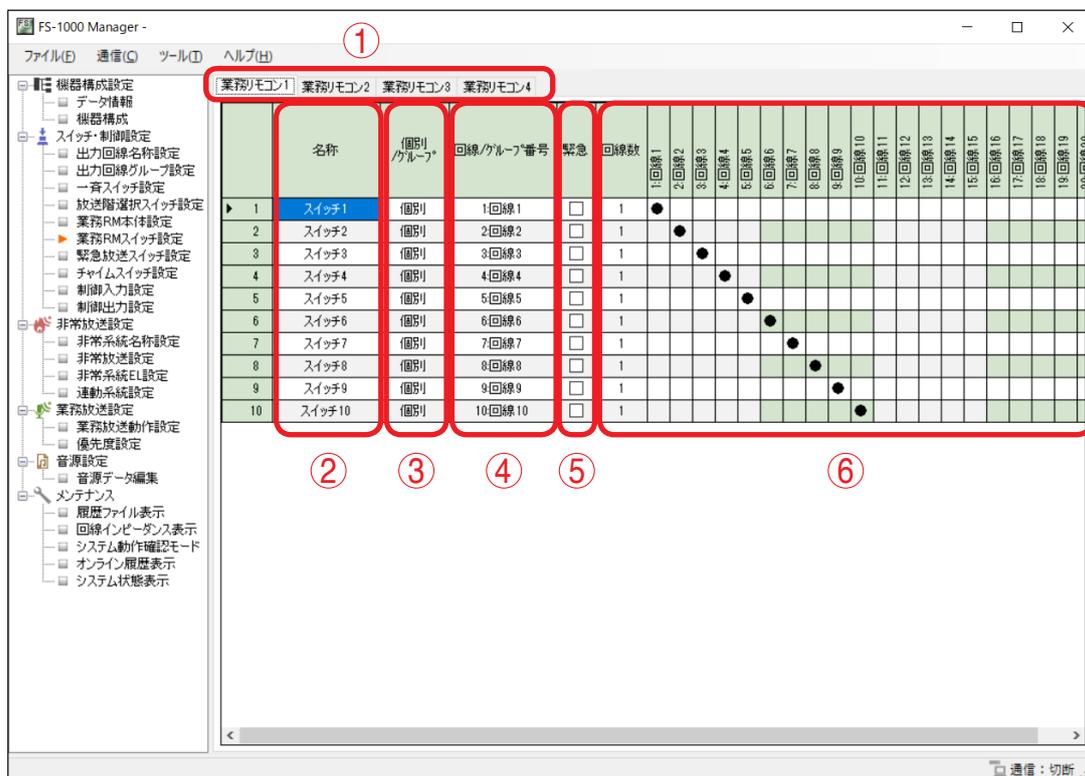


RM-210F (2 台目) : 21~30      RM-220FW (2 台目) : 21~40  
RM-210F (3 台目) : 31~40

RM-500 の場合は、リモコン構成設定画面 (P. 15) で設定したページ数× 10 のスイッチが設定できます。液晶画面の 1 ページ目がキー番号 1 ~ 10、2 ページ目がキー番号 11 ~ 20、…のようになります。

### ご注意

機器構成設定で未設定のユニットについては設定できません。



### ① ユニット選択タブ

設定を行う業務用リモコンのユニットを切り換えます。

## ② 名称

スイッチの名称を設定します。(デフォルト：スイッチ 1～最大スイッチ数)

RM-500 の場合、ここで設定した名称が RM-500 の液晶画面に表示されます。ただし、表示できる言語は日本語と英語のみです。

設定範囲	半角 32 文字以内、全角 16 文字以内
------	-----------------------

### ご注意

名称に全角文字を使用する場合は、JIS 第一水準（特殊文字は除く）で入力してください。

それ以外の文字を入力すると、RM-500 の液晶画面での表示に文字化けが起こる可能性があります。

## ③ 個別／グループ

出力回線を個別またはグループに設定します。(デフォルト：個別)

設定範囲	個別、グループ
------	---------

### ご注意

個別／グループ番号を「未使用」にしたときは設定できません。

## ④ 回線／グループ番号

出力回線を設定します。

設定可能な回線番号は局数とアドレスによって決まります。(P. 23 「出力回線名称設定」)

### 【個別の場合】

設定範囲	未使用、1～出力回線最大数
------	---------------

### 【グループの場合】

設定範囲	未使用、1～100
------	-----------

## ⑤ 緊急

放送時に、アッテネーターを有効にするか無効にするかを設定します。

アッテネーターを有効にするときは、チェックを外します。(緊急なし)

アッテネーターの設定に関係なく常に最大音量で放送するときは、チェックを入れます。(緊急あり)

(デフォルト：緊急なし)

設定範囲	緊急あり、緊急なし
------	-----------

### ご注意

個別／グループ番号を「未使用」にしたときは設定できません。

## ⑥ 回線数、回線選択表示

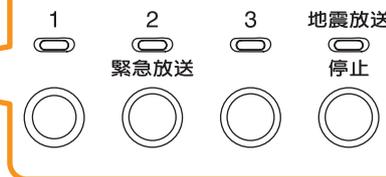
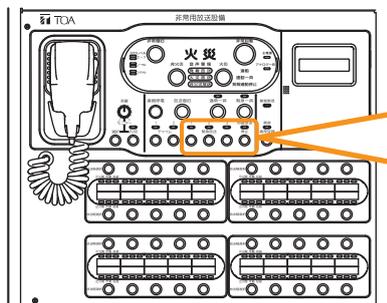
業務用リモコンの回線選択キーに設定された出力回線数と、出力先を表示します。

# 緊急放送スイッチ設定

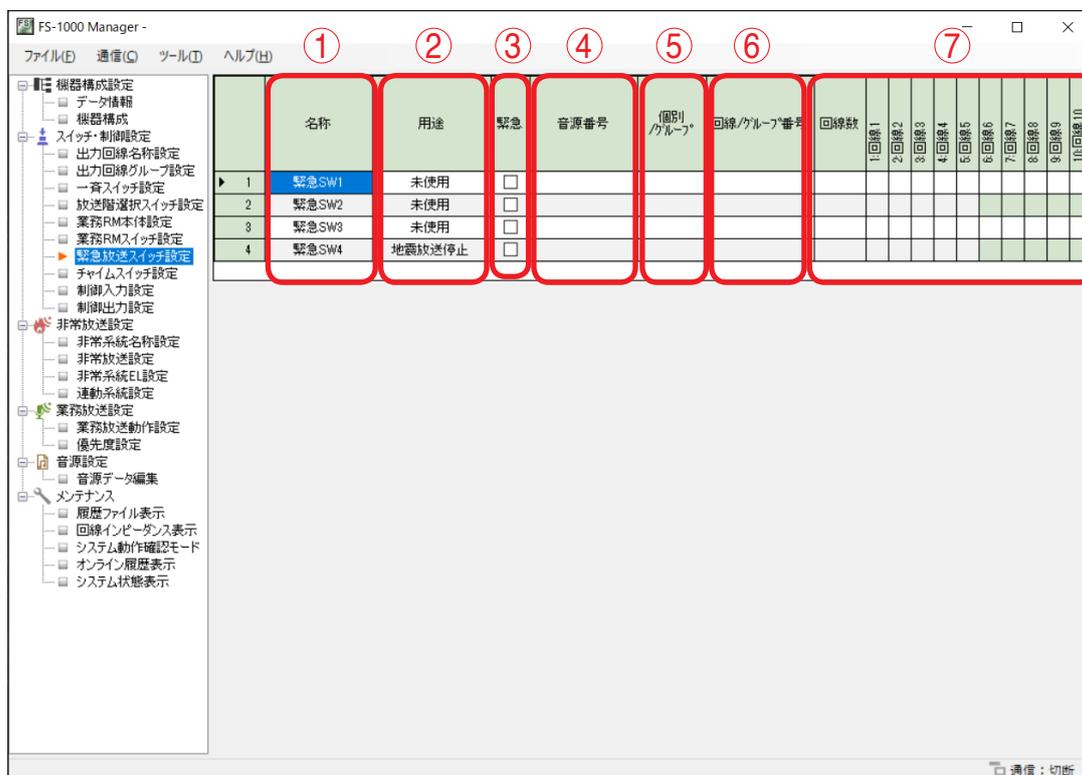
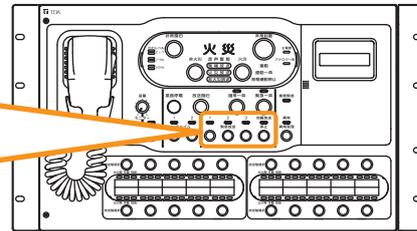
メニュー項目の「スイッチ・制御設定」→「緊急放送スイッチ設定」をクリックすると、緊急放送設定画面が表示されます。

FS-1000 本体と非常用リモコンの緊急放送スイッチは共通の設定になります。

FS-1000 本体、RM-1000 操作部



FS-2000RM 操作部



## ① 名称

スイッチの名称を設定します。(デフォルト：緊急 SW1～緊急 SW4)

設定範囲 | 半角 32 文字以内、全角 16 文字以内

## ② 用途

スイッチの用途を設定します。(デフォルト：緊急 SW1～3「未使用」、緊急 SW4「地震放送停止」)

地震放送停止は、緊急 SW4 にのみ設定できます。

緊急 SW4 に「地震放送停止」を設定した場合、制御入力の地震放送入力の設定が「地震放送」となります。

### 【緊急 SW1～3 の場合】

設定範囲 | 緊急放送、未使用

### 【緊急 SW4 の場合】

設定範囲 | 緊急放送、地震放送停止、未使用

### ③ 緊急

放送時に、アッテネーターを有効にするか無効にするかを設定します。  
アッテネーターを有効にするときは、チェックを外します。(緊急なし)  
アッテネーターの設定に関係なく常に最大音量で放送するときは、チェックを入れます。(緊急あり)  
(デフォルト：緊急あり)

設定範囲	緊急あり、緊急なし
------	-----------

### ④ 音源番号

内蔵音源の種類を設定します。(デフォルト：メッセージ1～3)

設定範囲	メッセージ1～10
------	-----------

[緊急メッセージ一覧]

番号	名称	内容
1	チャイム	ウエストミンスターの鐘
2	火災訓練 [男声]	訓練放送です。【第1シグナル】 火事です、火事です、火災が発生しました。落ち着いて避難してください。【第2シグナル】
3	地震訓練 [男声]	訓練放送です。【NHK チャイム音】 地震です。落ち着いて身を守ってください。(2回繰り返し)
4	防犯(学校) [男声]	【防犯警報音】 緊急事態が発生しました。先生の指示に従ってください。
5	放課後(学校) [女声]	まもなく下校時間になります。校庭や教室に残っている人は、後片付けをして早く帰りましょう。
6	防犯(一般) [男声]	【防犯警報音】 緊急事態が発生しました。スタッフの指示に従ってください。
7	蛍の光	蛍の光
8	開店(店舗) [女声]	本日はご来店いただき、誠にありがとうございます。お時間のお許しになる限り、どうぞゆっくりお買い物をお楽しみください。
9	閉店(店舗) [女声]	本日はご来店いただき、誠にありがとうございました。またのお越しを従業員一同、こころよりお待ち申し上げます。
10	省エネ(一般) [女声]	リフレッシュタイムの時間です。胸を大きく張って疲れをほぐしましょう。また、不要な電気は切って、職場の省エネにご協力ください。

### ⑤ 個別/グループ

出力回線を個別またはグループに設定します。(デフォルト：グループ)

設定範囲	個別、グループ
------	---------

### ⑥ 個別/グループ番号

出力回線を設定します。

設定可能な回線番号は局数によって決まります。(参照 P. 23 「出力回線名称設定」)

(デフォルト：グループ 100)

[個別の場合]

設定範囲	1～出力回線最大数
------	-----------

[グループの場合]

設定範囲	1～100
------	-------

### ⑦ 回線数、回線選択表示

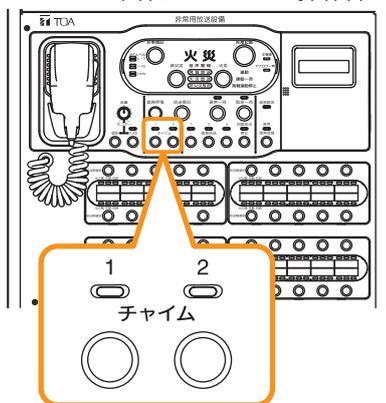
緊急放送スイッチに設定された出力回線数と出力先を表示します。

# ■ チャイムスイッチ設定

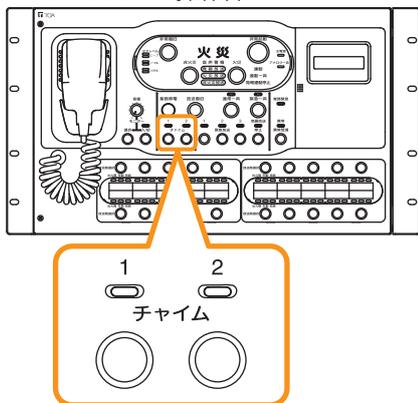
メニュー項目の「スイッチ・制御設定」→「チャイムスイッチ設定」をクリックすると、チャイムスイッチ設定画面が表示されます。

FS-1000 本体と非常用リモコンのチャイムスイッチおよび業務用リモコンのチャイムキーを設定します。

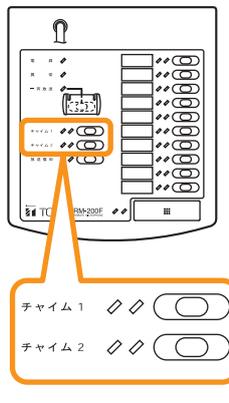
FS-1000 本体、RM-1000 操作部



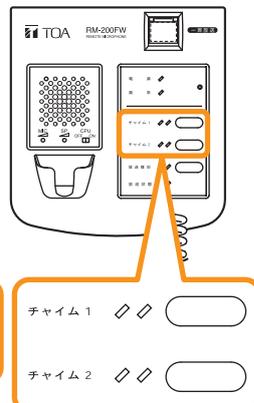
FS-2000RM 操作部



RM-200F

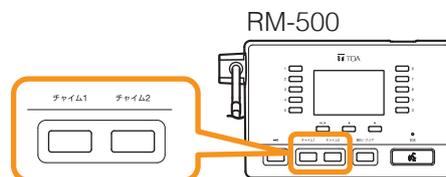


RM-200FW



## ご注意

機器構成設定で未設定のユニットについては設定できません。



FS-1000 Manager -

機器	チャイム1	チャイム2
1 本体	チャイム1	チャイム2
2 非常RM1	チャイム1	チャイム2
3 非常RM2	チャイム1	チャイム2
4 非常RM3	チャイム1	チャイム2
5 非常RM4	チャイム1	チャイム2
6 業務RM1	チャイム1	チャイム2
7 業務RM2	チャイム1	チャイム2
8 業務RM3	チャイム1	チャイム2
9 業務RM4	チャイム1	チャイム2

### ① チャイム 1

チャイム 1 スイッチの設定を行います。(デフォルト：チャイム 1)

設定範囲	未使用、チャイム 1～4*
------	---------------

### ② チャイム 2

チャイム 2 スイッチの設定を行います。(デフォルト：チャイム 2)

設定範囲	未使用、チャイム 1～4*
------	---------------

\* チャイム 1～4 の音源は以下のとおりです。

チャイム 1：上り 4 音    チャイム 2：下り 4 音    チャイム 3：2 音    チャイム 4：ゴング

# ■ 制御入力設定

メニュー項目の「スイッチ・制御設定」→「制御入力設定」をクリックすると、制御入力設定画面が表示されます。

FS-1000 本体端子部の制御入力端子（1～10）、接点式 RM 接続端子（1～10、一斉、チャイム1～2）、緊急地震放送接点入力端子、電話ページング接点入力端子、タイマー接点入力端子、外部マイク接点入力端子、および RM-500 の制御入力端子の設定を行います。

番号	接点名称	用途	番号	緊急	個別/グループ*	回線/グループ*番号	回線数	1回線1	2回線2	3回線3	4回線4	5回線5	6回線6	7回線7	8回線8	9回線9	10回線10
1	制御入力1	未使用		<input type="checkbox"/>													
2	制御入力2	未使用		<input type="checkbox"/>													
3	制御入力3	未使用		<input type="checkbox"/>													
4	制御入力4	未使用		<input type="checkbox"/>													
5	制御入力5	未使用		<input type="checkbox"/>													
6	制御入力6	未使用		<input type="checkbox"/>													
7	制御入力7	未使用		<input type="checkbox"/>													
8	制御入力8	未使用		<input type="checkbox"/>													
9	制御入力9	未使用		<input type="checkbox"/>													
10	制御入力10	未使用		<input type="checkbox"/>													
11	接点式RM1	接点式RM放送		<input type="checkbox"/>	個別	1回線1	1	●									
12	接点式RM2	接点式RM放送		<input type="checkbox"/>	個別	2回線2	1		●								
13	接点式RM3	接点式RM放送		<input type="checkbox"/>	個別	3回線3	1			●							
14	接点式RM4	接点式RM放送		<input type="checkbox"/>	個別	4回線4	1				●						
15	接点式RM5	接点式RM放送		<input type="checkbox"/>	個別	5回線5	1					●					
16	接点式RM6	接点式RM放送		<input type="checkbox"/>	個別	6回線6	1						●				
17	接点式RM7	接点式RM放送		<input type="checkbox"/>	個別	7回線7	1							●			
18	接点式RM8	接点式RM放送		<input type="checkbox"/>	個別	8回線8	1								●		
19	接点式RM9	接点式RM放送		<input type="checkbox"/>	個別	9回線9	1									●	
20	接点式RM10	接点式RM放送		<input type="checkbox"/>	個別	10回線10	1										●
21	接点式RM一斉	接点式RM放送		<input type="checkbox"/>	グループ	100グループ100	20	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
22	接点式RMチャイム1	接点式RMチャイム	3	<input type="checkbox"/>													
23	接点式RMチャイム2	未使用		<input type="checkbox"/>													
24	地震放送入力	地震放送	1	<input checked="" type="checkbox"/>	グループ	100グループ100	20	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
25	電話ページング放送入力	電話ページング放送		<input type="checkbox"/>	グループ	100グループ100	20	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

## ① 名称

制御入力の名称を設定します。

設定範囲	半角 32 文字以内、全角 16 文字以内
------	-----------------------

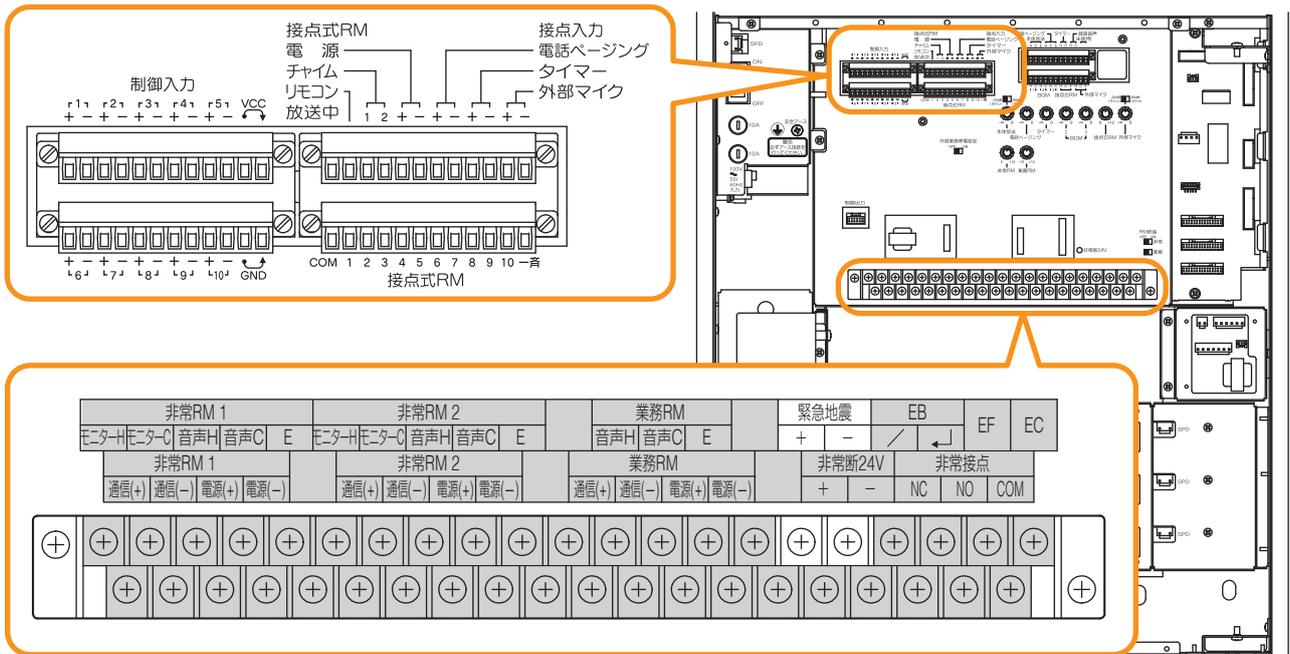
デフォルトは、以下のとおりです。

- No. 1～10 : 制御入力 1～10
- No. 11～20 : 接点式 RM1～10
- No. 21 : 接点式 RM 一斉
- No. 22、23 : 接点式 RM チャイム 1、2
- No. 24 : 地震放送入力
- No. 25 : 電話ページング放送入力
- No. 26 : タイマー放送入力
- No. 27 : 外部マイク放送入力
- No. 28 : 業務 RM1 制御入力 1
- No. 29 : 業務 RM2 制御入力 1

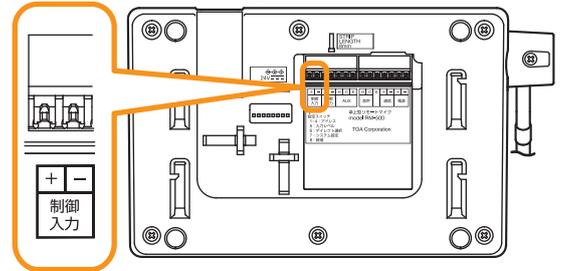
⋮

※ No. 1～27 は FS-1000 本体端子部の各端子に対応します。No. 28 以降は RM-500 が接続されている台数分追加され、RM-500 の制御入力端子に対応します。( 次ページ )

FS-1000本体端子部



RM-500 底面



② 用途

制御入力の用途を設定します。  
各制御入力端子に割り当てられる用途は下表のとおりです。

【制御入力端子と端子に割り当てられる機能の一覧】

用途		電話PG放送	タイマー放送	接点RM放送	接点RMチャイム	EXマイク	BGM放送	地震放送	緊急放送	緊急放送停止	回線選択	AUX放送	AUXスイッチ	未使用
FS-1000 本体	制御入力 1～10	○	○	○	×	○	○	×	○	○	×	×	×	○
	接点式 RM1～10	○	○	○	×	○	○	×	○	○	×	×	×	○
	接点式 RM 一斉	○	○	○	×	○	○	×	○	○	×	×	×	○
	接点式 RM チャイム 1、2	○	○	○	○	○	○	×	○	○	×	×	×	○
	緊急地震	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	○
	電話ページング	○	○	○	×	○	○	×	○	○	×	×	×	○
	タイマー	○	○	○	×	○	○	×	○	○	×	×	×	○
RM-500	外部マイク	○	○	○	×	○	○	×	○	○	×	×	×	○
	業務 RM1～4 制御入力 1	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○

「地震放送」は、No. 24 (FS-1000 本体の緊急地震放送接点入力端子) にのみ設定できます。

【ご注意】

緊急地震放送を行う場合は、No. 24 の用途を「地震放送」に設定してください。  
緊急地震放送を行わない場合は、「未使用」に設定してください。  
用途を「地震放送」に設定すると、緊急放送スイッチ 4 の用途は自動的に「地震放送停止」になります。  
( P. 39)

設定範囲	電話ページング放送、タイマー放送、外部マイク放送、接点式 RM 放送、接点式 RM チャイム、BGM 放送、地震放送、緊急放送、緊急放送停止、回線選択、AUX 放送、AUX スイッチ、未使用
------	---

### ③ 番号

詳細な機能を設定します。用途が「接点式 RM チャイム」「地震放送」「緊急放送」「緊急放送停止」のときのみ設定可能です。

用途により、設定できる番号は異なります。

#### 【用途が「接点式 RM チャイム」の場合】

接点式 RM チャイム端子をメイクしたときに鳴らすチャイムの音源を設定します。

設定範囲	1 (上り 4 音)、2 (下り 4 音)、3 (2 音)、4 (ゴング)
------	---------------------------------------

#### 【用途が「地震放送」の場合】

緊急地震放送時に鳴らすチャイムの音源を設定します。

設定範囲	1 (NHK チャイム音)、2 (REIC サイン音)
------	-----------------------------

#### 緊急地震放送のシグナル音に関する基準

緊急地震放送のシグナル音は、原則として、日本放送協会が作成した報知音 (NHK チャイム音) を使用してください。ただし、NHK チャイム音は、「緊急地震速報 (警報)」\*<sup>1</sup>に整合している場合の使用に限定されるため、「緊急地震速報 (警報)」\*<sup>1</sup>に整合していない場合や、騒音などで NHK チャイム音では聞き取りにくい条件下では、特定非営利活動法人リアルタイム地震情報利用協議会 (REIC) が作成したサイン音を使用してください。

#### ご注意

- 緊急地震放送の NHK チャイム音は、「緊急地震速報 (警報)」\*<sup>1</sup>または、予測される震度 5 弱以上の「緊急地震速報 (業)」\*<sup>2</sup>の場合以外は使用禁止です。
- NHK チャイム音の著作権は、日本放送協会に属します。
- REIC サイン音の著作権は、特定非営利活動法人リアルタイム地震情報利用協議会に属します。

\*<sup>1</sup> 最大震度 5 弱以上と予想した場合に、予想した震度が 4 以上の地域に対して気象庁が発表します。気象業務法に基づき、気象庁のみが発表します。

\*<sup>2</sup> 許可事業者が提供する緊急地震速報。予報内容についての責任は、当該許可事業者が負います。

#### 【用途が「緊急放送」または「緊急放送停止」の場合】

対応する緊急放送スイッチの番号を設定します。

設定範囲	1、2、3、4
------	---------

#### ご注意

- 機能が「地震放送停止」または「未使用」に設定されている緊急放送スイッチの番号は設定できません。
- 業務停電放送として制御入力から緊急放送を行う場合は、業務停電放送を起動可能な制御入力の用途に割り当てる必要があります。

### ④ 緊急

放送時に、アッテネーターを有効にするか無効にするかを設定します。

アッテネーターを有効にするときは、チェックを外します。(緊急なし)

アッテネーターの設定に関係なく常に最大音量で放送するときは、チェックを入れます。(緊急あり)

(デフォルト：緊急なし)

設定範囲	緊急あり、緊急なし
------	-----------

#### ご注意

- 用途を「地震放送」、「BGM 放送」、「接点式 RM チャイム」、「緊急放送停止」、「未使用」にしたときは変更できません。
- 用途を「緊急放送」にしたときは、対応する緊急放送スイッチの設定に従います。

### ⑤ 個別／グループ

出力回線を個別またはグループに設定します。

設定範囲	個別、グループ
------	---------

#### ご注意

用途を「接点式 RM チャイム」、「緊急放送」、「緊急放送停止」、「AUX スイッチ」、「未使用」にしたときは設定できません。

## ⑥ 回線／グループ番号

出力回線を設定します。

設定可能な回線番号は局数によって決まります。(  P. 23 「出力回線名称設定」)

### 【個別の場合】

設定範囲	1～出力回線最大数
------	-----------

### 【グループの場合】

設定範囲	1～100
------	-------

### 【ご注意】

用途を「接点式 RM チャイム」、「緊急放送」、「緊急放送停止」、「未使用」にしたときは設定できません。

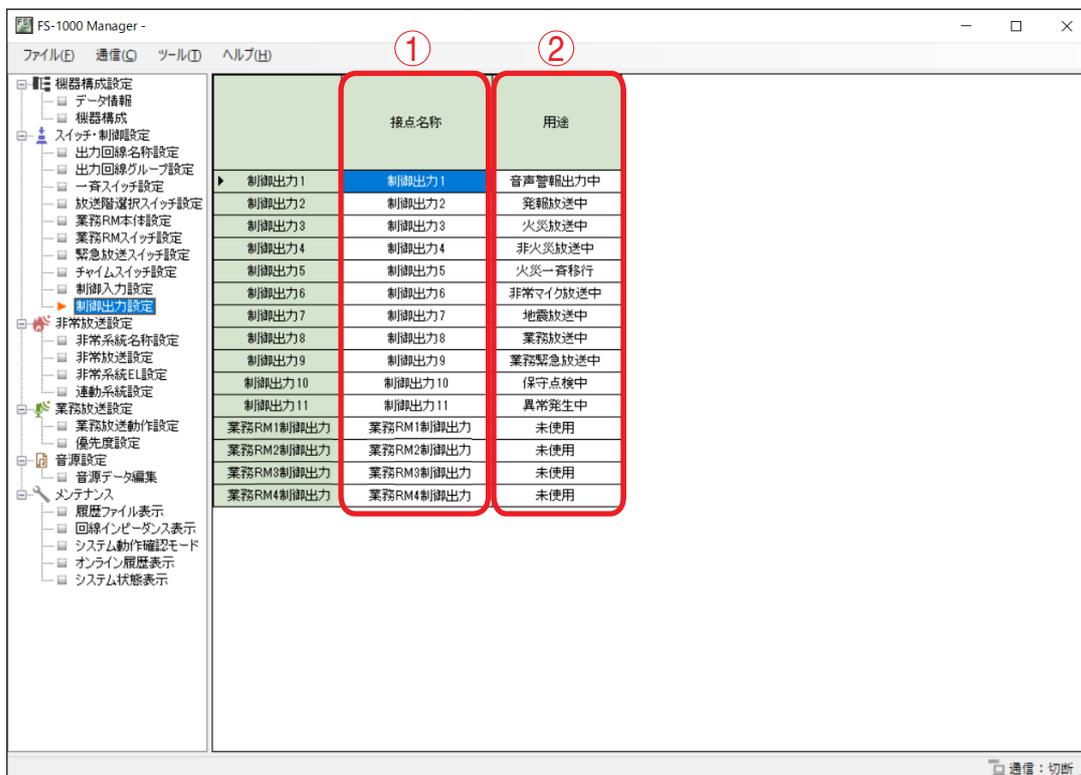
## ⑦ 回線数、回線選択表示

各制御入力に設定された出力回線数と、出力先を表示します。

# ■ 制御出力設定

メニュー項目の「スイッチ・制御設定」→「制御出力設定」をクリックすると、制御出力設定画面が表示されます。

FS-1000 本体端子部の制御出力（1～11）および RM-500 の制御出力の設定をします。



## ① 接点名称

制御出力の名称を設定します。（デフォルト：制御出力1～11、業務 RM1～4 制御出力）

設定範囲	半角 32 文字以内、全角 16 文字以内
------	-----------------------

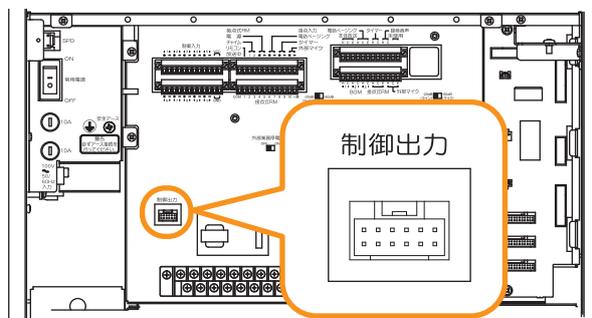
## ② 用途

制御出力の用途を設定します。

### [FS-1000 本体の場合]

設定範囲	音声警報出力中、発報放送中、火災放送中、非火災放送中、火災一斉移行、非常マイク放送中、業務放送中、業務緊急放送中、地震放送中、異常発生中、保守点検中、未使用
------	--

FS-1000本体端子部



- ※ 制御出力端子の接続には、別売の YR-200 が必要です。
- ※ 制御出力端子の配列は以下のとおりです。

GND	制御出力 2	制御出力 4	制御出力 6	制御出力 8	制御出力 10
制御出力 1	制御出力 3	制御出力 5	制御出力 7	制御出力 9	制御出力 11

デフォルトは、以下のとおりです。

制御出力 1 : 音声警報出力中

制御出力 2 : 発報放送中

制御出力 3 : 火災放送中

制御出力 4 : 非火災放送中

制御出力 5 : 火災一斉移行

制御出力 6 : 非常マイク放送中

制御出力 7 : 地震放送中

制御出力 8 : 業務放送中

制御出力 9 : 業務緊急放送中

制御出力 10 : 保守点検中

制御出力 11 : 異常発生中

**ご注意**

制御出力 11 は他の端子と異なり、アナログ一斉放送中に強制的にメイクする仕様になっています。他の状態出力に設定できますが、アナログ一斉放送中にも強制的にメイクします。

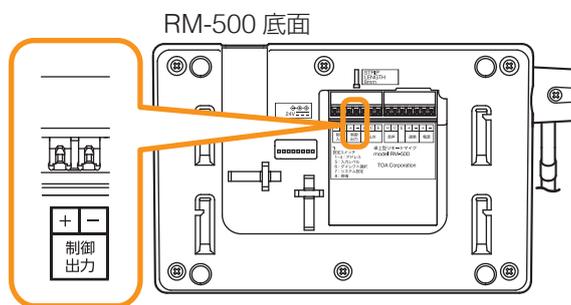
**[RM-500 の場合]**

設定範囲	自機放送中、業務放送中、業務緊急放送中、異常発生中、保守点検中、未使用
------	-------------------------------------

デフォルトは「未使用」です。

**ご注意**

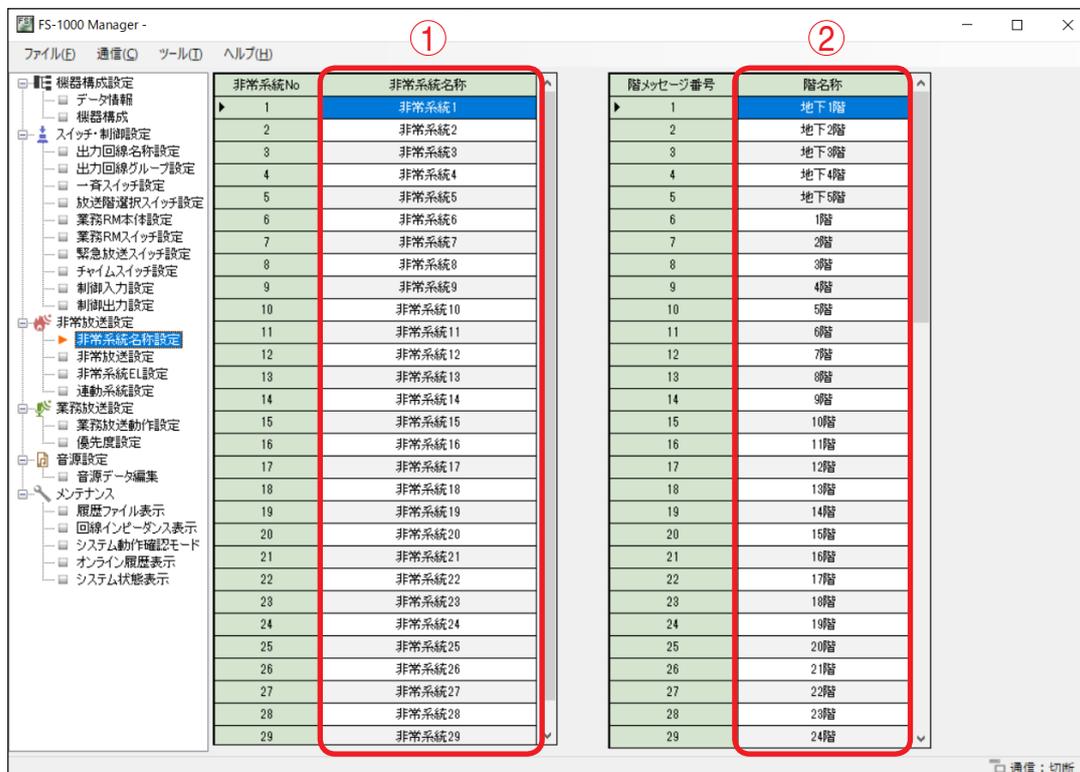
RM-500 の制御出力は FS-1000 本体の制御出力と比べて、1 秒程度遅れて出力されます。



# 非常放送設定

## ■ 非常系統名称設定

メニュー項目の「非常放送設定」→「非常系統名称設定」をクリックすると、非常系統名称設定画面が表示されます。



### ① 非常系統名称

非常系統名称を設定します。(デフォルト：非常系統 1～30)

設定範囲	半角 32 文字以内、全角 16 文字以内
------	-----------------------

### ② 階名称

階メッセージの名称を設定します。

設定範囲	半角 32 文字以内、全角 16 文字以内
------	-----------------------

デフォルトは のとおりです。

番号	名称
1	地下1階
2	地下2階
3	地下3階
4	地下4階
5	地下5階
6	1階
7	2階
8	3階
9	4階
10	5階
11	6階
12	7階
13	8階
14	9階
15	10階
16	11階
17	12階
18	13階
19	14階
20	15階
21	16階
22	17階
23	18階
24	19階
25	20階
26	21階
27	22階
28	23階
29	24階
30	25階

番号	名称
31	26階
32	27階
33	28階
34	29階
35	30階
36	屋上
37	駐車場
38	地下駐車場
39	屋上駐車場
40	バックヤード
41	エントランスホール
42	体育館
43	体育館1階
44	体育館2階
45	講堂
46	階段
47	東階段
48	西階段
49	南階段
50	北階段
51	中央階段
52	塔屋
53	エスカレーター
54	エレベーター
55	エレベーターシャフト
56	エレベーター機械室
57	機械室
58	風除室
59	本館地下1階
60	本館1階

番号	名称
61	本館2階
62	本館3階
63	本館4階
64	本館5階
65	本館6階
66	本館屋上
67	本館塔屋
68	本館階段
69	本館エレベーター
70	新館地下1階
71	新館1階
72	新館2階
73	新館3階
74	新館4階
75	新館5階
76	新館6階
77	新館屋上
78	新館塔屋
79	新館階段
80	新館エレベーター

※ 番号：階メッセージ番号  
 名称：階名称

# ■ 非常放送設定

メニュー項目の「非常放送設定」→「非常放送設定」をクリックすると、非常放送設定画面が表示されます。



## ① 手動・発信機起動

発信機、非常電話、または手動で非常放送を起動したときの音声警報放送を設定します。  
(デフォルト：火災)

- 火災：起動がかかると、感知器発報放送なしに、火災放送をします。「火災」モード
- 発報：起動時に感知器発報放送をします。「発報」モード
- 非常電話や発信機からの起動時には、感知器発報放送に続いて火災放送をします。

設定範囲	火災、発報
------	-------

## ② 感知器発報放送

感知器起動時に感知器発報放送をするか、しないかを設定します。(デフォルト：連動)

- 連動：感知器での起動時に、感知器発報放送をします。「発報連動」モード
- 停止：感知器での起動時に、感知器発報放送をしません。「発報連動停止」モード
- 操作する人に対して、前面操作部のモニタスピーカから「火災音信号」と現場の確認と操作を指示する「音声メッセージ」が出ます。

設定範囲	連動、停止
------	-------

## ③ 発報放送繰り返し設定

感知器発報放送を繰り返して放送するかどうかを設定します。(デフォルト：なし)

- なし：感知器発報放送を繰り返し回数だけ放送し、その後、無音になります。
- 繰り返し：感知器発報放送を繰り返し回数だけ放送し、その後、一定の間隔をおいて再び放送します。  
ただし、非常マイクによる放送後は、発報放送は繰り返し放送されません。
- 継続：感知器発報放送を繰り返し回数だけ放送し、その後、一定の間隔をおいて再び放送します。  
非常マイクによる放送後も、発報放送は繰り返し放送されます。

設定範囲	なし、繰り返し、継続
------	------------

#### ④ 発報放送間隔

発報放送繰り返し設定を「繰り返し」または「継続」に設定したときの、繰り返し間隔（インターバル）を設定します。（デフォルト：0秒）

設定範囲	0秒～5分59秒 ※1秒ステップ
------	------------------

#### ⑤ 発報放送回数

感知器発報放送の繰り返し回数を設定します。（デフォルト：2回）

設定範囲	2～5
------	-----

#### ⑥ 火災放送移行タイマー

発報放送の開始または火災音信号の鳴動開始から、一定時間経過後に火災放送を開始するまでの火災放送移行タイマーの時間を設定します。（デフォルト：2分）

2～5分に設定するとき以外は、所轄の消防署に確認の上、設定を行ってください。

設定範囲	1秒～99分59秒 ※1秒ステップ
------	-------------------

#### ⑦ 一斉移行機能

火災放送開始または火災放送移行タイマーのタイムアップから、一定時間経過後に一斉火災放送を開始するための一斉放送移行タイマー機能の入/切を設定します。（デフォルト：使用する）

設定範囲	使用する、使用しない
------	------------

#### ⑧ 一斉移行タイマー

一斉移行機能を「使用する」にしたときの、一斉移行タイマーの時間を設定します。（デフォルト：2分）

0秒にしたときは、火災放送の開始と同時に一斉放送になります。

0秒または2～5分に設定するとき以外は、所轄の消防署に確認の上、設定を行ってください。

設定範囲	0秒～99分59秒 ※1秒ステップ
------	-------------------

#### ⑨ 警報言語

音声警報放送をする言語を設定します。日本語に加えて、英語・中国語・韓国語も設定できます。（デフォルト：日本語）

日本語：日本語で音声警報メッセージが流れます。

二ヶ国語：日本語・英語で音声警報メッセージが流れます。

三ヶ国語：日本語・英語・中国語で音声警報メッセージが流れます。

四ヶ国語：日本語・英語・中国語・韓国語で音声警報メッセージが流れます。

設定範囲	日本語、二ヶ国語、三ヶ国語、四ヶ国語
------	--------------------

#### ご注意

工場出荷時に搭載されたメッセージ以外を放送する場合は、所轄消防署の許可を得てください。

#### ⑩ 自火報階選択連動

自動火災報知設備などから階別信号が入力されたときに、非常放送をする階の選択のしかたを設定します。（デフォルト：連動）

連動：出火階（起動のあった階）と、その直上階などの連動階に放送されます。（「連動」モード）

一斉：すべての階に放送されます。（「連動一斉」モード）

設定範囲	連動、一斉
------	-------

### ⑪ 手動階選択連動

放送階選択スイッチを操作したときの階の選択のしかたを設定します。(デフォルト：階別)

階別：手動で選択した放送階のみに放送されます。

連動：手動で選択した階と、その直上階などの連動階に放送されます。

設定範囲	階別、連動
------	-------

### ⑫ 二度押し復旧

選択済みの放送階選択スイッチを再度押したときに、回線選択の解除を許可するか、禁止するかを設定します。(デフォルト：禁止)

許可：二度押しによる回線選択の解除を許可します。

禁止：二度押しによる回線選択の解除を禁止します。

「禁止」に設定すると、二度押ししたときのスイッチ操作は無効となります。

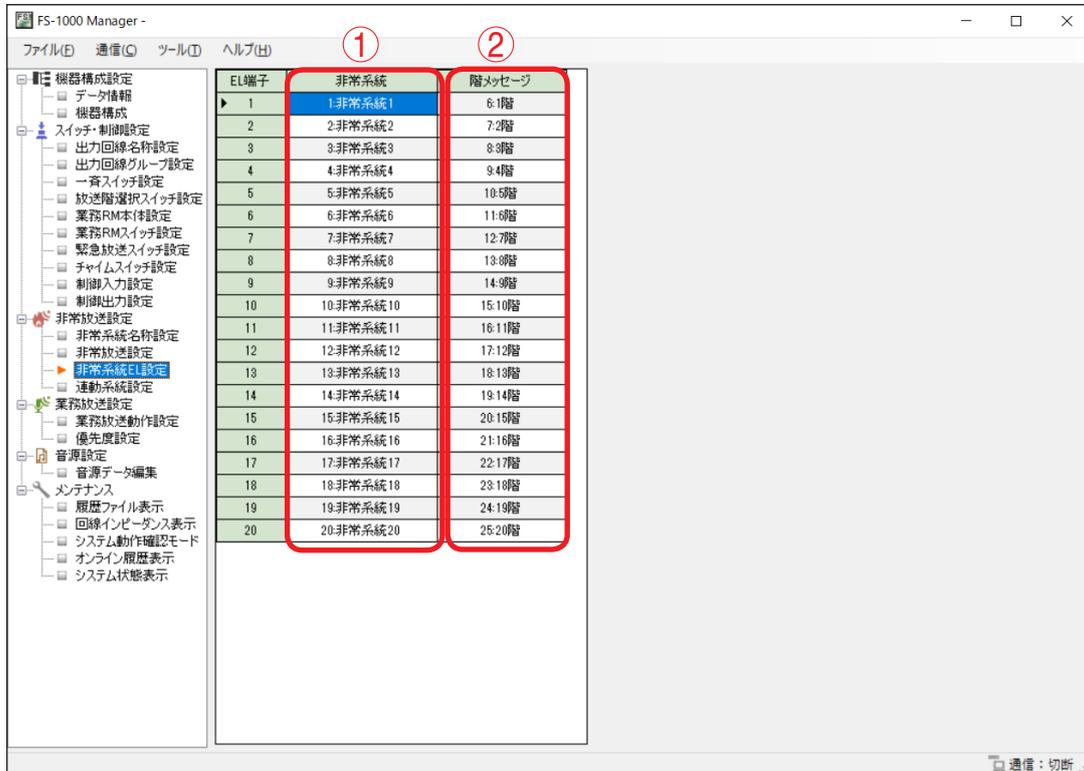
設定範囲	許可、禁止
------	-------

# ■ 非常系統 EL 設定

メニュー項目の「非常放送設定」→「非常系統 EL 設定」をクリックすると、非常系統 EL 設定画面が表示されます。

FS-1000 本体の階別信号入力端子（EL 端子）がメイクされたとき、この非常系統をもとにして、出力回線の選択を行います。

音声警報の階情報は、メイクされた EL 端子に設定された階メッセージ番号により選択します。



## ① 非常系統

FS-1000 本体の EL 端子に非常系統を設定します。

設定範囲	未使用、1～30	※ 名称は非常系統名称設定で登録した内容となります。
------	----------	----------------------------

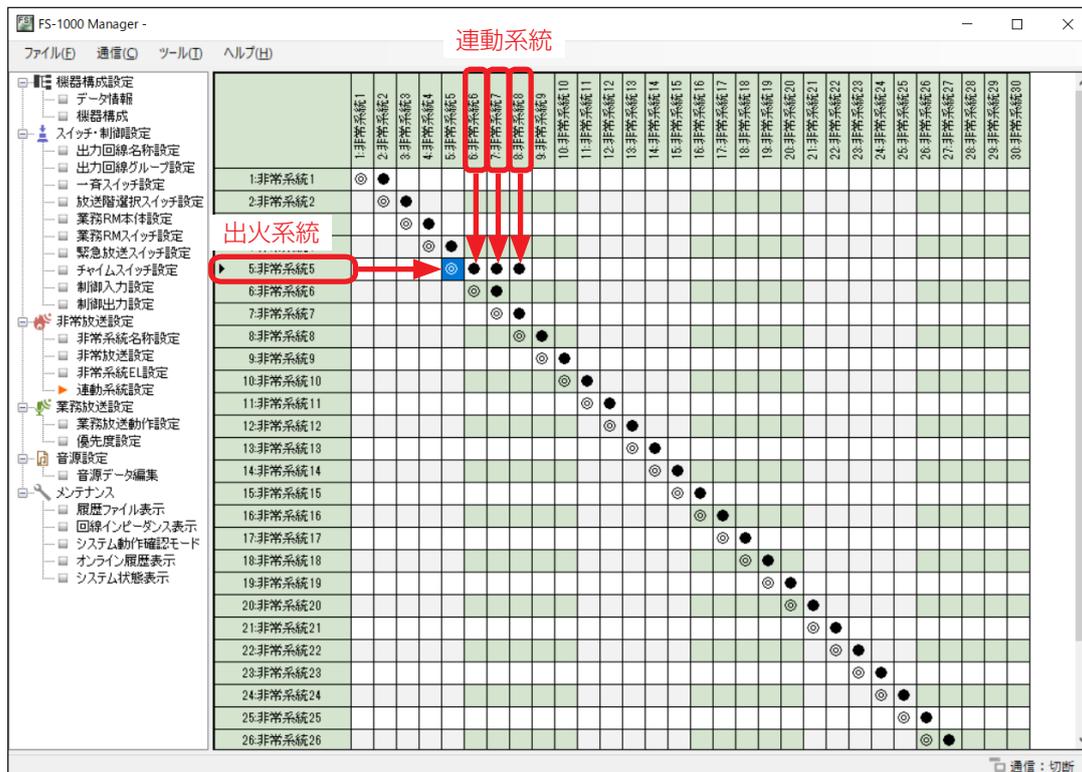
## ② 階メッセージ

自動火災報知設備の起動時に、出火階と連動階へ放送する階情報メッセージを設定します。

設定範囲	未使用、1～80	※ 名称は非常系統名称設定で登録した内容となります。
------	----------	----------------------------

# 連動系統設定

メニュー項目の「非常放送設定」→「連動系統設定」をクリックすると、連動系統設定画面が表示されます。非常系統（出火系統）に連動して選択される、非常系統（連動系統）を設定します。



- ◎：出火系統を表しています。左欄の非常系統と対応します。
- ：連動系統を表しています。上欄の非常系統と対応します。

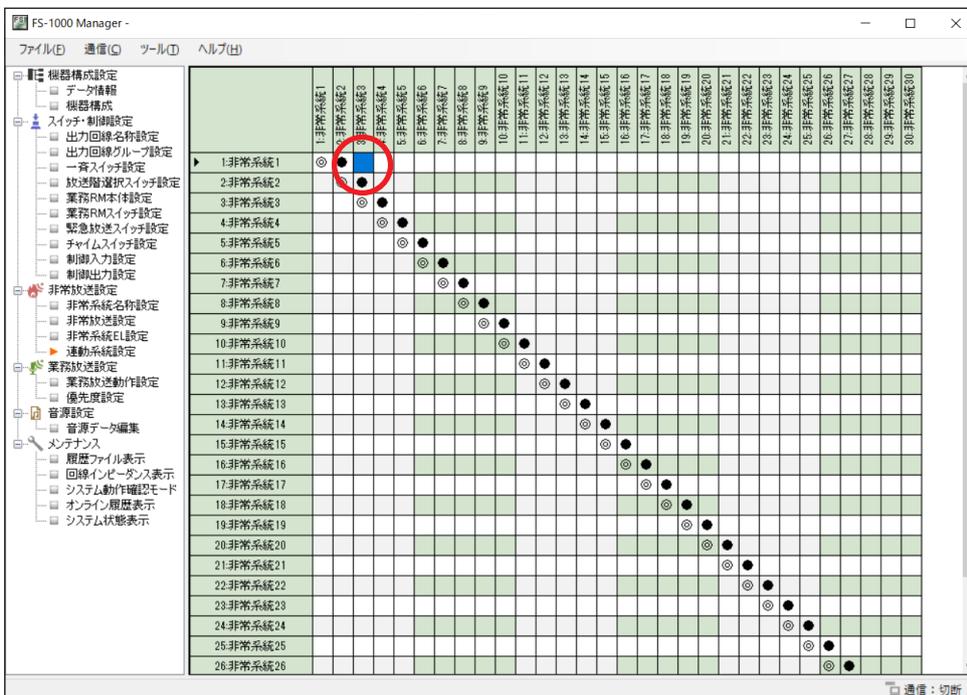
上図の例では、出火系統「非常系統5」の連動系統が「非常系統6、7、8」となります。

## ● 設定のしかた

[連動システムを個別で追加するときの例]

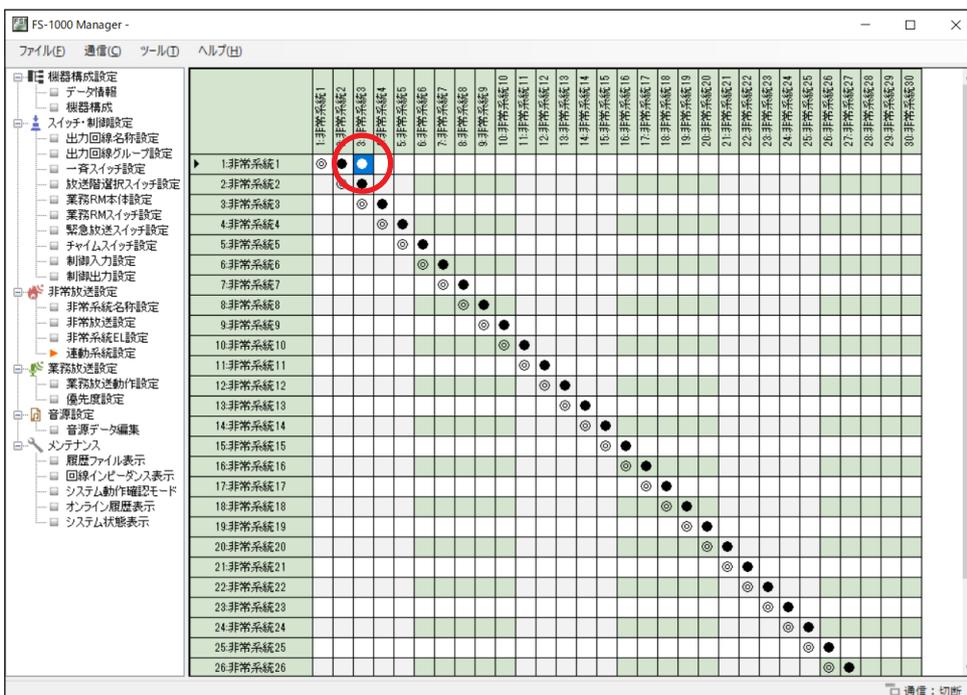
- 1 追加したい非常システムのセルをクリックする。  
選択されたセルの色が青色になります。

(非常システム 3 を選択した例)



- 2 非常システムを選択した状態でダブルクリックするか、または Enter キーを押す。  
選択した箇所に「●」がつき、連動システムに追加されます。

(非常システム 1 の連動システムに非常システム 3 を追加した例)



× 〇

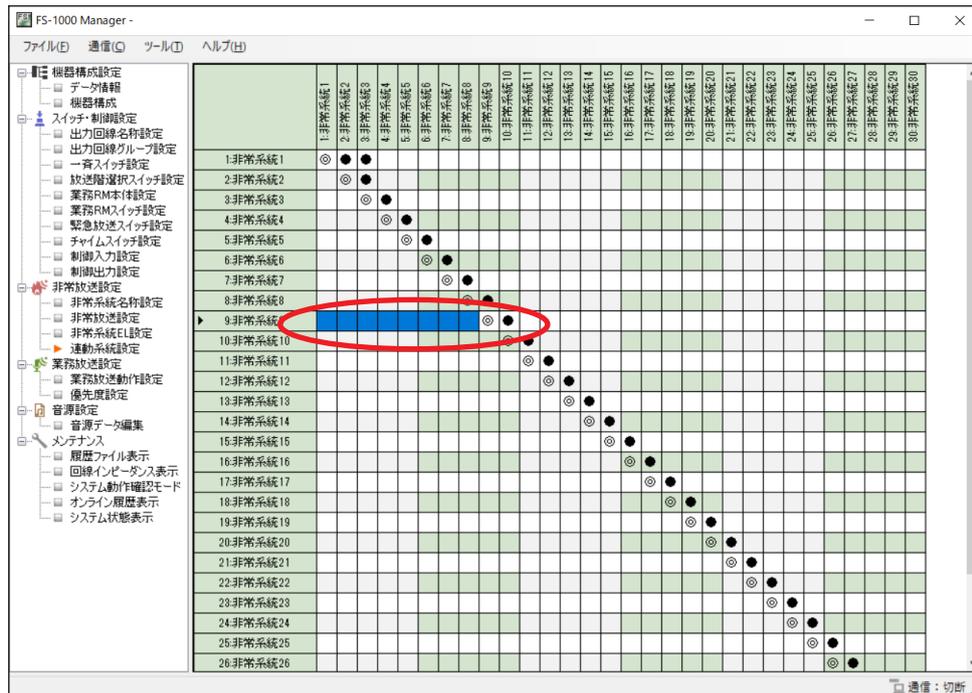
選択されている箇所をダブルクリック、または Delete キーを押すと選択が解除されます。

[連動システムを複数追加するときの例]

1 追加したいシステムのセルをドラッグする。

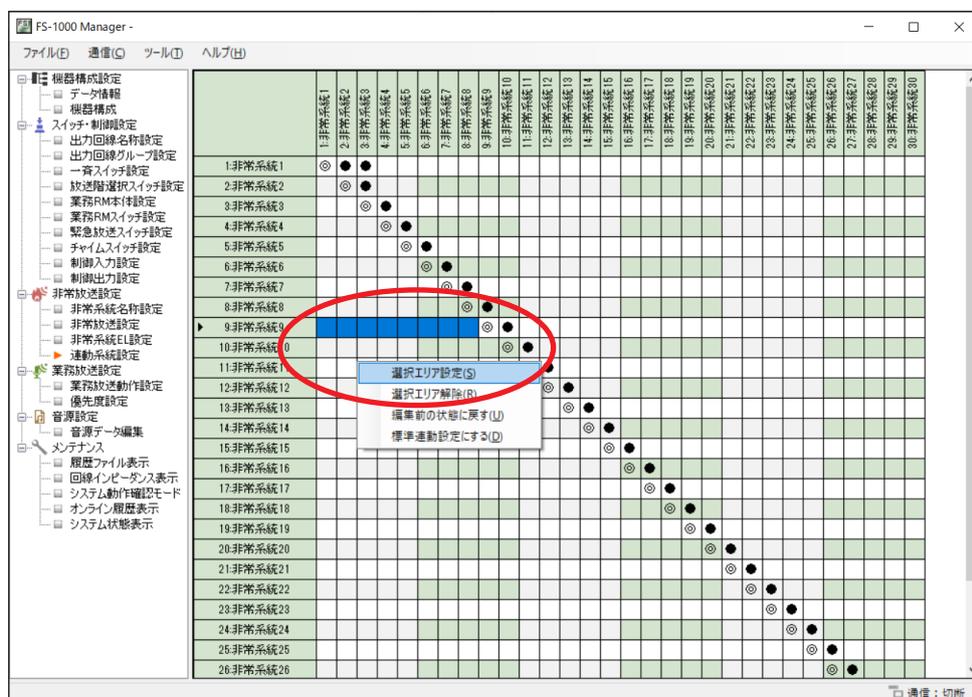
選択されたセルの色が青色になります。

(非常システム 1～8 を選択した例)



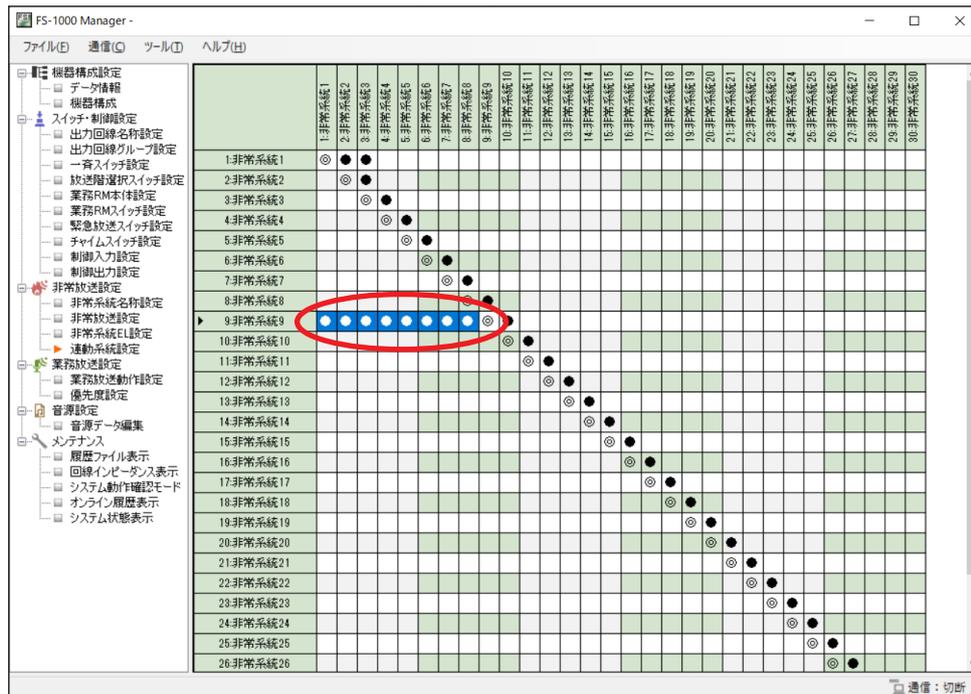
2 Enter キーを押すか、またはマウスを右クリックし「選択エリア設定」をクリックする。

(マウスを右クリックした例)



選択した箇所に「●」がつき、連動系統に追加されます。

(非常系統 9 の連動系統に非常系統 1～8 を追加した例)



× 毛

解除したい回線を選択し Delete キーを押すか、またはマウスの右クリックで「選択エリア解除」を選択すると、連動系統の選択を解除できます。

# 業務放送設定

業務放送の動作と音源の優先度を設定します。

## ■ 業務放送動作設定

メニュー項目の「業務放送設定」→「業務動作設定」をクリックすると、業務動作設定画面が表示されます。業務放送時のBGM制御、連動チャイム、および非常断24Vの設定をします。

### ご注意

機器構成設定で未設定のユニットについては設定できません。



※上の画面は、設定後の画面例です。ボイススイッチ設定は、BGM制御設定で「ボイススイッチ」を選択したときのみ表示されます。

### ① BGM 制御設定

BGM 放送と各放送とが同時に行われたときに、BGM 放送をどのように制御するかを選択します。音源によって設定できる項目が異なります。

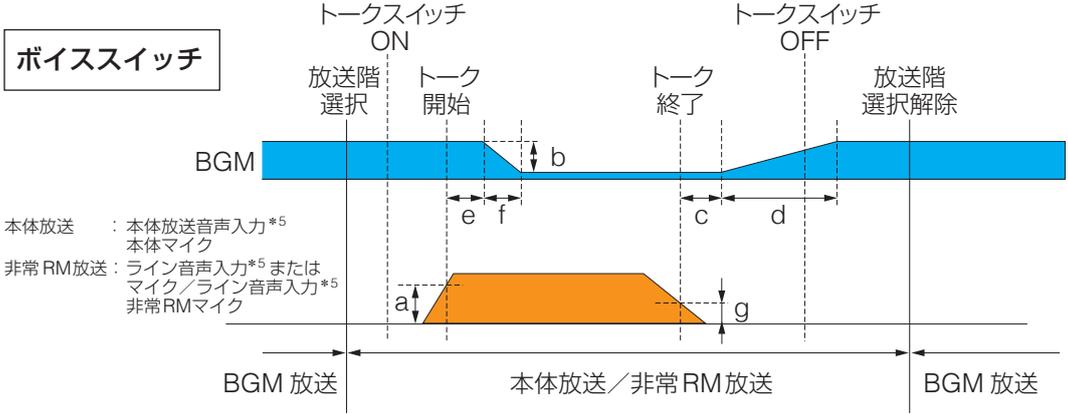
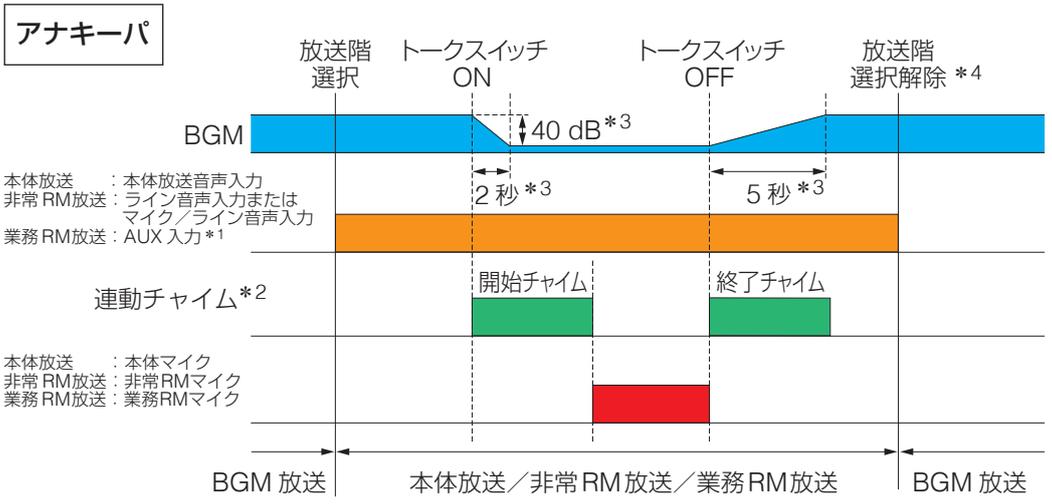
#### 【音源が本体放送、非常 RM 放送、業務 RM 放送の場合】

(本体放送・非常 RM 放送時のデフォルト：ボイススイッチ、業務 RM 放送時のデフォルト：アナキーパ)

設定範囲	アナキーパ、ボイススイッチ*、ミュート、カット、制御なし
------	------------------------------

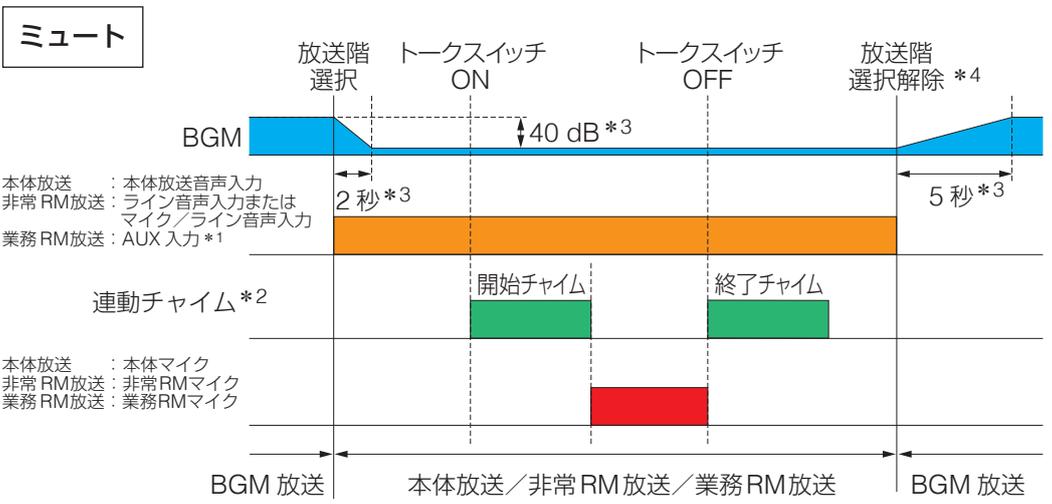
\*音源が業務 RM 放送の場合は、「ボイススイッチ」は選択できません。音源が本体放送、非常 RM 放送の場合は、FS-1000 本体のファームウェアバージョンが 2.00 以降のときのみ、ボイススイッチ機能を使用できます。

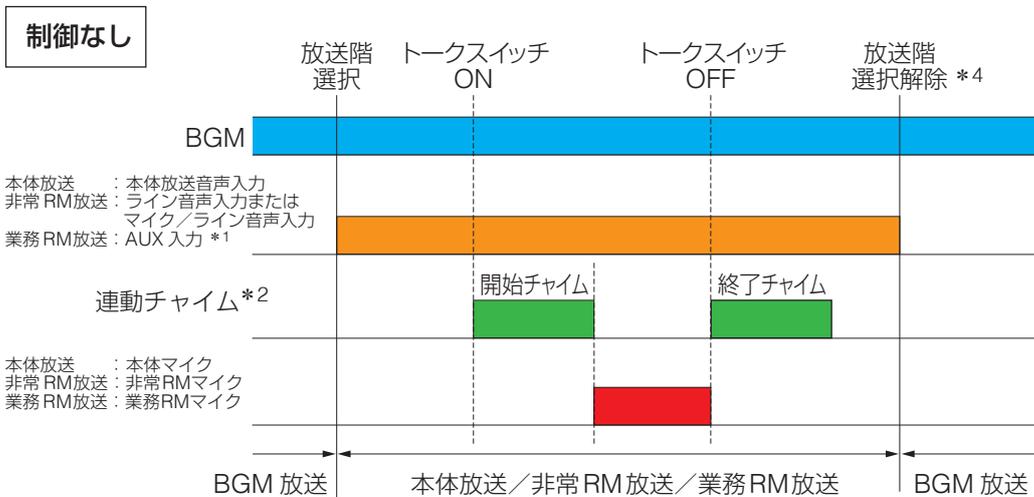
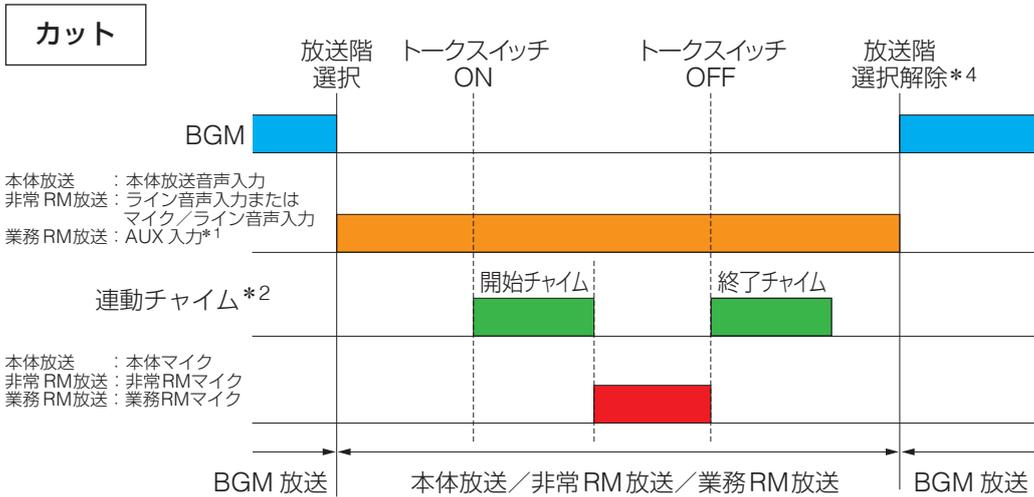
BGM 制御設定により、各放送は次ページに示す動作になります。



	パラメーター	設定範囲	初期値
a	感度	-40 ~ -1 dB	-30 dB
b	BGM 減衰量	-∞、-50 ~ -10 dB	-40 dB
c	ホールド時間	1 ~ 10 秒	2 秒
d	BGM 復帰時間	0 ~ 10 秒	1 秒
e	減衰開始時間	0 ~ 10 秒	0 秒
f	減衰時間	0 ~ 10 秒	0 秒
g	復帰開始感度	-50 ~ 0 dB	-40 dB

※ ボイススイッチには連動チャイムはありません。  
 連動チャイムを使用する場合は、アナキーパを利用してください。





\*1 RM-200F で AUX 入力を使用する場合。

\*2 開始/終了チャイムを「未使用」に設定しているときは、トークスイッチ ON/OFF 時または接点メイク/ブレイク時にチャイム音を鳴らしません。

\*3 減衰 (2 秒)・復旧時間 (5 秒)・減衰量 (-40 dB) は固定です。

\*4 以下の場合、業務用リモコンのマイク放送を終了すると、自動的に放送階選択が解除されます。

- RM-500 の「プリセレクト設定：使用しない」かつ「自動復旧設定：あり」の場合
- RM-500 の「プリセレクト設定：使用する」かつ「自動復旧設定：あり」の場合に、AUX 放送が放送されていないとき
- RM-200F の AUX 入力が未使用の場合
- RM-200FW の場合

\*5 あらかじめ音声が入力されている場合は、放送階選択が行われた時点でボイススイッチ機能が働きます。

## 【音源が接点式 RM 放送、タイマー放送、電話ページング放送、外部マイク放送の場合】

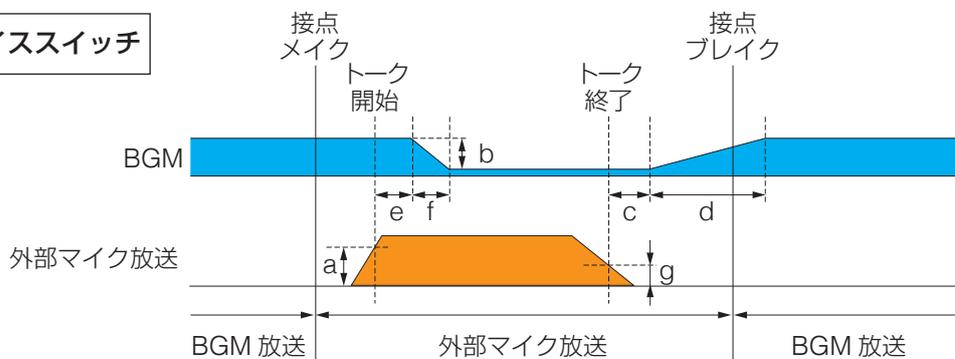
(デフォルト：ミュート)

設定範囲 | ボイススイッチ\*1、ミュート、カット、制御なし

\*1 音源が外部マイク放送以外の場合は「ボイススイッチ」を選択できません。音源が外部マイク放送の場合は、FS-1000 本体のファームウェアバージョンが 3.01 以降のときのみ、ボイススイッチ機能を使用できます。

BGM 制御設定により、各放送は以下に示す動作になります。

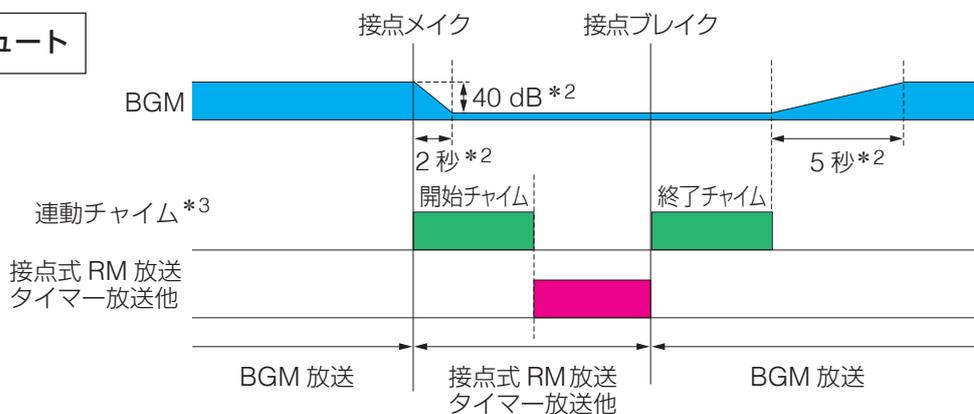
### ボイススイッチ



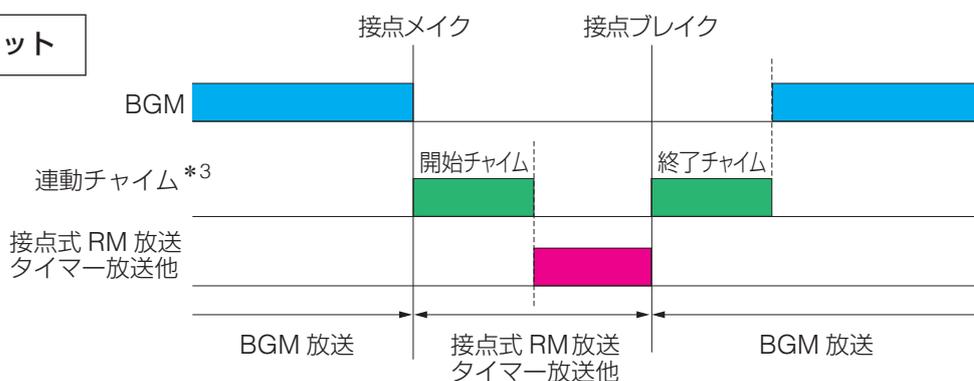
	パラメーター	設定範囲	初期値
a	感度	-40 ~ -1 dB	-30 dB
b	BGM 減衰量	-∞、-50 ~ -10 dB	-40 dB
c	ホールド時間	1 ~ 10 秒	2 秒
d	BGM 復帰時間	0 ~ 10 秒	1 秒
e	減衰開始時間	0 ~ 10 秒	0 秒
f	減衰時間	0 ~ 10 秒	0 秒
g	復帰開始感度	-50 ~ 0 dB	-40 dB

※ ボイススイッチには連動チャイムはありません。  
連動チャイムを使用する場合は、アナキーパを利用してください。

### ミュート

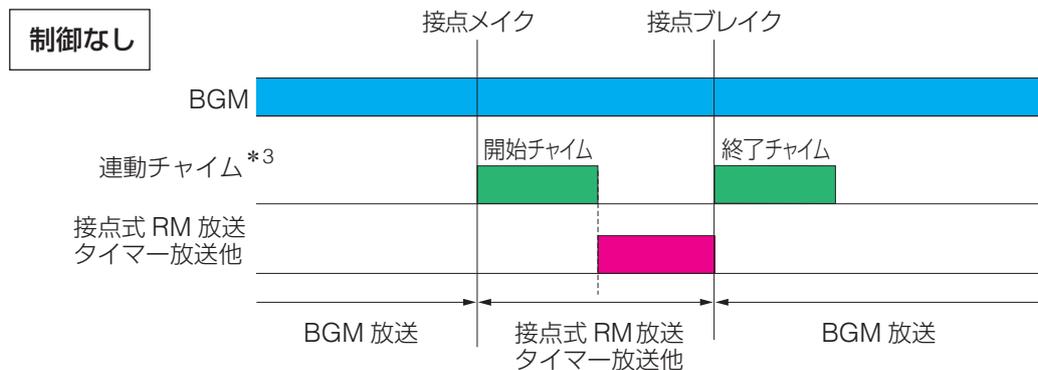


### カット



\*2 減衰 (2 秒)・復旧時間 (5 秒)・減衰量 (-40 dB) は固定です。

\*3 開始/終了チャイムを「未使用」に設定しているときは、接点メイク/ブレイク時にチャイム音を鳴らしません。



\*3 開始/終了チャイムを「未使用」に設定しているときは、接点メイク/ブレイク時にチャイム音を鳴らしません。

## ② チャイム連動設定 起動チャイム

業務放送を開始するときに連動する開始チャイムの設定を行います。(デフォルト：未使用)

設定範囲	未使用、チャイム 1～4
------	--------------

※ チャイム 1～4 の音源は以下のとおりです。

チャイム 1：上り 4 音      チャイム 2：下り 4 音  
 チャイム 3：2 音          チャイム 4：ゴング

### ご注意

- BGM 制御設定を「ボイススイッチ」に設定した場合は、設定できません。
- 未接続のユニットは、設定できません。

## ③ チャイム連動設定 終了チャイム

業務放送を終了するときに連動する終了チャイムの設定を行います。(デフォルト：未使用)

設定範囲	未使用、チャイム 1～4
------	--------------

※ チャイム 1～4 の音源は以下のとおりです。

チャイム 1：上り 4 音      チャイム 2：下り 4 音  
 チャイム 3：2 音          チャイム 4：ゴング

### ご注意

- BGM 制御設定を「ボイススイッチ」に設定した場合は、設定できません。
- 未接続のユニットは、設定できません。

## ④ 非常断 24 V 設定

業務放送時に制御される DC24 V の出力設定をします。(デフォルト：継続)

継続      : 業務放送中でも、DC24 V が出力されます。

カット     : 業務放送中は、DC24 V を出力しません。

緊急カット: 通常放送モードの業務放送時は DC24 V を供給、業務緊急モードの業務放送時は DC 24 V の供給を遮断します。

設定範囲	継続、カット、緊急カット
------	--------------

### ご注意

上記の設定に関係なく、非常放送中は DC24 V をカットし、停電待機中は DC24 V が出力されます。

## ⑤ 作動表示灯設定

本体や非常用リモコンの放送階選択スイッチの作動表示灯の点灯方法を設定します。

(デフォルト：通常)

設定範囲	通常、自機放送中のみ、回線動作中
------	------------------

※ 表示モードの設定による具体的な動作の違いについては、別冊の操作説明書「作動表示灯の表示」をお読みください。

⑥ ボイススイッチ設定（BGM 制御設定で「ボイススイッチ」を選択したときのみ）



(a) ユニット選択タブ

「本体」（FS-1000）、「非常 RM1 ～ 4」（非常用リモコン）、または「外部マイク」のボイススイッチ設定画面を切り換えます。  
BGM 制御設定で「ボイススイッチ」が選択されている機器のみが表示されます。

(b) 感度

ボイススイッチが機能する入力信号のレベルを設定します。（デフォルト：-30 dB）

設定範囲	-40 ～ -1 dB
------	-------------

(c) BGM 減衰量

ボイススイッチが機能したときの BGM の減衰量を設定します。（デフォルト：-40 dB）

設定範囲	-∞（カット）、-50 ～ -10 dB
------	----------------------

(d) ホールド

入力信号がなくなった後に BGM が元のレベルへ復帰開始するまでの時間を設定します。（デフォルト：2 秒）

設定範囲	1 ～ 10 秒
------	----------

(e) BGM 復帰時間

BGM が元のレベルへ復帰するまでの時間を設定します。（デフォルト：1 秒）

設定範囲	0 ～ 10 秒
------	----------

(f) 減衰開始待ち時間

トーク開始から減衰が始まるまでの時間を設定します。（デフォルト：0 秒）

設定範囲	0 ～ 10 秒
------	----------

(g) 減衰時間

元のレベルから BGM 減衰量（c）で設定されたレベルに低下するまでの時間を設定します。（デフォルト：0 秒）

設定範囲	0 ～ 10 秒
------	----------

(h) 復帰開始感度

ボイススイッチを終了する入力信号のレベルを設定します。（デフォルト：-40 dB）

設定範囲	-50 ～ 0 dB
------	------------

× モ

ボイススイッチを継続して機能させるために、通常、復帰開始感度（h）は感度（b）の設定よりも低い値に設定します。

(i) 初期化

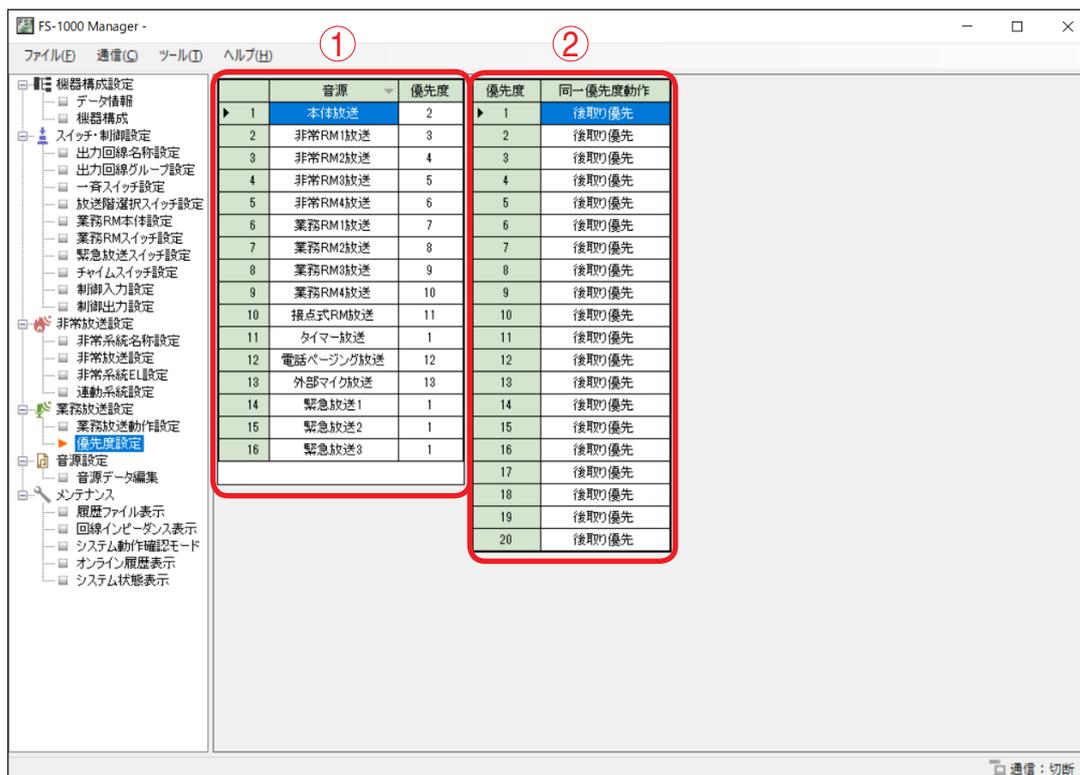
ボイススイッチ設定の各設定値をデフォルトに戻します。

# 優先度設定

メニュー項目の「業務放送設定」→「優先度設定」をクリックすると、優先度設定画面が表示されます。音源優先度の設定、同一優先度の制御設定をします。優先度についての詳細は、別冊の操作説明書「放送の優先度」をお読みください。

## ご注意

- 機器構成設定で未設定のユニットについては設定できません。
- BGM 放送には優先度はありません。BGM 制御設定に従います。  
(別冊の操作説明書「BGM 制御設定」)
- RM-1100 同士の優先度については、別冊の設置説明書「複数台接続時の優先順位の設定」をお読みください。



## ① 優先度

優先度を選択します。数値が小さいほど、優先度は高くなります。表のタイトル列をクリックするたびに、優先度の表示が昇順または降順に切り換わります。

設定範囲	1 ~ 20
------	--------

デフォルトの優先度設定は以下のとおりです。

音源	優先度	音源	優先度	音源	優先度
本体放送	2	業務 RM2	8	外部マイク	13
非常 RM1	3	業務 RM3	9	緊急放送 1	1
非常 RM2	4	業務 RM4	10	緊急放送 2	1
非常 RM3	5	接点式 RM	11	緊急放送 3	1
非常 RM4	6	タイマー	1	緊急放送 4	1
業務 RM1	7	電話ページング	12		

- 優先度の高い入力音源がすでに放送されている回線には放送できません。
- 優先度の低い入力音源がすでに放送されている回線には、割り込んで放送します。
- 同じ優先度を設定した場合は「同一優先度動作」によって放送の優先が決まります。

## ② 同一優先度動作

複数の入力音源に同じ優先度を設定した場合に、どの放送を優先させるのか（制御方式）を設定します。  
（デフォルト：後取り優先）

後取り優先：優先度の同じ入力音源がすでに放送されている回線には、割り込んで放送します。  
優先放送後、元の放送は復帰します。

先取り優先：優先度の同じ入力音源がすでに放送されている回線には放送できません。

設定範囲	後取り優先、先取り優先
------	-------------

# 音源設定

## ■ 音源データ編集

メニュー項目の「音源設定」－「音源データ編集」をクリックすると、音源データ編集画面が表示されます。音源データを別の音源データに変更したり、複数の音源データを組み合わせて新たな音源データを作成して変更したりすることができます。

### ご注意

- 新たに作成した音源データは、すでにある音源データと変更はできませんが、新規メッセージとして追加登録はできません。
- 音源データの合計サイズが 200 MB \* を超えると、FS-1000 本体に格納できません。合計サイズが 200 MB \* 以下になるように登録または編集を行ってください。

\* 200 MB に対応しているのは、FS-1000 本体が FS-1010FU の場合は生産ロット番号が 17F (2017 年 6 月生産を表す) で始まるもの以降、FS-1020FU および FS-1030FU の場合は生産ロット番号が 17H (2017 年 8 月生産を表す) で始まるもの以降です。

上記より前のものについては、音源データの合計サイズは 60 MB までとなっています。

生産ロット番号は、FS-1000 本体の操作部扉を開いた裏面の右下に貼ってあるシールに記載されています。

### メモ

編集した音源データは、設定データの保存時に、同じフォルダー内の edit\_data フォルダー内に保存されます。

番号	名称	ファイル名称(女声)	サイズ	ファイル名称(男声)	サイズ
1	地下1階	WJEL_001.wav	69 KB	MJEL_001.wav	66 KB
2	地下2階	WJEL_002.wav	65 KB	MJEL_002.wav	59 KB
3	地下3階	WJEL_003.wav	73 KB	MJEL_003.wav	64 KB
4	地下4階	WJEL_004.wav	78 KB	MJEL_004.wav	68 KB
5	地下5階	WJEL_005.wav	64 KB	MJEL_005.wav	61 KB
6	1階	WJEL_006.wav	56 KB	MJEL_006.wav	48 KB
7	2階	WJEL_007.wav	51 KB	MJEL_007.wav	45 KB
8	3階	WJEL_008.wav	61 KB	MJEL_008.wav	52 KB
9	4階	WJEL_009.wav	55 KB	MJEL_009.wav	52 KB
10	5階	WJEL_010.wav	45 KB	MJEL_010.wav	43 KB
11	6階	WJEL_011.wav	54 KB	MJEL_011.wav	51 KB
12	7階	WJEL_012.wav	55 KB	MJEL_012.wav	51 KB
13	8階	WJEL_013.wav	56 KB	MJEL_013.wav	52 KB
14	9階	WJEL_014.wav	53 KB	MJEL_014.wav	51 KB
15	10階	WJEL_015.wav	53 KB	MJEL_015.wav	54 KB
16	11階	WJEL_016.wav	66 KB	MJEL_016.wav	64 KB
17	12階	WJEL_017.wav	65 KB	MJEL_017.wav	56 KB
18	13階	WJEL_018.wav	72 KB	MJEL_018.wav	68 KB
19	14階	WJEL_019.wav	71 KB	MJEL_019.wav	62 KB
20	15階	WJEL_020.wav	63 KB	MJEL_020.wav	57 KB
21	16階	WJEL_021.wav	69 KB	MJEL_021.wav	62 KB
22	17階	WJEL_022.wav	69 KB	MJEL_022.wav	61 KB
23	18階	WJEL_023.wav	68 KB	MJEL_023.wav	62 KB
24	19階	WJEL_024.wav	70 KB	MJEL_024.wav	64 KB
25	20階	WJEL_025.wav	60 KB	MJEL_025.wav	60 KB
26	21階	WJEL_026.wav	78 KB	MJEL_026.wav	74 KB
27	22階	WJEL_027.wav	74 KB	MJEL_027.wav	69 KB
28	23階	WJEL_028.wav	81 KB	MJEL_028.wav	73 KB

※ ファイル名称は変更できません。

※ ファイル名の最後に\*が付いているファイルは、デフォルトの音源から変更があったことを示します。

### ① 音源データ選択タブ

編集する音源データの種別を以下の項目から選択します。

階メッセージ (日本語)、階メッセージ (第二言語)、階メッセージ (第三言語)、

階メッセージ (第四言語)、音声警報メッセージ、緊急メッセージ、チャイム、点検音源

### ご注意

- 日本語の音声警報メッセージを変更することはできません。
- 業務用リモコン RM-200F、RM-200FW のチャイム音は変更できません。

## ② 編集ボタン

音源データの編集を行います。wav ファイルを組み合わせる音源データを作成することができます。編集したい音源データのファイル名称のセルをクリックして選択してから、このボタンをクリックしてください。編集画面が表示されます。

### (a) 登録ボタン

組み合わせに使用する wav ファイルを登録します。wav ファイルは番号順に連結されます。

### (b) 削除ボタン

選択した wav ファイルの登録を解除します。

### (c) 試聴ボタン

登録した音源データを試聴します。

### (d) 停止ボタン

試聴中の音源データの再生を停止します。

### (e) 決定ボタン

登録した音源データを組み合わせ、放送で使用する音源データとして登録します。

### 【ご注意】

ファイル名称は、選択しているセルに表示されているファイル名称になり、変更はできません。

### (f) キャンセルボタン

音源データの編集を中止して、編集画面を閉じます。



## ③ 登録ボタン

音源データの登録を開始します。読み込んだ音源データを選択した箇所に割り当てることができます。登録したい箇所のファイル名称のセルをクリックして選択してから、このボタンをクリックしてください。音源データを指定すると、放送で使用する音源データとして登録されます。

### 【ご注意】

ファイル名称は、選択しているセルに表示されているファイル名称になり、変更はできません。

## ④ 削除ボタン

登録した音源データを削除します。

マウスのドラッグや Shift キーによる範囲選択、または Ctrl キーによる複数選択をすることで、複数の音源データを同時に削除することもできます。

### 【ご注意】

音声警報メッセージ、緊急メッセージ、チャイム、および点検音源は削除できません。

## ⑤ 戻すボタン

変更した音源データを、デフォルトの音源データに戻します。

マウスのドラッグや Shift キーによる範囲選択、または Ctrl キーによる複数選択をすることで、複数の音源データを同時にデフォルトの音源データに戻すことも可能です。

## ⑥ 試聴ボタン

選択した音源データを試聴します。

## ⑦ 停止ボタン

試聴中の音源データの再生を停止します。

## ⑧ コピーボタン

選択した箇所の音源データをコピーします。

## ⑨ 貼り付けボタン

コピーした音源データを選択した箇所に貼り付けます。

## ⑩ 合計サイズ

FS-1000 本体にアップロードする音源データの合計サイズが表示されます。

## ● 音源データ編集例 1 (既存の階メッセージを別途作成した階メッセージに変更する)

ここでは、例としてデフォルトの階メッセージ「新館エレベーター」を別途作成した階メッセージ「旧館エレベーター」に変更する手順を記載しています。

### 1 新規の設定データを作成するか、既存の設定データを開く。

#### ご注意

新たに作成した音源データは、すでにある音源データと変更はできますが、新規メッセージとしては追加登録できません。

#### メモ

編集した音源データは、設定データの保存時に、同じフォルダー内の edit\_data フォルダー内に保存されます。

### 2 ファイル名称 (女声) 列の音源データ「WJEL\_080.wav」を、別途用意した音源データに変更する。

#### 2-1 80番「新館エレベーター」のファイル名称 (女声)「WJEL\_080.wav」をクリックする。

The screenshot shows the 'FS-1000 Manager' application window. The main area displays a table with columns: 番号 (No.), 名称 (Name), ファイル名称(女声) (File Name (Female Voice)), サイズ (Size), ファイル名称(男声) (File Name (Male Voice)), and サイズ (Size). The row for '新館エレベーター' (No. 80) is highlighted with a red circle, and a mouse cursor is pointing at the 'WJEL\_080.wav' file name.

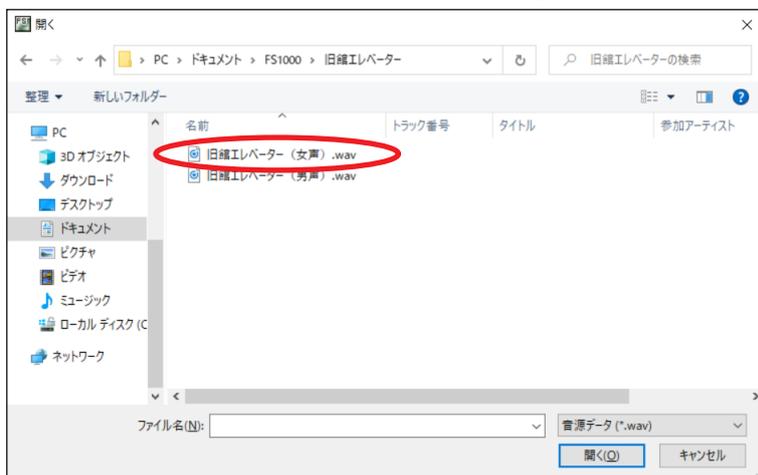
番号	名称	ファイル名称(女声)	サイズ	ファイル名称(男声)	サイズ
54	エレベーター	WJEL_054.wav	73 KB	MJEL_054.wav	65 KB
55	エレベーターシャフト	WJEL_055.wav	99 KB	MJEL_055.wav	89 KB
56	エレベーター機械室	WJEL_056.wav	116 KB	MJEL_056.wav	104 KB
57	機械室	WJEL_057.wav	69 KB	MJEL_057.wav	62 KB
58	風除室	WJEL_058.wav	71 KB	MJEL_058.wav	62 KB
59	本館地下1階	WJEL_059.wav	123 KB	MJEL_059.wav	112 KB
60	本館1階	WJEL_060.wav	98 KB	MJEL_060.wav	91 KB
61	本館2階	WJEL_061.wav	93 KB	MJEL_061.wav	88 KB
62	本館3階	WJEL_062.wav	102 KB	MJEL_062.wav	94 KB
63	本館4階	WJEL_063.wav	103 KB	MJEL_063.wav	92 KB
64	本館5階	WJEL_064.wav	95 KB	MJEL_064.wav	89 KB
65	本館6階	WJEL_065.wav	101 KB	MJEL_065.wav	98 KB
66	本館屋上	WJEL_066.wav	105 KB	MJEL_066.wav	99 KB
67	本館塔屋	WJEL_067.wav	92 KB	MJEL_067.wav	85 KB
68	本館階段	WJEL_068.wav	99 KB	MJEL_068.wav	92 KB
69	本館エレベーター	WJEL_069.wav	118 KB	MJEL_069.wav	109 KB
70	新館地下1階	WJEL_070.wav	126 KB	MJEL_070.wav	116 KB
71	新館1階	WJEL_071.wav	103 KB	MJEL_071.wav	95 KB
72	新館2階	WJEL_072.wav	98 KB	MJEL_072.wav	91 KB
73	新館3階	WJEL_073.wav	107 KB	MJEL_073.wav	98 KB
74	新館4階	WJEL_074.wav	107 KB	MJEL_074.wav	96 KB
75	新館5階	WJEL_075.wav	99 KB	MJEL_075.wav	93 KB
76	新館6階	WJEL_076.wav	106 KB	MJEL_076.wav	102 KB
77	新館屋上	WJEL_077.wav	110 KB	MJEL_077.wav	102 KB
78	新館塔屋	WJEL_078.wav	97 KB	MJEL_078.wav	89 KB
79	新館階段	WJEL_079.wav	104 KB	MJEL_079.wav	96 KB
80	新館エレベーター	WJEL_080.wav	103 KB	MJEL_080.wav	118 KB

## 2-2 [登録] ボタンをクリックする。



## 2-3 別途用意した音源データが保存されているフォルダーを開き、対象の音源データを選択し、[開く] ボタンをクリックする。

ここでは、「旧館エレベーター（女声）.wav」を選択します。



音源データが入れ換わります。

[試聴] ボタンを押すと、登録データの再生ができます。

## ご注意

階メッセージを新規の音源に変更しても、音源データのファイル名称は「WJEL\_080.wav」のまま変更されません。ただし、デフォルトの音源から変更すると、ファイル名称の後に「\*」が付いて表示されます。

番号	名称	ファイル名称(女声)	サイズ	ファイル名称(男声)	サイズ
54	エレベーター	WJEL_054.wav	73 KB	MJEL_054.wav	65 KB
55	エレベーターシャフト	WJEL_055.wav	99 KB	MJEL_055.wav	89 KB
56	エレベーター機械室	WJEL_056.wav	116 KB	MJEL_056.wav	104 KB
57	機械室	WJEL_057.wav	69 KB	MJEL_057.wav	62 KB
58	風除室	WJEL_058.wav	71 KB	MJEL_058.wav	62 KB
59	本館地下1階	WJEL_059.wav	123 KB	MJEL_059.wav	112 KB
60	本館1階	WJEL_060.wav	98 KB	MJEL_060.wav	91 KB
61	本館2階	WJEL_061.wav	93 KB	MJEL_061.wav	88 KB
62	本館3階	WJEL_062.wav	102 KB	MJEL_062.wav	94 KB
63	本館4階	WJEL_063.wav	103 KB	MJEL_063.wav	92 KB
64	本館5階	WJEL_064.wav	95 KB	MJEL_064.wav	89 KB
65	本館6階	WJEL_065.wav	101 KB	MJEL_065.wav	98 KB
66	本館屋上	WJEL_066.wav	105 KB	MJEL_066.wav	99 KB
67	本館塔屋	WJEL_067.wav	92 KB	MJEL_067.wav	85 KB
68	本館階段	WJEL_068.wav	99 KB	MJEL_068.wav	92 KB
69	本館エレベーター	WJEL_069.wav	118 KB	MJEL_069.wav	109 KB
70	新館地下1階	WJEL_070.wav	126 KB	MJEL_070.wav	116 KB
71	新館1階	WJEL_071.wav	103 KB	MJEL_071.wav	95 KB
72	新館2階	WJEL_072.wav	98 KB	MJEL_072.wav	91 KB
73	新館3階	WJEL_073.wav	107 KB	MJEL_073.wav	98 KB
74	新館4階	WJEL_074.wav	107 KB	MJEL_074.wav	96 KB
75	新館5階	WJEL_075.wav	99 KB	MJEL_075.wav	93 KB
76	新館6階	WJEL_076.wav	106 KB	MJEL_076.wav	102 KB
77	新館屋上	WJEL_077.wav	110 KB	MJEL_077.wav	102 KB
78	新館塔屋	WJEL_078.wav	97 KB	MJEL_078.wav	89 KB
79	新館階段	WJEL_079.wav	104 KB	MJEL_079.wav	96 KB
▶ 80	新館エレベーター	WJEL_080.wav *	156 KB	MJEL_080.wav	113 KB

### 3 ファイル名称 (男声) 列の音源データ「MJEL\_080.wav」を別途用意した音源データに変更する。

80番「新館エレベーター」のファイル名称 (男声) 「MJEL\_080.wav」をクリックし、手順2と同様の操作で、音源データを「旧館エレベーター (男声) .wav」に変更します。

番号	名称	ファイル名称(女声)	サイズ	ファイル名称(男声)	サイズ
54	エレベーター	WJEL_054.wav	73 KB	MJEL_054.wav	65 KB
55	エレベーターシャフト	WJEL_055.wav	99 KB	MJEL_055.wav	89 KB
56	エレベーター機械室	WJEL_056.wav	116 KB	MJEL_056.wav	104 KB
57	機械室	WJEL_057.wav	69 KB	MJEL_057.wav	62 KB
58	風除室	WJEL_058.wav	71 KB	MJEL_058.wav	62 KB
59	本館地下1階	WJEL_059.wav	123 KB	MJEL_059.wav	112 KB
60	本館1階	WJEL_060.wav	98 KB	MJEL_060.wav	91 KB
61	本館2階	WJEL_061.wav	93 KB	MJEL_061.wav	88 KB
62	本館3階	WJEL_062.wav	102 KB	MJEL_062.wav	94 KB
63	本館4階	WJEL_063.wav	103 KB	MJEL_063.wav	92 KB
64	本館5階	WJEL_064.wav	95 KB	MJEL_064.wav	89 KB
65	本館6階	WJEL_065.wav	101 KB	MJEL_065.wav	98 KB
66	本館屋上	WJEL_066.wav	105 KB	MJEL_066.wav	99 KB
67	本館塔屋	WJEL_067.wav	92 KB	MJEL_067.wav	85 KB
68	本館階段	WJEL_068.wav	99 KB	MJEL_068.wav	92 KB
69	本館エレベーター	WJEL_069.wav	118 KB	MJEL_069.wav	109 KB
70	新館地下1階	WJEL_070.wav	126 KB	MJEL_070.wav	116 KB
71	新館1階	WJEL_071.wav	103 KB	MJEL_071.wav	95 KB
72	新館2階	WJEL_072.wav	98 KB	MJEL_072.wav	91 KB
73	新館3階	WJEL_073.wav	107 KB	MJEL_073.wav	98 KB
74	新館4階	WJEL_074.wav	107 KB	MJEL_074.wav	96 KB
75	新館5階	WJEL_075.wav	99 KB	MJEL_075.wav	93 KB
76	新館6階	WJEL_076.wav	106 KB	MJEL_076.wav	102 KB
77	新館屋上	WJEL_077.wav	110 KB	MJEL_077.wav	102 KB
78	新館塔屋	WJEL_078.wav	97 KB	MJEL_078.wav	89 KB
79	新館階段	WJEL_079.wav	104 KB	MJEL_079.wav	96 KB
▶ 80	新館エレベーター	WJEL_080.wav *	156 KB	MJEL_080.wav *	154 KB

## 4 階メッセージの名称を変更する。

この例では階メッセージの名称を「新館エレベーター」から「旧館エレベーター」に変更します。  
※ 名称を変更しても、音源データには影響ありません。

番号	名称	ファイル名称(女声)	サイズ	ファイル名称(男声)	サイズ
54	エレベーター	WJEL_054.wav	73 KB	MJEL_054.wav	65 KB
55	エレベーターシャフト	WJEL_055.wav	99 KB	MJEL_055.wav	89 KB
56	エレベーター機械室	WJEL_056.wav	116 KB	MJEL_056.wav	104 KB
57	機械室	WJEL_057.wav	69 KB	MJEL_057.wav	62 KB
58	風除室	WJEL_058.wav	71 KB	MJEL_058.wav	62 KB
59	本館地下1階	WJEL_059.wav	123 KB	MJEL_059.wav	112 KB
60	本館1階	WJEL_060.wav	98 KB	MJEL_060.wav	91 KB
61	本館2階	WJEL_061.wav	93 KB	MJEL_061.wav	88 KB
62	本館3階	WJEL_062.wav	102 KB	MJEL_062.wav	94 KB
63	本館4階	WJEL_063.wav	103 KB	MJEL_063.wav	92 KB
64	本館5階	WJEL_064.wav	95 KB	MJEL_064.wav	89 KB
65	本館6階	WJEL_065.wav	101 KB	MJEL_065.wav	98 KB
66	本館屋上	WJEL_066.wav	105 KB	MJEL_066.wav	99 KB
67	本館塔屋	WJEL_067.wav	92 KB	MJEL_067.wav	85 KB
68	本館階段	WJEL_068.wav	99 KB	MJEL_068.wav	92 KB
69	本館エレベーター	WJEL_069.wav	118 KB	MJEL_069.wav	109 KB
70	新館地下1階	WJEL_070.wav	126 KB	MJEL_070.wav	116 KB
71	新館1階	WJEL_071.wav	103 KB	MJEL_071.wav	95 KB
72	新館2階	WJEL_072.wav	98 KB	MJEL_072.wav	91 KB
73	新館3階	WJEL_073.wav	107 KB	MJEL_073.wav	98 KB
74	新館4階	WJEL_074.wav	107 KB	MJEL_074.wav	96 KB
75	新館5階	WJEL_075.wav	99 KB	MJEL_075.wav	93 KB
76	新館6階	WJEL_076.wav	106 KB	MJEL_076.wav	102 KB
77	新館屋上	WJEL_077.wav	110 KB	MJEL_077.wav	102 KB
78	新館塔屋	WJEL_078.wav	97 KB	MJEL_078.wav	89 KB
79	新館階段	WJEL_079.wav	104 KB	MJEL_079.wav	96 KB
80	旧館エレベーター	WJEL_080.wav *	156 KB	MJEL_080.wav *	154 KB

## 5 CFカードにデータを書き込む。

CFカードイメージ作成 (P. 110) でパソコンからCFカードにデータを書き込みます。

メモ

音源データをパソコンからFS-1000本体のCFカードにオンラインで書き込むこともできます。

詳しくはP. 97「設定・音源データをFS-1000にアップロードする」をお読みください。

- 新規作成(N)... Ctrl+N
- 開く(O)
- 上書き保存(S) Ctrl+S
- 名前を付けて保存(A)...
- CFカードイメージを讀込(R)...
- CFカードイメージを作成(W)...**
- 設定データ出力(B)... Alt+P
- ラベル出力(L)... Ctrl+P
- 履歴出力(H)... Ctrl+Shift+P
- 終了(X) Alt+F4

## 6 FS-1000本体に手順5のCFカードを差し込み、音源データの更新を行い、入れ換えを完了する。

FS-1000本体での音源データの更新方法については、FS-1000システム設定説明書をお読みください。

## ● 音源データ編集例 2（複数の文節音源データを組み合わせて新たな階メッセージを作成する）

ここでは、例として FS-1000 Manager のインストールフォルダー内にある複数の文節音源データを組み合わせて新たな階メッセージを作成し、デフォルトの階メッセージと入れ換える手順を記載しています。

### 1 新規の設定データを作成するか、既存の設定データを開く。

#### 【ご注意】

新たに作成した音源データは、すでにある音源データと変更はできますが、新規メッセージとしては追加登録できません。

#### 【メモ】

編集した音源データは、設定データの保存時に、同じフォルダー内の edit\_data フォルダー内に保存されます。

### 2 ファイル名称（女声）列の音源データ「WJEL\_070.wav」を、複数の文節音源データを組み合わせたものに変更する。

2-1 70 番「新館地下1階」のファイル名称（女声）「WJEL\_070.wav」をクリックする。

The screenshot shows the FS-1000 Manager interface. On the left is a tree view of settings. The main area displays a table of audio data. The file 'WJEL\_070.wav' is highlighted in blue and circled in red. The table has columns for '番号' (Number), '名称' (Name), 'ファイル名称(女声)' (File Name (Female Voice)), 'サイズ' (Size), 'ファイル名称(男声)' (File Name (Male Voice)), and 'サイズ' (Size).

番号	名称	ファイル名称(女声)	サイズ	ファイル名称(男声)	サイズ
54	エレベーター	WJEL_054.wav	73 KB	MJEL_054.wav	65 KB
55	エレベーターシャフト	WJEL_055.wav	99 KB	MJEL_055.wav	89 KB
56	エレベーター機械室	WJEL_056.wav	116 KB	MJEL_056.wav	104 KB
57	機械室	WJEL_057.wav	69 KB	MJEL_057.wav	62 KB
58	風除室	WJEL_058.wav	71 KB	MJEL_058.wav	62 KB
59	本館地下1階	WJEL_059.wav	123 KB	MJEL_059.wav	112 KB
60	本館1階	WJEL_060.wav	98 KB	MJEL_060.wav	91 KB
61	本館2階	WJEL_061.wav	93 KB	MJEL_061.wav	88 KB
62	本館3階	WJEL_062.wav	102 KB	MJEL_062.wav	94 KB
63	本館4階	WJEL_063.wav	103 KB	MJEL_063.wav	92 KB
64	本館5階	WJEL_064.wav	95 KB	MJEL_064.wav	89 KB
65	本館6階	WJEL_065.wav	101 KB	MJEL_065.wav	98 KB
66	本館屋上	WJEL_066.wav	105 KB	MJEL_066.wav	99 KB
67	本館塔屋	WJEL_067.wav	92 KB	MJEL_067.wav	85 KB
68	本館階段	WJEL_068.wav	99 KB	MJEL_068.wav	92 KB
69	本館エレベーター	WJEL_069.wav	118 KB	MJEL_069.wav	109 KB
70	新館地下1階	WJEL_070.wav	116 KB	MJEL_070.wav	116 KB
71	新館1階	WJEL_071.wav	103 KB	MJEL_071.wav	95 KB
72	新館2階	WJEL_072.wav	98 KB	MJEL_072.wav	91 KB
73	新館3階	WJEL_073.wav	107 KB	MJEL_073.wav	98 KB
74	新館4階	WJEL_074.wav	107 KB	MJEL_074.wav	96 KB
75	新館5階	WJEL_075.wav	99 KB	MJEL_075.wav	93 KB
76	新館6階	WJEL_076.wav	106 KB	MJEL_076.wav	102 KB
77	新館屋上	WJEL_077.wav	110 KB	MJEL_077.wav	102 KB
78	新館塔屋	WJEL_078.wav	97 KB	MJEL_078.wav	89 KB
79	新館階段	WJEL_079.wav	104 KB	MJEL_079.wav	96 KB
80	新館エレベーター	WJEL_080.wav	123 KB	MJEL_080.wav	113 KB

## 2-2 [編集] ボタンをクリックする。

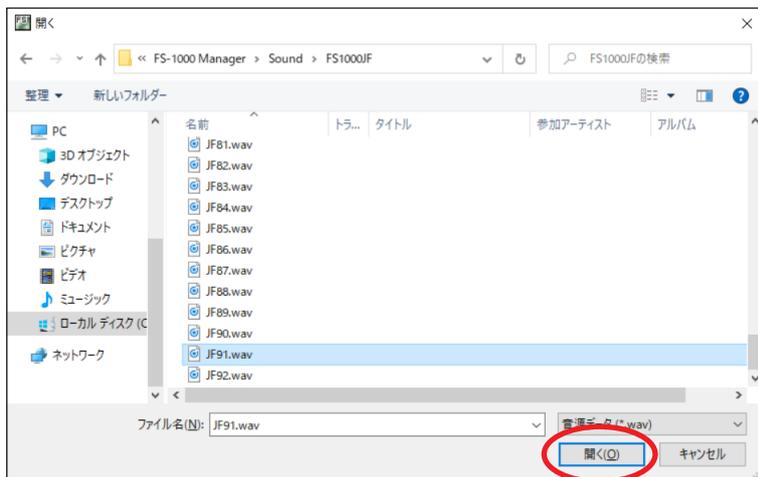


音源データ編集画面が開きます。

## 2-3 [登録] ボタンをクリックする。



## 2-4 標準の文節音源データのあるフォルダーからファイル名「JF91.wav」を選択する。



### メモ

FS-1000 Manager のインストールフォルダー内に、日本語と英語のみ、標準の文節音源データを用意しています。

文節音源データは、女声と男声のフォルダーに分かれており、デフォルトで以下のところに収められています。

(日本語)

32bit OS の場合 : C:\Program Files\TOA Corporation\FS-1000Manager\Sound\FS1000JF \*1  
 または FS1000JM \*2

64bit OS の場合 : C:\Program Files (x86)\TOA Corporation\FS-1000Manager\Sound\FS1000JF \*1  
 または FS1000JM \*2

(英語)

32bit OS の場合 : C:\Program Files\TOA Corporation\FS-1000Manager\Sound\FS1000EF \*1  
 または FS1000EM \*2

64bit OS の場合 : C:\Program Files (x86)\TOA Corporation\FS-1000Manager\Sound\FS1000EF \*1  
 または FS1000EM \*2

\*1 女声、\*2 男声

※ 文節の種類や内容については、P. 81 「日本語文節データ一覧表」または P. 83 「英語文節データ一覧表」をご覧ください。

※ 中国語および韓国語の文節音源データが必要なときは、別途ご用意ください。

1 番に「JF91.wav」が追加されます。



2-5 2番のファイル名称欄をクリックし、手順2-3～2-4と同様の操作で、音源データを追加する。  
以下、同様の手順を繰り返して、「新館 地下 第1 駐車場」の5文節を追加します。



2-6 文節の追加が完了したら、[決定] ボタンをクリックする。



音源データが入れ替わり、ファイルサイズが変更されます。  
[試聴] ボタンを押すと、登録データの再生ができます。

**ご注意**

階メッセージを新規の音源に変更しても、音源データのファイル名称は「WJEL\_070.wav」のままで変更されません。ただし、デフォルトの音源から変更すると、ファイル名称の後に「\*」が付いて表示されます。



### 3 ファイル名称 (男声) 列の音源データ「MJEL\_070.wav」を複数の文節音源データを組み合わせたものに変更する。

70番「新館地下1階」のファイル名称(男声)「MJEL\_070.wav」をクリックし、手順2と同様の操作で音源データを変更します。

番号	名称	ファイル名称(女声)	サイズ	ファイル名称(男声)	サイズ
54	エレベーター	WJEL_054.wav	73 KB	MJEL_054.wav	65 KB
55	エレベーターシャフト	WJEL_055.wav	99 KB	MJEL_055.wav	89 KB
56	エレベーター機械室	WJEL_056.wav	116 KB	MJEL_056.wav	104 KB
57	機械室	WJEL_057.wav	69 KB	MJEL_057.wav	62 KB
58	風除室	WJEL_058.wav	71 KB	MJEL_058.wav	62 KB
59	本館地下1階	WJEL_059.wav	123 KB	MJEL_059.wav	112 KB
60	本館1階	WJEL_060.wav	98 KB	MJEL_060.wav	91 KB
61	本館2階	WJEL_061.wav	93 KB	MJEL_061.wav	88 KB
62	本館3階	WJEL_062.wav	102 KB	MJEL_062.wav	94 KB
63	本館4階	WJEL_063.wav	103 KB	MJEL_063.wav	92 KB
64	本館5階	WJEL_064.wav	95 KB	MJEL_064.wav	89 KB
65	本館6階	WJEL_065.wav	101 KB	MJEL_065.wav	98 KB
66	本館屋上	WJEL_066.wav	105 KB	MJEL_066.wav	99 KB
67	本館塔屋	WJEL_067.wav	92 KB	MJEL_067.wav	85 KB
68	本館階段	WJEL_068.wav	99 KB	MJEL_068.wav	92 KB
69	本館エレベーター	WJEL_069.wav	118 KB	MJEL_069.wav	109 KB
70	新館地下1階	WJEL_070.wav *	195 KB	MJEL_070.wav *	177 KB
71	新館1階	WJEL_071.wav	103 KB	MJEL_071.wav	95 KB
72	新館2階	WJEL_072.wav	98 KB	MJEL_072.wav	91 KB
73	新館3階	WJEL_073.wav	107 KB	MJEL_073.wav	98 KB
74	新館4階	WJEL_074.wav	107 KB	MJEL_074.wav	96 KB
75	新館5階	WJEL_075.wav	99 KB	MJEL_075.wav	93 KB
76	新館6階	WJEL_076.wav	106 KB	MJEL_076.wav	102 KB
77	新館屋上	WJEL_077.wav	110 KB	MJEL_077.wav	102 KB
78	新館塔屋	WJEL_078.wav	97 KB	MJEL_078.wav	89 KB
79	新館階段	WJEL_079.wav	104 KB	MJEL_079.wav	96 KB
80	新館エレベーター	WJEL_080.wav	123 KB	MJEL_080.wav	113 KB

### 4 階メッセージの名称を変更する。

この例では階メッセージの名称を「新館地下1階」から「新館地下第1駐車場」に変更します。  
※ 名称を変更しても、音源データには影響ありません。

番号	名称	ファイル名称(女声)	サイズ	ファイル名称(男声)	サイズ
54	エレベーター	WJEL_054.wav	73 KB	MJEL_054.wav	65 KB
55	エレベーターシャフト	WJEL_055.wav	99 KB	MJEL_055.wav	89 KB
56	エレベーター機械室	WJEL_056.wav	116 KB	MJEL_056.wav	104 KB
57	機械室	WJEL_057.wav	69 KB	MJEL_057.wav	62 KB
58	風除室	WJEL_058.wav	71 KB	MJEL_058.wav	62 KB
59	本館地下1階	WJEL_059.wav	123 KB	MJEL_059.wav	112 KB
60	本館1階	WJEL_060.wav	98 KB	MJEL_060.wav	91 KB
61	本館2階	WJEL_061.wav	93 KB	MJEL_061.wav	88 KB
62	本館3階	WJEL_062.wav	102 KB	MJEL_062.wav	94 KB
63	本館4階	WJEL_063.wav	103 KB	MJEL_063.wav	92 KB
64	本館5階	WJEL_064.wav	95 KB	MJEL_064.wav	89 KB
65	本館6階	WJEL_065.wav	101 KB	MJEL_065.wav	98 KB
66	本館屋上	WJEL_066.wav	105 KB	MJEL_066.wav	99 KB
67	本館塔屋	WJEL_067.wav	92 KB	MJEL_067.wav	85 KB
68	本館階段	WJEL_068.wav	99 KB	MJEL_068.wav	92 KB
69	本館エレベーター	WJEL_069.wav	118 KB	MJEL_069.wav	109 KB
70	新館地下第1駐車場	WJEL_070.wav *	195 KB	MJEL_070.wav *	177 KB
71	新館1階	WJEL_071.wav	103 KB	MJEL_071.wav	95 KB
72	新館2階	WJEL_072.wav	98 KB	MJEL_072.wav	91 KB
73	新館3階	WJEL_073.wav	107 KB	MJEL_073.wav	98 KB
74	新館4階	WJEL_074.wav	107 KB	MJEL_074.wav	96 KB
75	新館5階	WJEL_075.wav	99 KB	MJEL_075.wav	93 KB
76	新館6階	WJEL_076.wav	106 KB	MJEL_076.wav	102 KB
77	新館屋上	WJEL_077.wav	110 KB	MJEL_077.wav	102 KB
78	新館塔屋	WJEL_078.wav	97 KB	MJEL_078.wav	89 KB
79	新館階段	WJEL_079.wav	104 KB	MJEL_079.wav	96 KB
80	新館エレベーター	WJEL_080.wav	123 KB	MJEL_080.wav	113 KB

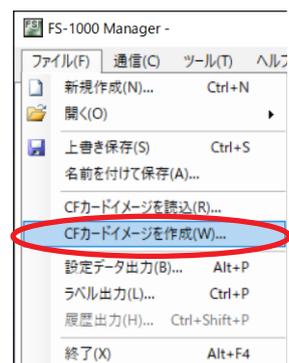
## 5 CF カードにデータを書き込む。

CF カードイメージ作成 ( P. 110) でパソコンから CF カードにデータを書き込みます。

メモ

音源データをパソコンから FS-1000 本体の CF カードにオンラインで書き込むこともできます。

詳しくは P. 97 「設定・音源データを FS-1000 にアップロードする」をお読みください。



## 6 FS-1000 本体に手順 5 の CF カードを差し込み、音源データの更新を行い、入れ換えを完了する。

FS-1000 本体での音源データの更新方法については、FS-1000 システム設定説明書をお読みください。

## ● 音源データの音量変更

FS-1000 Manager では、「緊急メッセージ」、「チャイム」、および「点検音源」のタブにある音源データの音量を個別、または一括で調節できます。

音源の音量調節値は、音源設定データ（「FS1KEV.FSS」ファイル）に保存されます。このデータは、音源データの保存先フォルダにあり、設定データと同様に扱います。

### ご注意

「階メッセージ（日本語）」、「階メッセージ（第二言語）」、「階メッセージ（第三言語）」、「階メッセージ（第四言語）」、および「音声警報メッセージ」のタブにある音源データの音量調節はできません。

### 【音源データの音量調節範囲】

音源データ	調節範囲	デフォルト
緊急メッセージ 1～10	-30～0 dB	0 dB
チャイム 1～4	-30～0 dB	-10 dB
点検音源（点検開始）	-20～0 dB	-10 dB
点検音源（点検中）	-30～0 dB	-20 dB

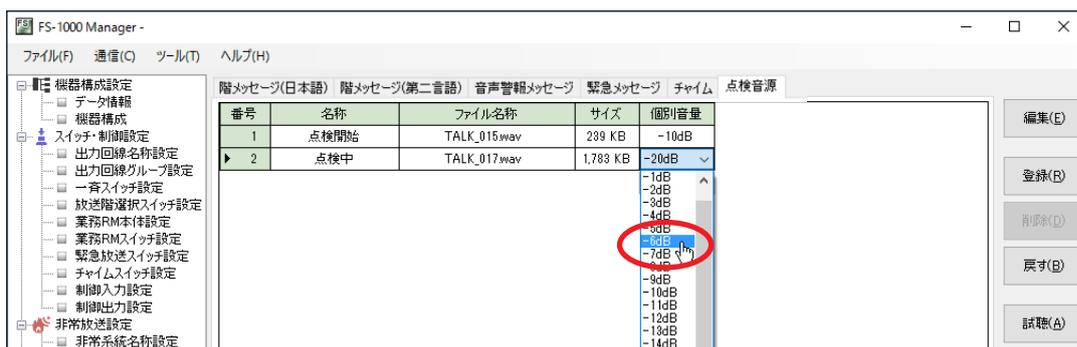
### 【音量変更例 1】

ここでは、例として「点検音源」のタブにある点検時の「点検中」音源データの音量を「-6 dB」にする手順を記載しています。

## 1 点検音源タブをクリックする。



## 2 「点検中」の個別音量欄をクリックし、プルダウンリストで「-6 dB」を選択する。



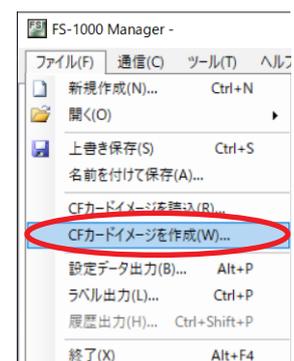
## 3 CF カードにデータを書き込む。

CF カードイメージ作成（[P. 110](#)）でパソコンから CF カードにデータを書き込みます。

メモ

音源設定データをパソコンから FS-1000 本体の CF カードにオンラインで書き込むこともできます。

詳しくは [P. 95](#) 「設定データを FS-1000 にアップロードする」をお読みください。



## 4 FS-1000 本体に手順 3 の CF カードを差し込み、音源データの更新を行い、入れ換えを完了する。

FS-1000 本体での音源データの更新方法については、FS-1000 システム設定説明書をお読みください。

### [音量変更例 2]

ここでは、例として「点検音源」のタブにあるすべての音源データの音量を「-10 dB」にする手順を記載しています。

### 1 点検音源タブをクリックする。

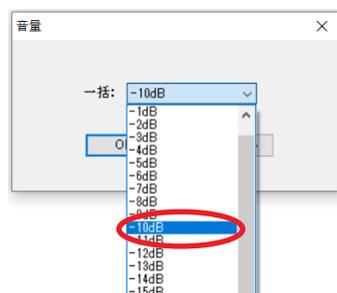


### 2 「一括音量」をクリックする。



音量設定画面が開きます。

### 3 音量設定画面の一括欄をクリックし、プルダウンリストで「-10 dB」を選択する。



### ご注意

「点検音源」タブの「点検開始」と「点検中」の音源データでは、音量調節範囲が異なります。音量を -21 dB 以下の値としたときでも、「点検開始」音源データの音量は -20 dB となります。

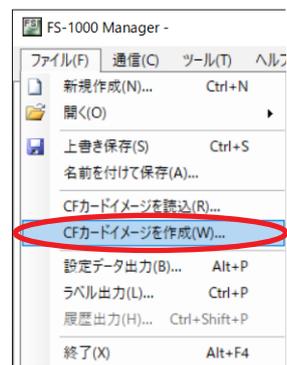
## 4 CF カードにデータを書き込む。

CF カードイメージ作成 (P. 110) でパソコンから CF カードにデータを書き込みます。

メモ

音源設定データをパソコンから FS-1000 本体の CF カードにオンラインで書き込むこともできます。

詳しくは P. 95 「設定データを FS-1000 にアップロードする」をお読みください。



## 5 FS-1000 本体に手順 4 の CF カードを差し込み、音源データの更新を行い、入れ換えを完了する。

FS-1000 本体での音源データの更新方法については、FS-1000 システム設定説明書をお読みください。

## ● 日本語文節データ一覧表

FS-1000 Manager のインストールフォルダー内に標準の文節音源データを用意しています。  
文節音源データは、女声と男声のフォルダーに分かれており、デフォルトで以下のところに収められています。

32bit OS の場合：C:\Program Files\TOA Corporation\FS-1000Manager\Sound\F S1000JF  
または FS1000JM

64bit OS の場合：C:\Program Files (x86)\TOA Corporation\FS-1000Manager\Sound\F S1000JF  
または FS1000JM

女声、フォルダー名：FS1000JF		男声、フォルダー名：FS1000JM	
ファイル名	内容	ファイル名	内容
JF04.wav	～の	JM04.wav	～で
JF13.wav	1階	JM13.wav	1階
JF14.wav	2階	JM14.wav	2階
JF15.wav	3階	JM15.wav	3階
JF16.wav	4階	JM16.wav	4階
JF17.wav	5階	JM17.wav	5階
JF18.wav	6階	JM18.wav	6階
JF19.wav	7階	JM19.wav	7階
JF20.wav	8階	JM20.wav	8階
JF21.wav	9階	JM21.wav	9階
JF22.wav	10階	JM22.wav	10階
JF23.wav	11階	JM23.wav	11階
JF24.wav	12階	JM24.wav	12階
JF25.wav	13階	JM25.wav	13階
JF26.wav	14階	JM26.wav	14階
JF27.wav	15階	JM27.wav	15階
JF28.wav	16階	JM28.wav	16階
JF29.wav	17階	JM29.wav	17階
JF30.wav	18階	JM30.wav	18階
JF31.wav	19階	JM31.wav	19階
JF32.wav	20階	JM32.wav	20階
JF33.wav	21階	JM33.wav	21階
JF34.wav	22階	JM34.wav	22階
JF35.wav	23階	JM35.wav	23階
JF36.wav	24階	JM36.wav	24階
JF37.wav	25階	JM37.wav	25階
JF38.wav	26階	JM38.wav	26階
JF39.wav	27階	JM39.wav	27階
JF40.wav	28階	JM40.wav	28階
JF41.wav	29階	JM41.wav	29階
JF42.wav	30階	JM42.wav	30階
JF43.wav	31階	JM43.wav	31階
JF44.wav	32階	JM44.wav	32階
JF45.wav	33階	JM45.wav	33階
JF46.wav	34階	JM46.wav	34階
JF47.wav	35階	JM47.wav	35階
JF48.wav	36階	JM48.wav	36階
JF49.wav	37階	JM49.wav	37階
JF50.wav	38階	JM50.wav	38階
JF51.wav	39階	JM51.wav	39階
JF52.wav	40階	JM52.wav	40階
JF53.wav	地下1階	JM53.wav	地下1階
JF54.wav	地下2階	JM54.wav	地下2階
JF55.wav	地下3階	JM55.wav	地下3階
JF56.wav	地下4階	JM56.wav	地下4階
JF57.wav	地下5階	JM57.wav	地下5階

(次ページへ続く)

女声、フォルダー名：FS1000JF		男声、フォルダー名：FS1000JM	
ファイル名	内容	ファイル名	内容
JF58.wav	エレベーター	JM58.wav	エレベーター
JF59.wav	階段	JM59.wav	階段
JF60.wav	屋上	JM60.wav	屋上
JF61.wav	塔屋（とうや）	JM61.wav	塔屋（とうや）
JF62.wav	体育館	JM62.wav	体育館
JF63.wav	講堂	JM63.wav	講堂
JF64.wav	エスカレーター	JM64.wav	エスカレーター
JF65.wav	エレベーターシャフト	JM65.wav	エレベーターシャフト
JF66.wav	エレベーター機械室	JM66.wav	エレベーター機械室
JF67.wav	東（ひがし）	JM67.wav	東（ひがし）
JF68.wav	西（にし）	JM68.wav	西（にし）
JF69.wav	南（みなみ）	JM69.wav	南（みなみ）
JF70.wav	北（きた）	JM70.wav	北（きた）
JF71.wav	中央	JM71.wav	中央
JF72.wav	中（ちゅう）	JM72.wav	中（ちゅう）
JF73.wav	第1	JM73.wav	第1
JF74.wav	第2	JM74.wav	第2
JF75.wav	第3	JM75.wav	第3
JF76.wav	第4	JM76.wav	第4
JF77.wav	地下	JM77.wav	地下
JF78.wav	地下階	JM78.wav	地下階
JF79.wav	駐車場	JM79.wav	駐車場
JF80.wav	機械室	JM80.wav	機械室
JF81.wav	風除室（ふうじょしつ）	JM81.wav	風除室（ふうじょしつ）
JF82.wav	ペントハウス	JM82.wav	ペントハウス
JF83.wav	売り場	JM83.wav	売り場
JF84.wav	バックヤード	JM84.wav	バックヤード
JF85.wav	エントランスホール	JM85.wav	エントランスホール
JF86.wav	教室	JM86.wav	教室
JF87.wav	廊下	JM87.wav	廊下
JF88.wav	校舎	JM88.wav	校舎
JF89.wav	工場	JM89.wav	工場
JF90.wav	病棟	JM90.wav	病棟
JF91.wav	新館	JM91.wav	新館
JF92.wav	本館	JM92.wav	本館

## ● 英語文節データ一覧表

FS-1000 Manager のインストールフォルダー内に標準の文節音源データを用意しています。  
文節音源データは、女声と男声のフォルダーに分かれており、デフォルトで以下のところに収められています。

32bit OS の場合：C:\Program Files\TOA Corporation\FS-1000Manager\Sound\FS1000EF  
または FS1000EM

64bit OS の場合：C:\Program Files (x86)\TOA Corporation\FS-1000Manager\Sound\FS1000EF  
または FS1000EM

女声、フォルダー名：FS1000EF		男声、フォルダー名：FS1000EM	
ファイル名	内容	ファイル名	内容
EF05.wav	at the (ザ)	EM05.wav	at the (ザ)
EF06.wav	in the (ザ)	EM06.wav	in the (ザ)
EF07.wav	of the (ザ)	EM07.wav	of the (ザ)
EF08.wav	on the (ザ)	EM08.wav	on the (ザ)
EF09.wav	at the (ジ)	EM09.wav	at the (ジ)
EF10.wav	in the (ジ)	EM10.wav	in the (ジ)
EF11.wav	of the (ジ)	EM11.wav	of the (ジ)
EF12.wav	on the (ジ)	EM12.wav	on the (ジ)
EF13.wav	1st floor (1階)	EM13.wav	1st floor (1階)
EF14.wav	2nd floor (2階)	EM14.wav	2nd floor (2階)
EF15.wav	3rd floor (3階)	EM15.wav	3rd floor (3階)
EF16.wav	4th floor (4階)	EM16.wav	4th floor (4階)
EF17.wav	5th floor (5階)	EM17.wav	5th floor (5階)
EF18.wav	6th floor (6階)	EM18.wav	6th floor (6階)
EF19.wav	7th floor (7階)	EM19.wav	7th floor (7階)
EF20.wav	8th floor (8階)	EM20.wav	8th floor (8階)
EF21.wav	9th floor (9階)	EM21.wav	9th floor (9階)
EF22.wav	10th floor (10階)	EM22.wav	10th floor (10階)
EF23.wav	11th floor (11階)	EM23.wav	11th floor (11階)
EF24.wav	12th floor (12階)	EM24.wav	12th floor (12階)
EF25.wav	13th floor (13階)	EM25.wav	13th floor (13階)
EF26.wav	14th floor (14階)	EM26.wav	14th floor (14階)
EF27.wav	15th floor (15階)	EM27.wav	15th floor (15階)
EF28.wav	16th floor (16階)	EM28.wav	16th floor (16階)
EF29.wav	17th floor (17階)	EM29.wav	17th floor (17階)
EF30.wav	18th floor (18階)	EM30.wav	18th floor (18階)
EF31.wav	19th floor (19階)	EM31.wav	19th floor (19階)
EF32.wav	20th floor (20階)	EM32.wav	20th floor (20階)
EF33.wav	21st floor (21階)	EM33.wav	21st floor (21階)
EF34.wav	22nd floor (22階)	EM34.wav	22nd floor (22階)
EF35.wav	23rd floor (23階)	EM35.wav	23rd floor (23階)
EF36.wav	24th floor (24階)	EM36.wav	24th floor (24階)
EF37.wav	25th floor (25階)	EM37.wav	25th floor (25階)
EF38.wav	26th floor (26階)	EM38.wav	26th floor (26階)
EF39.wav	27th floor (27階)	EM39.wav	27th floor (27階)
EF40.wav	28th floor (28階)	EM40.wav	28th floor (28階)
EF41.wav	29th floor (29階)	EM41.wav	29th floor (29階)
EF42.wav	30th floor (30階)	EM42.wav	30th floor (30階)
EF43.wav	31st floor (31階)	EM43.wav	31st floor (31階)
EF44.wav	32nd floor (32階)	EM44.wav	32nd floor (32階)
EF45.wav	33rd floor (33階)	EM45.wav	33rd floor (33階)
EF46.wav	34th floor (34階)	EM46.wav	34th floor (34階)
EF47.wav	35th floor (35階)	EM47.wav	35th floor (35階)
EF48.wav	36th floor (36階)	EM48.wav	36th floor (36階)
EF49.wav	37th floor (37階)	EM49.wav	37th floor (37階)

(次ページへ続く)

女声、フォルダー名：FS1000EF		男声、フォルダー名：FS1000EM	
ファイル名	内容	ファイル名	内容
EF50.wav	38th floor (38 階)	EM50.wav	38th floor (38 階)
EF51.wav	39th floor (39 階)	EM51.wav	39th floor (39 階)
EF52.wav	40th floor (40 階)	EM52.wav	40th floor (40 階)
EF53.wav	1st basement (地下 1 階)	EM53.wav	1st basement (地下 1 階)
EF54.wav	2nd basement (地下 2 階)	EM54.wav	2nd basement (地下 2 階)
EF55.wav	3rd basement (地下 3 階)	EM55.wav	3rd basement (地下 3 階)
EF56.wav	4th basement (地下 4 階)	EM56.wav	4th basement (地下 4 階)
EF57.wav	5th basement (地下 5 階)	EM57.wav	5th basement (地下 5 階)
EF58.wav	elevator (エレベーター)	EM58.wav	elevator (エレベーター)
EF59.wav	stairs (階段)	EM59.wav	stairs (階段)
EF60.wav	rooftop (屋上)	EM60.wav	rooftop (屋上)
EF61.wav	penthouse (塔屋)	EM61.wav	penthouse (塔屋)
EF62.wav	gymnasium (体育館)	EM62.wav	gymnasium (体育館)
EF63.wav	auditorium (講堂)	EM63.wav	auditorium (講堂)
EF64.wav	escalator (エスカレーター)	EM64.wav	escalator (エスカレーター)
EF65.wav	elevator shaft (エレベーターシャフト)	EM65.wav	elevator shaft (エレベーターシャフト)
EF66.wav	elevator's machine room (エレベーター機械室)	EM66.wav	elevator's machine room (エレベーター機械室)
EF67.wav	east (東)	EM67.wav	east (東)
EF68.wav	west (西)	EM68.wav	west (西)
EF69.wav	south (南)	EM69.wav	south (南)
EF70.wav	north (北)	EM70.wav	north (北)
EF71.wav	center (中央)	EM71.wav	center (中央)
EF72.wav	middle (中)	EM72.wav	middle (中)
EF73.wav	1st (第 1)	EM73.wav	1st (第 1)
EF74.wav	2nd (第 2)	EM74.wav	2nd (第 2)
EF75.wav	3rd (第 3)	EM75.wav	3rd (第 3)
EF76.wav	4th (第 4)	EM76.wav	4th (第 4)
EF77.wav	basement (地下)	EM77.wav	basement (地下)
EF78.wav	basement (地下階)	EM78.wav	basement (地下階)
EF79.wav	parking (駐車場)	EM79.wav	parking (駐車場)
EF80.wav	machine room (機械室)	EM80.wav	machine room (機械室)
EF81.wav	airlock (風除室)	EM81.wav	airlock (風除室)
EF82.wav	penthouse (ペントハウス)	EM82.wav	penthouse (ペントハウス)
EF83.wav	department (売り場)	EM83.wav	department (売り場)
EF84.wav	backyard (バックヤード)	EM84.wav	backyard (バックヤード)
EF85.wav	entrance hall (エントランスホール)	EM85.wav	entrance hall (エントランスホール)
EF86.wav	classroom (教室)	EM86.wav	classroom (教室)
EF87.wav	corridor (廊下)	EM87.wav	corridor (廊下)
EF88.wav	school building (校舎)	EM88.wav	school building (校舎)
EF89.wav	factory (工場)	EM89.wav	factory (工場)
EF90.wav	hospital building (病棟)	EM90.wav	hospital building (病棟)
EF91.wav	new building (新館)	EM91.wav	new building (新館)
EF92.wav	main building (本館)	EM92.wav	main building (本館)

# メンテナンス

## 履歴ファイル表示

メニュー項目の「メンテナンス」→「履歴ファイル表示」をクリックすると、各種履歴表示画面が表示されます。

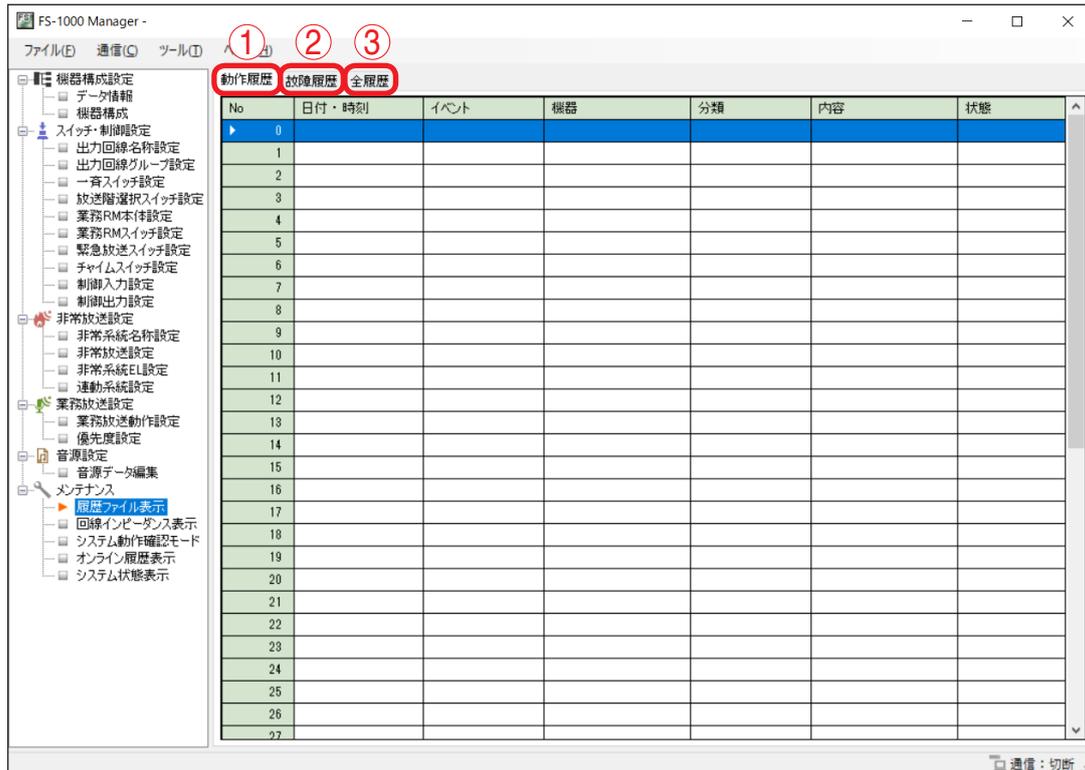
FS-1000 システムの履歴を設定支援ソフトウェア FS-1000 Manager で表示することができます。

動作履歴、故障履歴をそれぞれ 1 万件まで表示できます。

全履歴は、動作履歴と故障履歴を時系列順に、合わせて 2 万件までの表示が可能です。

項目名をクリックすると、項目名の横に矢印が表示され、内容が順番に並べ替わります。

もう一度クリックすると、並び順が切り換わります。



No	日付・時刻	イベント	機器	分類	内容	状態
0						
1						
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19						
20						
21						
22						
23						
24						
25						
26						
27						

### ① 動作履歴

発生した動作履歴が時系列で表示されます。

### ② 故障履歴

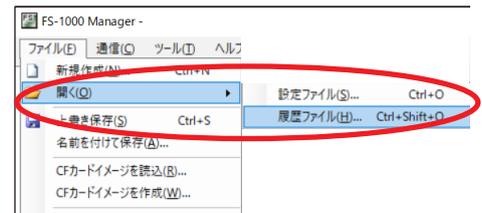
発生した故障履歴が時系列で表示されます。

### ③ 全履歴

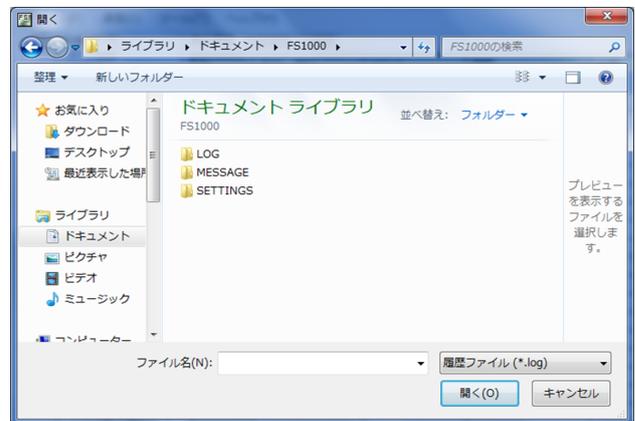
発生した動作履歴と故障履歴が時系列順に表示されます。

## ● 履歴を表示する

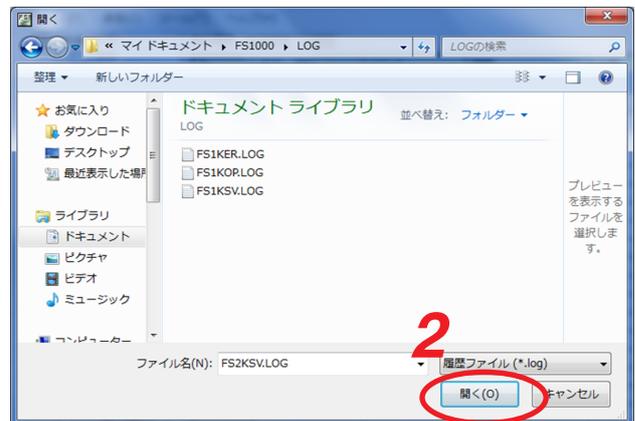
1 設定支援ソフトウェア FS-1000 Manager のメニューバーから [ファイル→開く→履歴ファイル] を選択する。



[ファイルを開く] ダイアログが表示されます。



CF カードの LOG フォルダに故障履歴、動作履歴が入っています。故障履歴ファイルのデフォルト名称は、[FS1KSV.LOG] です。動作履歴ファイルのデフォルト名称は、[FS1KOP.LOG] です。



2 履歴ファイルが保存されている場所を指定して、ファイルを選択し、[開く] ボタンをクリックする。

履歴ファイルの読み込みが始まります。読み込みが完了すると、履歴表示画面が表示されます。

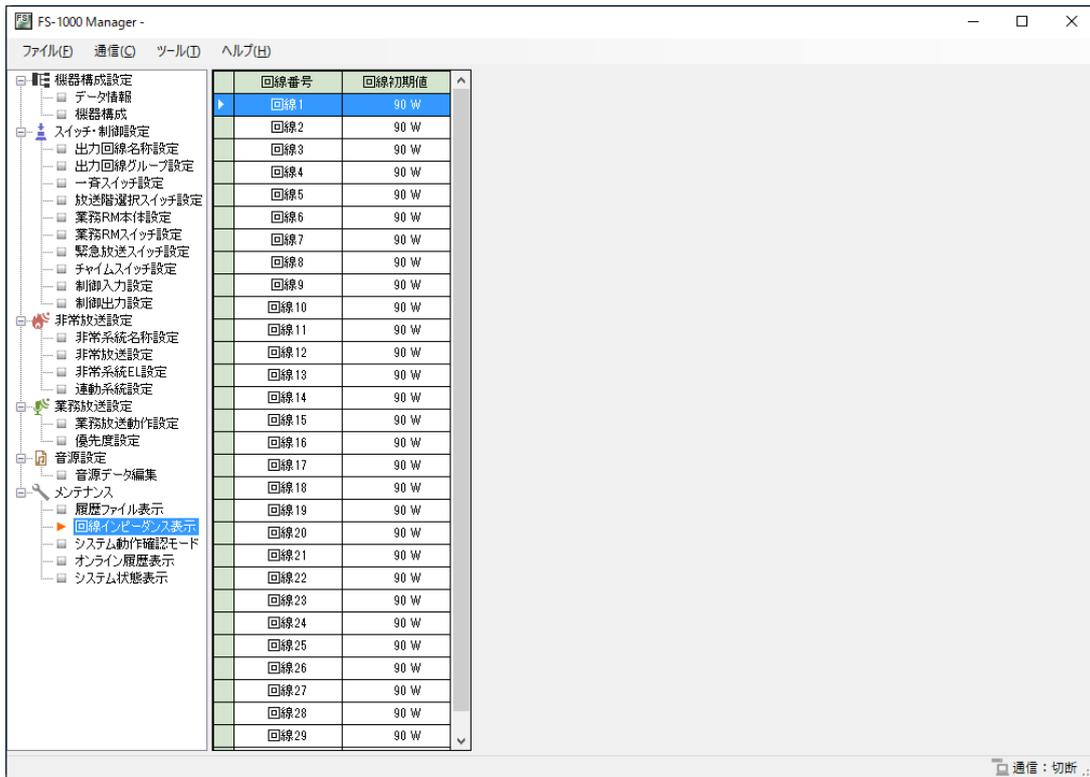
No	日付・時刻	イベント	機器	分類	内容	状態
0	2014/01/01 00:00:00	システム起動	システム	初期化	-	-
1	2014/01/01 00:00:00	非常起動	本体	非常放送	-	起動
2	2014/01/01 00:00:00	システム起動	システム	初期化	-	-
3	2014/01/01 00:00:00	非常起動	本体	非常放送	-	起動
4	2014/01/01 00:00:00	非常復旧	本体	非常放送	-	復旧
5	2014/01/01 00:00:00	システム起動	システム	初期化	-	-
6	2014/01/01 00:00:00	非常起動	本体	非常放送	-	起動
7	2014/01/01 00:00:00	システム起動	システム	初期化	-	-
8	2014/01/01 00:00:00	非常起動	本体	非常放送	-	起動
9	2014/01/01 00:00:00	システム起動	システム	初期化	-	-
10	2014/01/01 00:00:00	非常起動	本体	非常放送	-	起動
11	2014/01/01 00:00:01	システム起動	システム	初期化	-	-
12	2014/01/01 00:00:01	システム起動	システム	初期化	-	-
13	2014/01/01 00:00:01	システム起動	システム	初期化	-	-
14	2014/01/01 00:00:01	システム起動	システム	初期化	-	-
15	2014/01/01 00:00:01	システム起動	システム	初期化	-	-
16	2014/01/01 00:00:01	EL	本体	非常放送	端子番号10	-
17	2014/01/01 00:00:01	システム起動	システム	初期化	-	-
18	2014/01/01 00:00:01	非常起動	本体	非常放送	-	起動
19	2014/01/01 00:00:01	システム起動	システム	初期化	-	-
20	2014/01/01 00:00:02	感知器起動	システム	非常/業務放送	-	起動
21	2014/01/01 00:00:02	放送階選択	本体	非常/業務放送	SW番号11	ON
22	2014/01/01 00:00:02	非常復旧	本体	非常放送	-	復旧
23	2014/01/01 00:00:02	非常復旧	本体	非常放送	-	復旧
24	2014/01/01 00:00:02	非常復旧	本体	非常放送	-	復旧
25	2014/01/01 00:00:02	非常復旧	本体	非常放送	-	復旧
26	2014/01/01 00:00:04	非常起動	本体	非常放送	-	起動
27	2014/01/01 00:00:05	非常起動	本体	非常放送	-	起動

## ■ 回線インピーダンス表示

メニュー項目の「メンテナンス」→「回線インピーダンス表示」をクリックすると、回線インピーダンス表示画面が表示されます。

回線の初期値および最大値は、回線に接続されているアンプのワット数となります。

ただし、アンプのワット数が 270 W、400 W の場合、回線の初期値および最大値は 200 W となります。



回線初期値をクリックすると、変更することができます。



設定データを FS-1000 本体にアップロードするときに、上記の回線初期値が設定に反映されます。

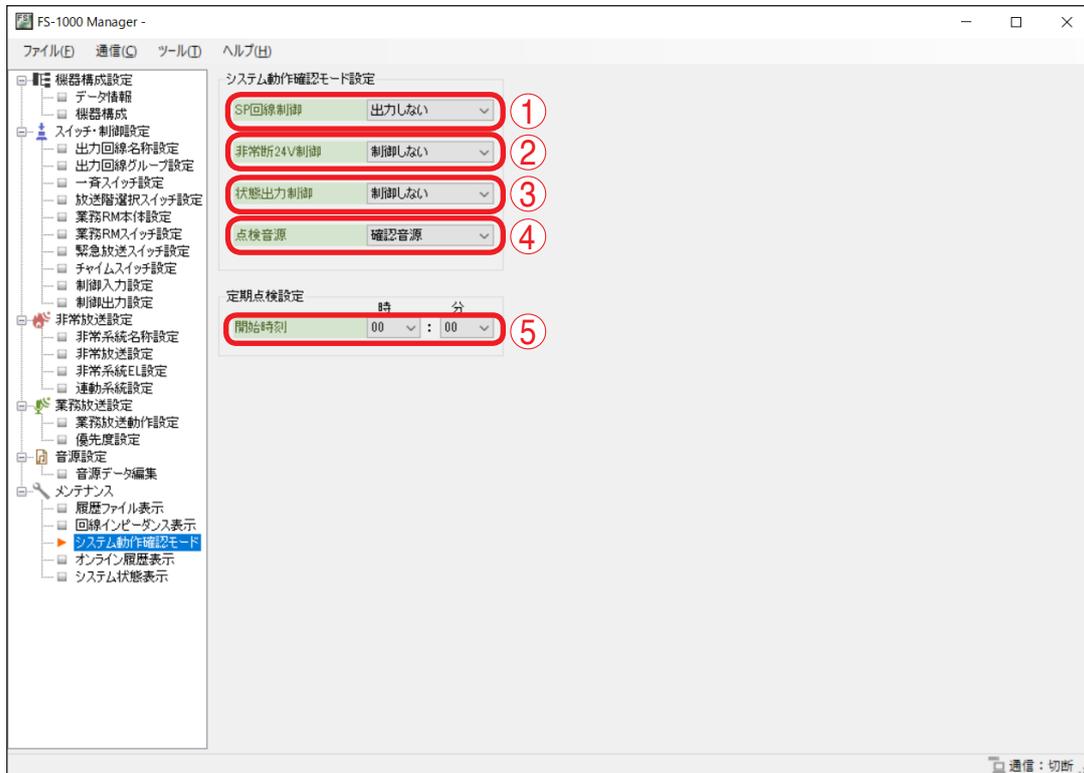
### ご注意

FS-1000 で回線インピーダンスを取得した結果を使用する場合は、回線インピーダンスを表示する前に、FS-1000 で回線インピーダンスを取得した後、CF カードに設定データを保存する必要があります。FS-1000 本体の設定操作部を操作し、メンテナンスメニューから回線インピーダンスの測定を実施した後、CF カードの設定データ保存を行ってください。その後、設定支援ソフトウェア FS-1000 Manager で設定ダウンロード (本体 CF → PC) を行ってください。

# ■ システム動作確認モード設定

メニュー項目の「メンテナンス」→「システム動作確認」をクリックすると、システム動作確認モード設定画面が表示されます。

FS-1000 システムを操作してシステム動作を確認するときの設定および定期点検の時刻の設定などを行います。



## ① SP 回線制御

システム動作確認モード中に、スピーカーから動作確認時の音声を出力するかしないかを設定します。  
(デフォルト：出力しない)  
「出力する」にすると、スピーカーから音声が出力されます。

設定範囲	出力する、出力しない
------	------------

## ② 非常断 24 V 制御

システム動作確認モード中に、非常断 24 V 端子の制御をするかしないかを設定します。  
(デフォルト：制御しない)  
「制御する」にすると、状態に応じて非常断 24 V 端子の DC24 V が遮断されます。

設定範囲	制御する、制御しない
------	------------

## ③ 状態出力制御

システム動作確認モード中に、状態出力をするかしないかを設定します。(デフォルト：制御しない)  
「制御する」にすると、状態に応じて制御出力が行われます。

設定範囲	制御する、制御しない
------	------------

## ④ 点検音源

システム動作確認モードの非常放送中に使用する音源を設定します。(デフォルト：確認音源)

非常音源：非常時に放送する音源を使用します。

確認音源：点検である旨のメッセージと点検用の音源を使用します。

設定範囲	非常音源、確認音源
------	-----------

### ⑤ 定期点検設定

1日に1度行う、定期点検の開始時刻を設定します。

設定範囲	0:00 ~ 23:59	※ 1分ステップ
------	--------------	----------

#### ご注意

システム動作確認モードの設定は設定データに含まれます。

設定データをFS-1000にアップロードする場合には、[P. 95「設定データをFS-1000にアップロードする」](#)をお読みください。

# ■ オンライン履歴表示

メニュー項目の「メンテナンス」→「オンライン履歴表示」をクリックすると、パソコンとFS-1000を接続した状態で取得した履歴を表示します。オンラインで履歴を取得するには、パソコンとFS-1000を通信接続する必要があります。通信接続中は画面右下に「接続中」と表示されます。(P. 92「FS-1000とパソコンの通信」)

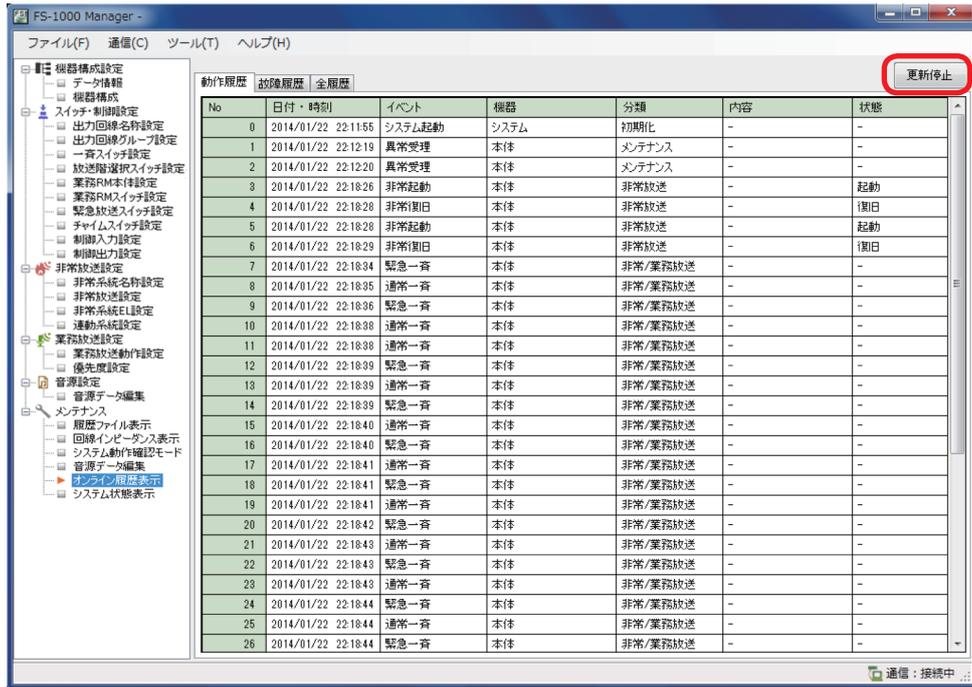
動作履歴、故障履歴はそれぞれ最大2万件まで表示されます。2万件を超えた場合、最新の2万件のみ表示されます。

全履歴は動作履歴と故障履歴を時系列順に、合わせて4万件まで表示されます。

項目名をクリックすると、項目名の横に矢印が表示され、内容が順番に並べ替えられます。

もう一度クリックすると、並び順が切り換わります。

[更新停止] ボタンを押すと、履歴の取得を一時停止します。



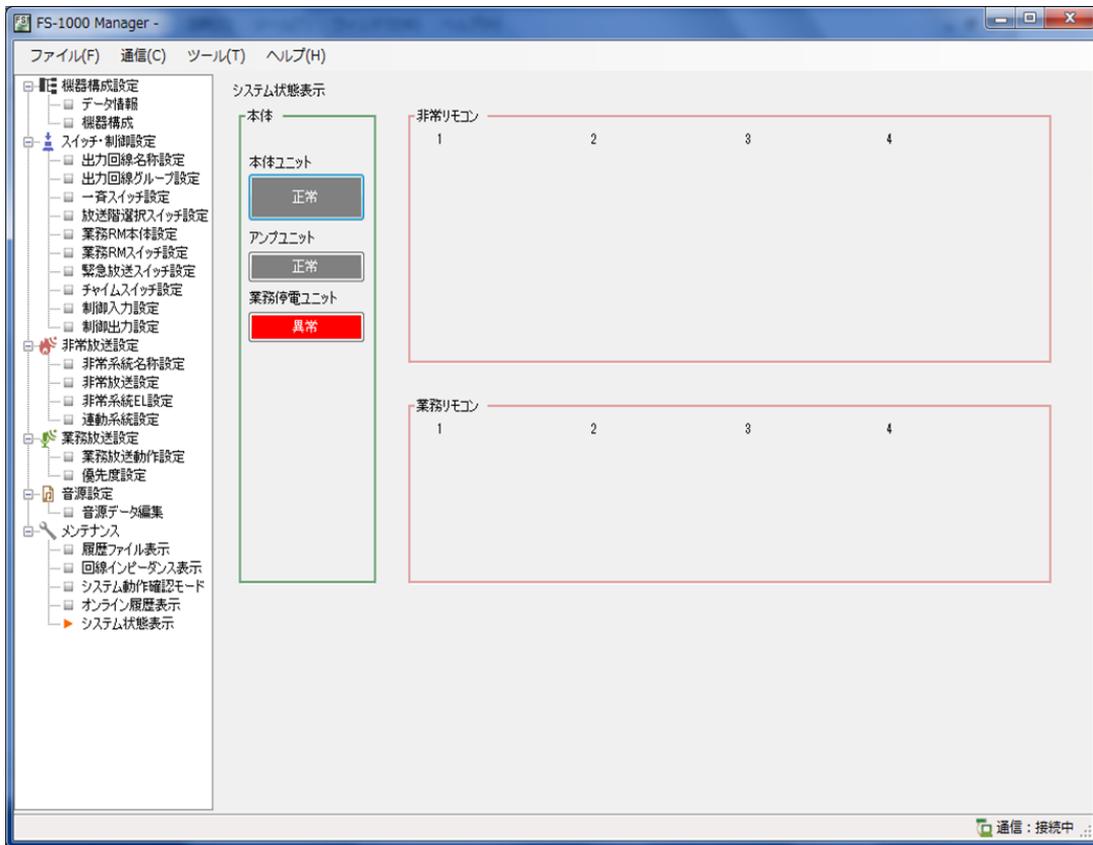
[更新開始] ボタンをクリックすると、履歴の取得を再開します。



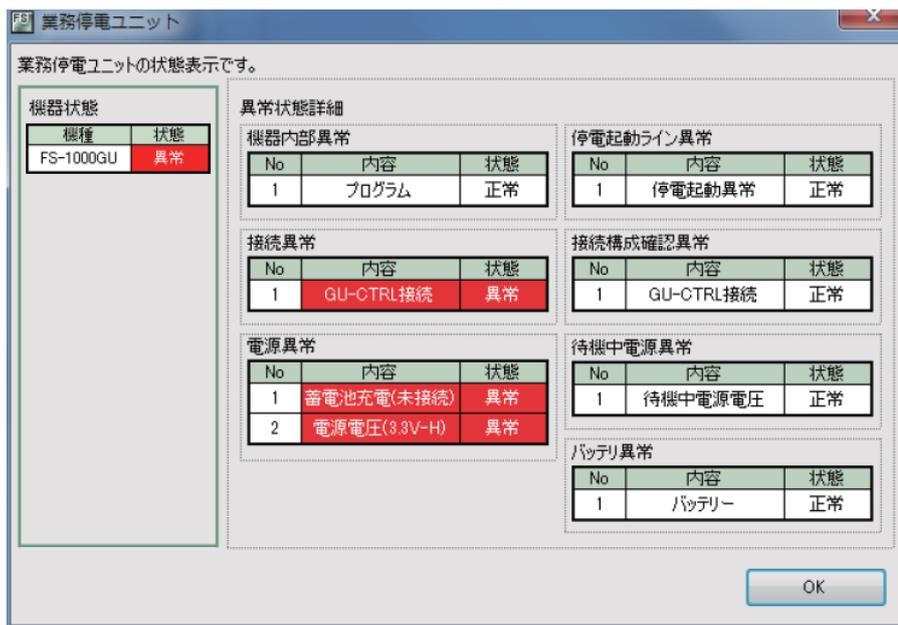
## ■ システム状態表示

メニュー項目の「メンテナンス」→「システム状態表示」をクリックすると、パソコンとFS-1000を接続した状態で取得した機器の状態を表示します。システム状態表示を行うには、パソコンとFS-1000を通信接続する必要があります。通信接続中は画面右下に「接続中」と表示されます。( P. 92 「FS-1000とパソコンの通信」)

異常がある機器や通信ができていない機器は赤く表示されます。



異常が表示されている機器をクリックすると、機器状態の詳細が表示されます。



# FS-1000 とパソコンの通信

FS-1000 と設定支援ソフトウェア FS-1000 Manager をインストールしたパソコンを通信接続することで、設定データおよび履歴ファイルをリアルタイムに取得することができます。

## ご注意

- スイッチングハブに複数の FS-1000 が接続されているときは、IP アドレスが重複していると、パソコンとの通信接続が正しく行えない可能性があります。スイッチングハブに接続されているすべての FS-1000 に異なる IP アドレスを設定した後、通信接続を行ってください。
- 複数のパソコンを 1 台の FS-1000 に同時に接続することはできません。

## FS-1000 とパソコンを通信接続する

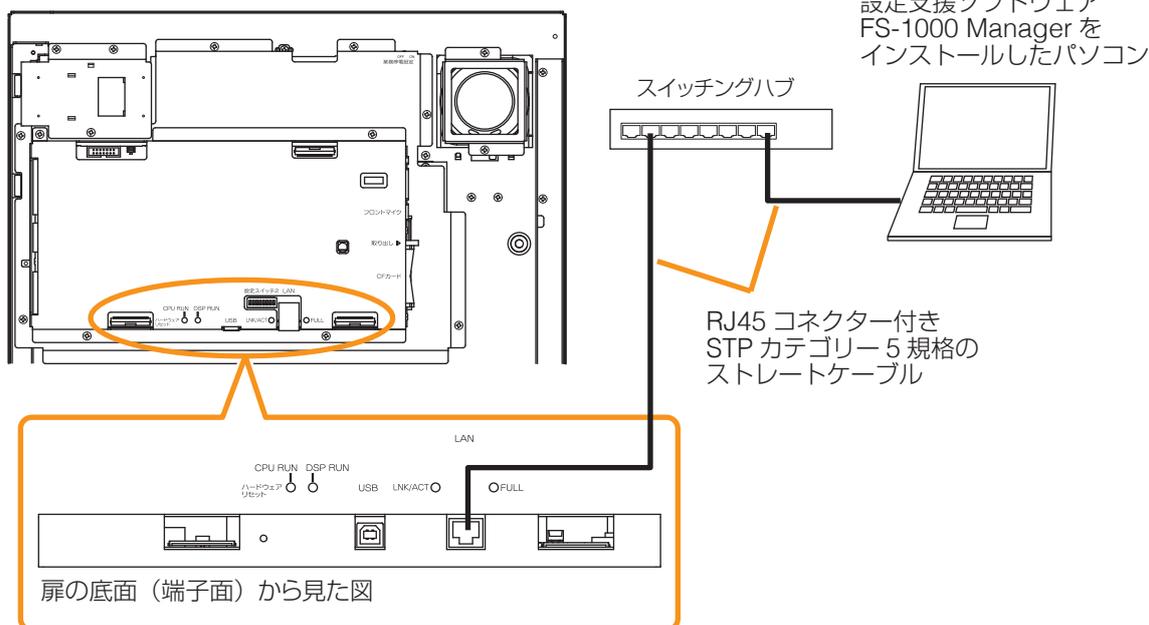
- 1 FS-1000 と設定支援ソフトウェア FS-1000 Manager をインストールしたパソコンをそれぞれスイッチングハブに接続する。

FS-1000 本体の LAN 接続端子を 10BASE-T/100BASE-TX に対応したスイッチングハブに接続します。RJ45 コネクター付き STP カテゴリー 5 規格のストレートケーブルを使用してください。

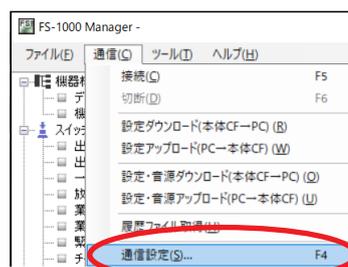
## ご注意

- スイッチングハブには、FS-1000 とパソコン以外を接続しないでください。
- FS-1000 本体とパソコンを直接ケーブルで接続しないでください。

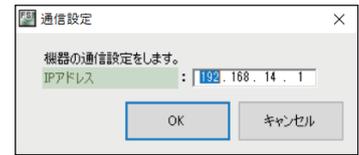
FS-1000 本体操作部扉裏面



- 2 設定支援ソフトウェア FS-1000 Manager のメニューバーから [通信→通信設定] を選択する。



### 3 FS-1000 の IP アドレスを設定する。



### 4 設定支援ソフトウェア FS-1000 Manager のメニューバーから「通信→接続」を選択する。

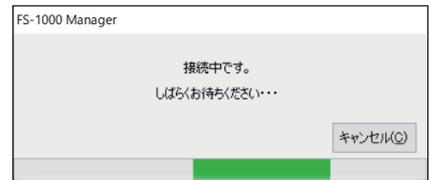


接続中のウィンドウが表示されます。



[キャンセル] ボタンを押すと、中断できます。

通信設定で表示されている IP アドレスの FS-1000 と通信します。接続が完了すると右に示すウィンドウが表示されます。



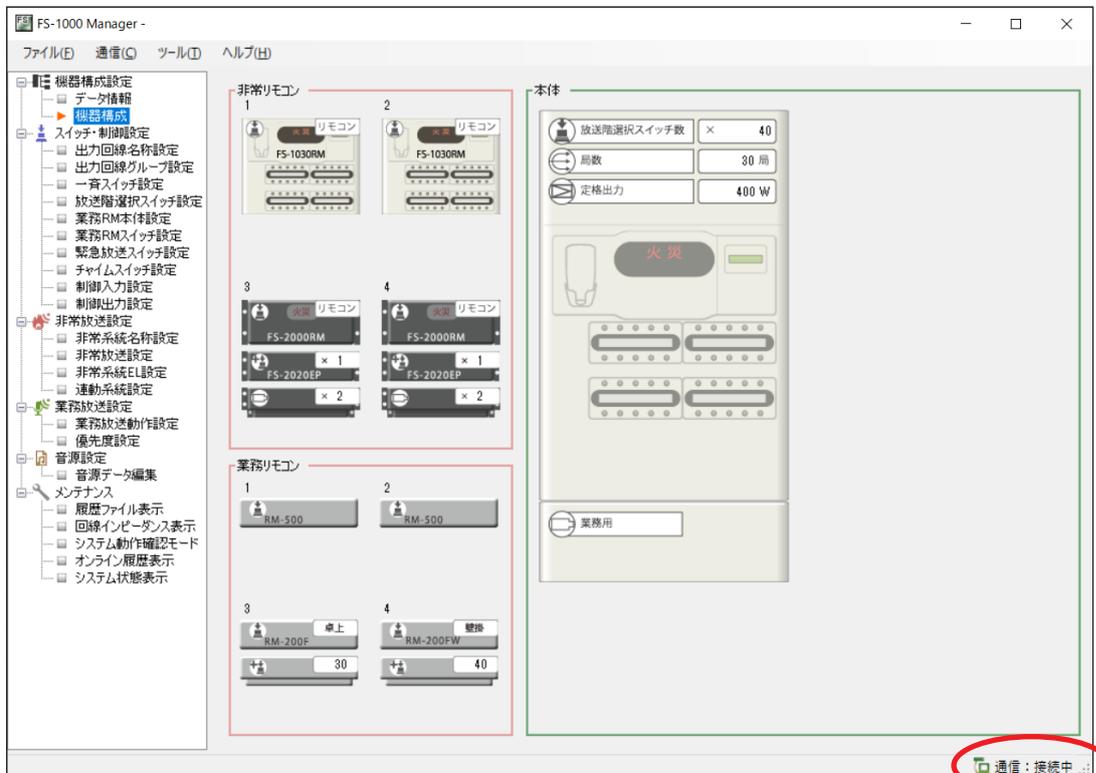
※ 接続ができないときは P. 100 「通信ができないときは」をお読みください。



### 5 [OK] ボタンをクリックする。

画面が閉じます。

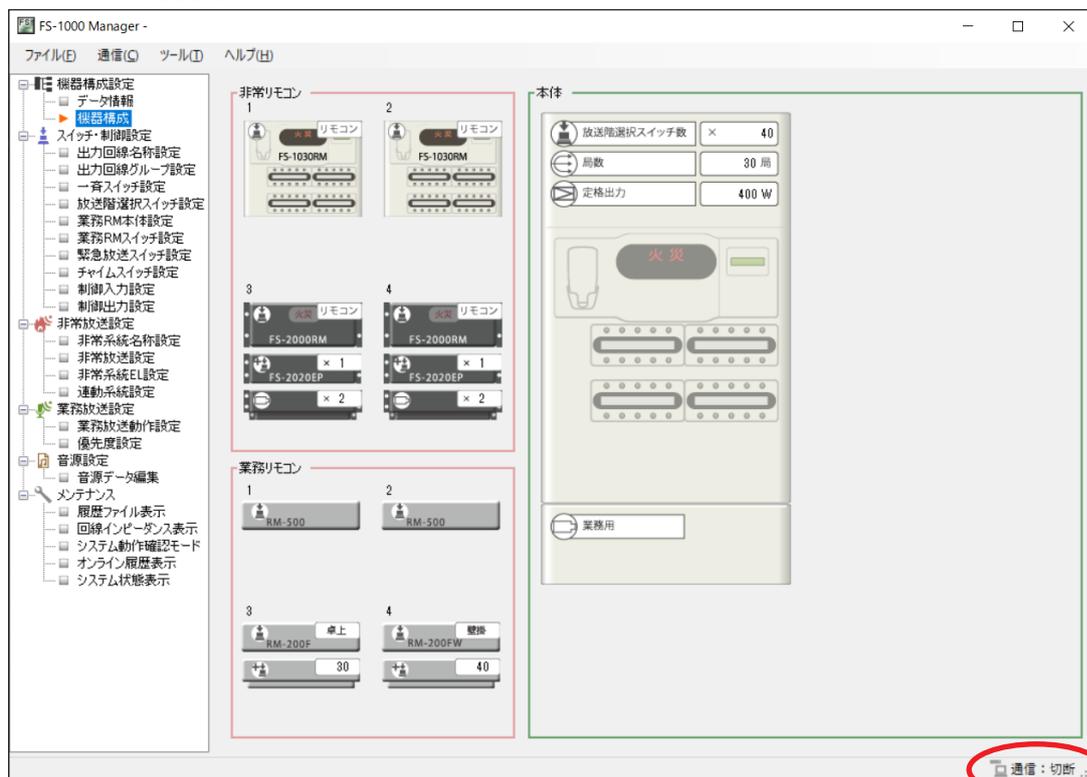
通信中は、画面右下に「接続中」と表示されます。



## ご注意

通信中にシステムリセットをしたり、LAN ケーブルを抜いたりすると、接続が切断され、画面右下の表示が「切断」になります。

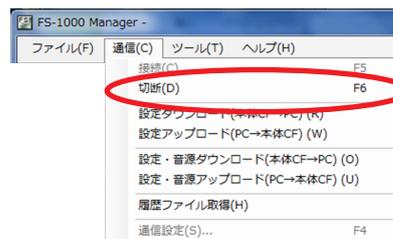
手順 4 から再度行ってください。



## ■ FS-1000 とパソコンの通信を切断する

手順：FS-1000 とパソコンが通信接続しているときに、メニューバーから「通信→切断」を選択する。

画面右下の「接続中」の表示が「切断」になります。



## ■ 設定データを FS-1000 にアップロードする

パソコンで作成した設定データと音源の音量調節値が保存されている音源設定データを FS-1000 の CF カードにオンラインで書き込むことができます。

設定支援ソフトウェア FS-1000 Manager で現在読み込んでいる設定データをアップロードします。

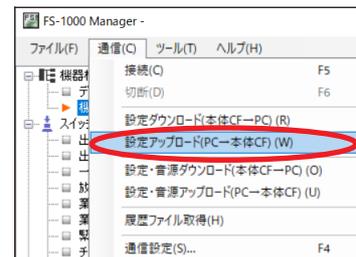
※ CF カードに音源データが保存されていない場合は、設定データだけではなく音源データのアップロードも必要です。「設定・音源データアップロード」をしてください。( P. 97 「設定・音源データを FS-1000 にアップロードする」)

### 1 FS-1000 と設定支援ソフトウェア FS-1000 Manager をインストールしたパソコンを通信接続する。

通信接続のしかたは、P. 92 「FS-1000 とパソコンを通信接続する」をお読みください。  
通信接続が完了すると、画面右下に「接続中」と表示されます。

### 2 設定支援ソフトウェア FS-1000 Manager のメニューバーから [通信→設定アップロード (PC → 本体 CF)] を選択する。

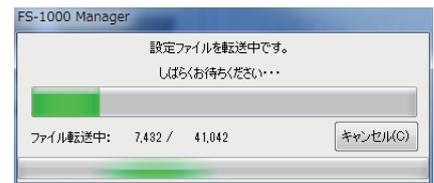
FS-1000 とパソコンを通信接続していないときに実行すると、通信接続を行ってから転送を開始します。



転送中のウィンドウが表示されます。



[キャンセル] ボタンを押すと、転送を中断します。



転送が完了すると右に示すウィンドウが表示されます。

### 3 [OK] ボタンをクリックする。

画面が閉じます。



3

#### ご注意

設定データを FS-1000 システムの設定に反映するためには、FS-1000 で設定データの更新を行う必要があります。

FS-1000 本体の設定操作部を操作し、メンテナンスメニューから CF カードの設定データ更新を行ってください。

## ■ 設定データを FS-1000 からダウンロードする

FS-1000 本体の CF カードに保存されている設定データと音源設定データをパソコンにオンラインでダウンロードすることができます。

ダウンロードした設定データは、設定支援ソフトウェア FS-1000 Manager に読み込まれます。

ダウンロードした設定データをパソコンに保存する場合は、ダウンロード後に設定ファイルの保存を行ってください。(参照 P. 108 「設定ファイルの保存」)

音源設定データは、設定データと同じフォルダーに保存されます。

### ご注意

- 設定データをダウンロードする前に、FS-1000 の設定データを CF カードに書き込む必要があります。FS-1000 本体の設定操作部を操作し、メンテナンスメニューから CF カードの設定データ保存を行ってください。
- 設定支援ソフトウェア FS-1000 Manager で編集中の設定状態は、ダウンロードした設定データに上書きされます。編集中の設定データを保存する場合は、設定ファイルの保存を行ってください。(参照 P. 108 「設定ファイルの保存」)

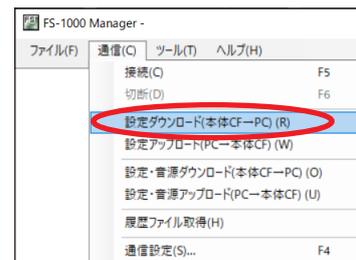
## 1 FS-1000 と設定支援ソフトウェア FS-1000 Manager をインストールしたパソコンを通信接続する。

通信接続のしかたは、P. 92 「FS-1000 とパソコンを通信接続する」をお読みください。

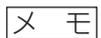
通信接続が完了すると、画面右下に「接続中」と表示されます。

## 2 設定支援ソフトウェア FS-1000 Manager のメニューバーから [通信→設定ダウンロード (本体 CF → PC)] を選択する。

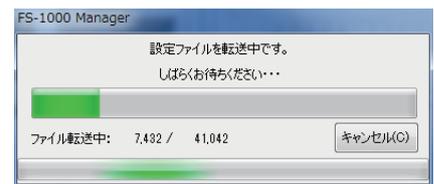
FS-1000 とパソコンを通信接続していないときに実行すると、通信接続を行ってから転送を開始します。



転送中のウィンドウが表示されます。



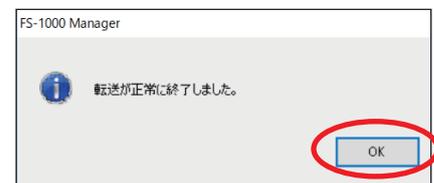
[キャンセル] ボタンを押すと、転送を中断します。



転送が完了すると右に示すウィンドウが表示されます。

## 3 [OK] ボタンをクリックする。

画面が閉じます。



3

## ■ 設定・音源データを FS-1000 にアップロードする

パソコンで作成した設定データと音源データを FS-1000 本体の CF カードにオンラインで書き込むことができます。

アップロードは、現在編集集中の設定データと音源データが保存されているフォルダーから行われます。そのフォルダーにない音源データは、デフォルトの音源が入っているフォルダーからアップロードされます。

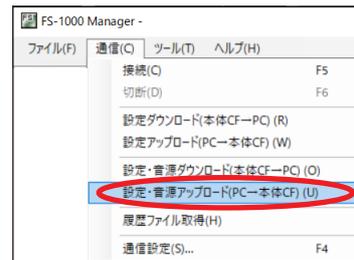
### 1 FS-1000 と設定支援ソフトウェア FS-1000 Manager をインストールしたパソコンを通信接続する。

通信接続のしかたは、P. 92 「FS-1000 とパソコンを通信接続する」をお読みください。

通信接続が完了すると、画面右下に「接続中」と表示されます。

### 2 設定支援ソフトウェア FS-1000 Manager のメニューバーから【通信→設定・音源アップロード (PC → 本体 CF)】を選択する。

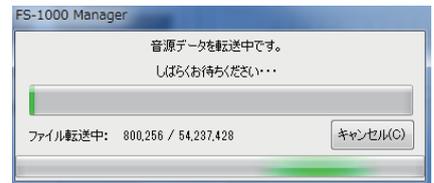
FS-1000 とパソコンを通信接続していないときに実行すると、通信接続を行ってから転送を開始します。



転送中のウィンドウが表示されます。



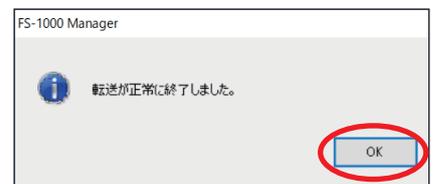
[キャンセル] ボタンを押すと、転送を中断します。



転送が完了すると右に示すウィンドウが表示されます。

### 3 [OK] ボタンをクリックする。

画面が閉じます。



3

#### ご注意

設定データを FS-1000 システムの設定に反映するには、FS-1000 で設定データの更新を行う必要があります。音源データも同様です。

FS-1000 本体の設定操作部を操作し、メンテナンスメニューから CF カードの設定データ更新、音源データ更新を行ってください。

# ■ 設定・音源データを FS-1000 からダウンロードする

FS-1000 本体の CF カードに保存されている設定・音源データをパソコンにオンラインでダウンロードすることができます。

## ご注意

ダウンロードする設定・音源データは現在編集中的の設定・音源データに上書きされます。ダウンロード時に編集中的のデータを保存してください。

## 1 FS-1000 と設定支援ソフトウェア FS-1000 Manager をインストールしたパソコンを通信接続する。

通信接続のしかたは、P. 92 「FS-1000 とパソコンを通信接続する」をお読みください。  
通信接続が完了すると、画面右下に「接続中」と表示されます。

## 2 設定支援ソフトウェア FS-1000 Manager のメニューバーから [通信→設定・音源ダウンロード (本体 CF → PC)] を選択する。

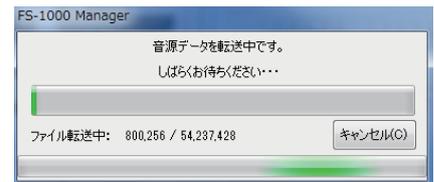
FS-1000 とパソコンを通信接続していないときに実行すると、通信接続を行ってから転送を開始します。



転送中のウィンドウが表示されます。



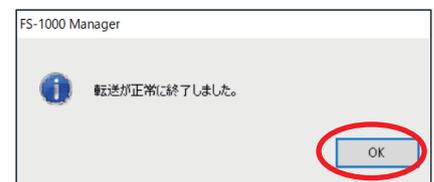
[キャンセル] ボタンを押すと、転送を中断します。



転送が完了すると右に示すウィンドウが表示されます。

## 3 [OK] ボタンをクリックする。

画面が閉じます。



3

# 履歴ファイルを FS-1000 からダウンロードする

FS-1000 本体の CF カードに保存されている履歴データをパソコンにオンラインで取得することができます。取得した履歴データは、設定支援ソフトウェア FS-1000 Manager に読み込まれます。取得した履歴データをパソコンに保存する場合は、履歴の出力を行ってください。( P. 104 「履歴の出力」)

## ご注意

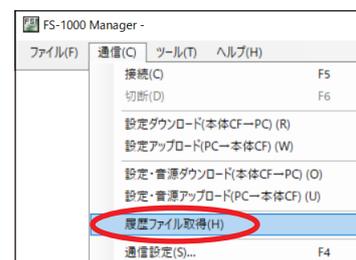
履歴ファイルを取得する前に、FS-1000 システムの履歴データを CF カードに書き込む必要があります。FS-1000 本体の設定操作部を操作し、メンテナンスメニューから CF カードの履歴データ保存を行ってください。

## 1 FS-1000 と設定支援ソフトウェア FS-1000 Manager をインストールしたパソコンを通信接続する。

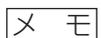
通信接続のしかたは、P. 92 「FS-1000 とパソコンを通信接続する」をお読みください。通信接続が完了すると、画面右下に「接続中」と表示されます。

## 2 設定支援ソフトウェア FS-1000 Manager のメニューバーから【通信→履歴ファイル取得】を選択する。

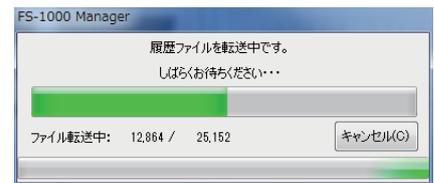
FS-1000 とパソコンを通信接続していないときに実行すると、通信接続を行ってから転送を開始します。



転送中のウィンドウが表示されます。



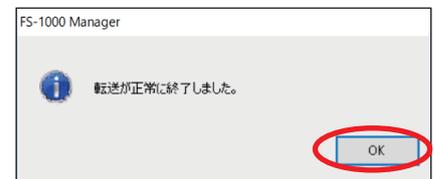
[キャンセル] ボタンを押すと、転送を中断します。



転送が完了すると右に示すウィンドウが表示されます。

## 3 [OK] ボタンを押す。

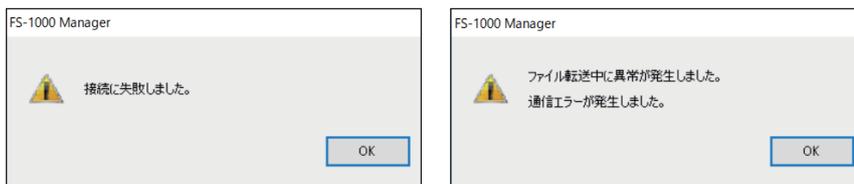
画面が閉じます。



3

## ■ 通信ができないときは

FS-1000 とパソコンが通信できないときは、以下のウィンドウが表示されます。



このような表示が出たら、以下の原因が考えられます。

- LAN ケーブルが接続されていない。
- クロスケーブルとストレートケーブルを間違えている。
- スイッチングハブに電源が供給されていない。
- FS-1000 本体とスイッチングハブの距離が 100 m 以上離れている。
- FS-1000 本体に電源が供給されていない。
- FS-1000 本体の LAN コネクタにケーブルが接続されていない。
- FS-1000 本体またはパソコンの IP アドレスなどのネットワーク設定が間違っている。
- カテゴリー 5 規格のストレートケーブルを使用していない。
- パソコンのファイアウォール機能により通信が制限されている。

# ラベルの出力

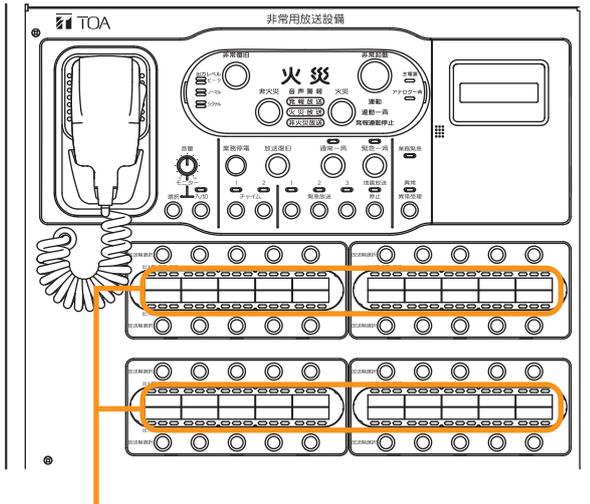
FS-1000 本体や非常用リモコンの記名カード、業務用リモコン（RM-500 以外）のラベルを出力することができます。

現在、設定支援ソフトウェア FS-1000 Manager で設定されている名称を Excel ファイルに出力します。

## ご注意

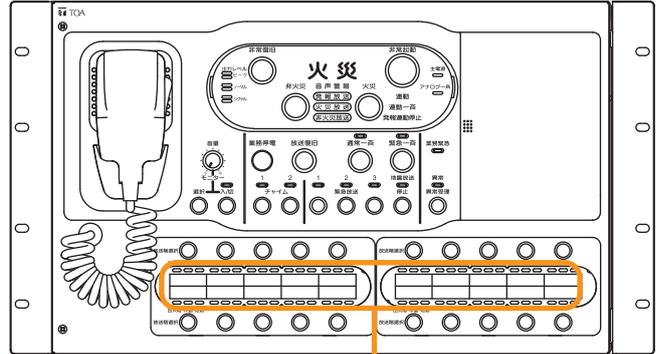
Excel がインストール済みで、使用可能な状態である必要があります。あらかじめ、Excel が使用できる状態にしておいてください。

FS-1000 本体、RM-1000 操作部



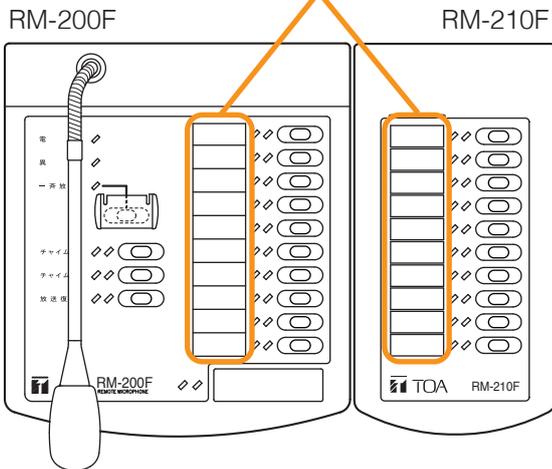
記名カード挿入部

FS-2000RM 操作部

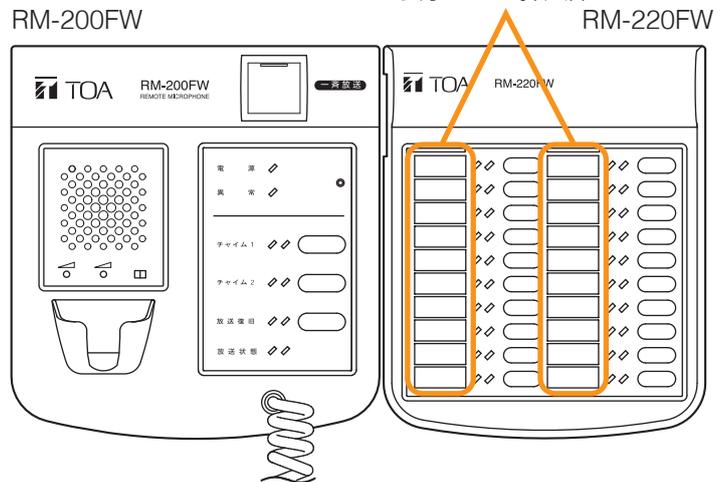


記名カード挿入部

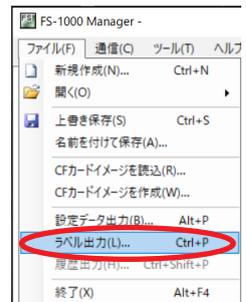
表示ラベル挿入部



表示ラベル挿入部



# 1 設定支援ソフトウェア FS-1000 Manager のメニューバーから [ファイル→ラベル出力] を選択する。



保存ダイアログが表示されます。



## 2 ラベル印刷データを保存するフォルダーを選択する。

## 3 「ファイル名」を設定する。

× モ

デフォルトでは、ファイル名は「Fs1kLvl.xls」に設定されています。

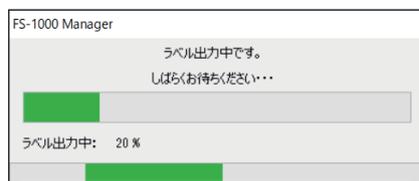
## 4 [保存] ボタンをクリックする。

保存が開始されます。

生成された Excel のファイル（ブック）には、FS-1000 本体、非常用リモコン、業務用リモコン単位で、ワークシートが分かれて作成されます。  
用紙サイズは A4 に設定されています。

### ご注意

ラベル出力中に、Excel ファイルを開かないでください。



## 5 保存した Excel ファイルを開いて印刷する。

※ [次ページ](#)の印刷イメージを参照してください。

### ご注意

- プリンターにより、1 ページ分の印刷可能領域、ラベル幅の出力結果などが異なります。
- 厚さ 0.2 mm 以下の紙を使用してください。

## [記名カード印刷イメージ]

スイッチ1	スイッチ2	スイッチ3	スイッチ4	スイッチ5
スイッチ6	スイッチ7	スイッチ8	スイッチ9	スイッチ10
スイッチ11	スイッチ12	スイッチ13	スイッチ14	スイッチ15
スイッチ16	スイッチ17	スイッチ18	スイッチ19	スイッチ20
スイッチ21	スイッチ22	スイッチ23	スイッチ24	スイッチ25
スイッチ26	スイッチ27	スイッチ28	スイッチ29	スイッチ30
スイッチ31	スイッチ32	スイッチ33	スイッチ34	スイッチ35
スイッチ36	スイッチ37	スイッチ38	スイッチ39	スイッチ40

## [表示ラベル印刷イメージ]

業務RMI

業務RMI 本体	業務RMI 増設1	業務RMI 増設2	業務RMI 増設3
スイッチ1	スイッチ11	スイッチ21	スイッチ31
スイッチ2	スイッチ12	スイッチ22	スイッチ32
スイッチ3	スイッチ13	スイッチ23	スイッチ33
スイッチ4	スイッチ14	スイッチ24	スイッチ34
スイッチ5	スイッチ15	スイッチ25	スイッチ35
スイッチ6	スイッチ16	スイッチ26	スイッチ36
スイッチ7	スイッチ17	スイッチ27	スイッチ37
スイッチ8	スイッチ18	スイッチ28	スイッチ38
スイッチ9	スイッチ19	スイッチ29	スイッチ39
スイッチ10	スイッチ20	スイッチ30	スイッチ40

# 履歴の出力

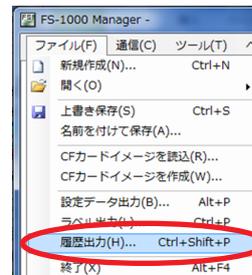
FS-1000 Manager に読み込んだ履歴ファイルおよびオンライン履歴表示で取得した履歴を出力することができます。

読み込んだ履歴ファイルとオンライン履歴を Excel ファイルに出力します。

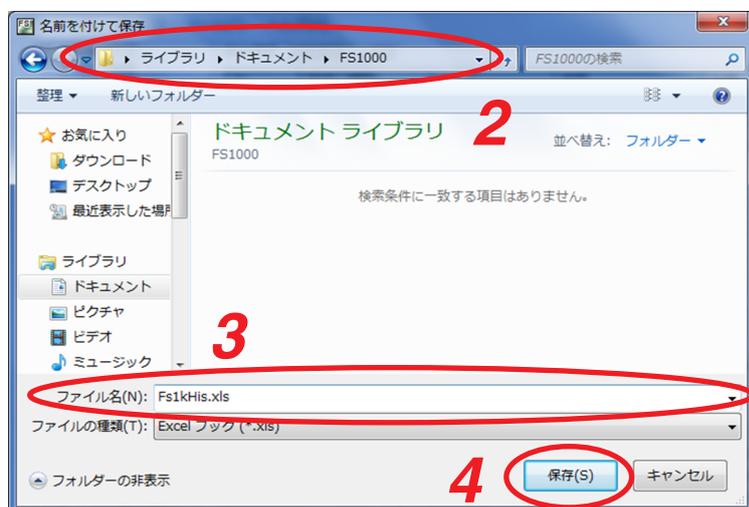
## ご注意

Excel がインストール済みで、使用可能な状態である必要があります。あらかじめ、Excel が使用できる状態にしておいてください。

- 1 設定支援ソフトウェア FS-1000 Manager のメニューバーから [ファイル→履歴出力] を選択する。



保存ダイアログが表示されます。



- 2 履歴データを保存するフォルダーを選択する。

- 3 「ファイル名」を設定する。

メモ

デフォルトでは、ファイル名は「Fs1kHis.xls」に設定されています。

- 4 [保存] ボタンをクリックする。

保存が開始されます。

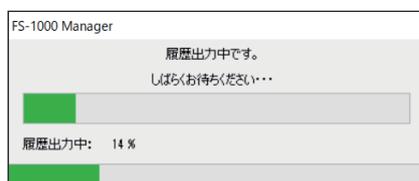
生成された Excel のファイル（ブック）には、読み込んだ履歴ファイルとオンライン履歴それぞれの動作履歴、故障履歴、全履歴でワークシートが分かれて作成されます。

履歴の内容が存在するもののみワークシートが作成されます。

用紙サイズは A4 に設定されています。

## ご注意

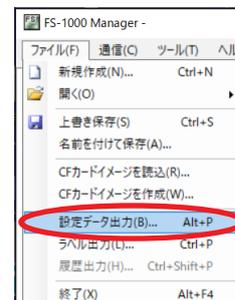
履歴出力中に、Excel ファイルを開かないでください。



# 設定データの出力

設定支援ソフトウェア FS-1000 Manager で設定したデータを、csv ファイルに出力することができます。

- 1 設定支援ソフトウェア FS-1000 Manager のメニューバーから【ファイル→設定データ出力】を選択する。



以下のようなダイアログが表示されます。



- 2 保存先のフォルダーを選択する。
- 3 ファイル名を入力または選択し、【保存】 ボタンをクリックする。

× モ

デフォルトでは、ファイル名は「Fs1kCnf.csv」に設定されています。

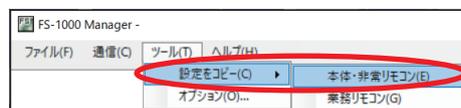
# 設定のコピー

放送階選択スイッチ、チャイムスイッチなどの設定は、本体と非常用リモコンの間および業務用リモコン間でコピーすることができます。

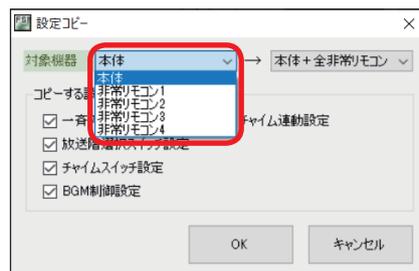
FS-1000 本体から非常用リモコンへの設定のコピー、非常用リモコンから FS-1000 本体または他の非常用リモコンへの設定のコピーのどちらも可能です。業務用リモコンについても、同様に行うことができます。

- 1 設定支援ソフトウェア FS-1000 Manager のメニューバーから [ツール→設定をコピー→本体・非常 RM] を選択する。

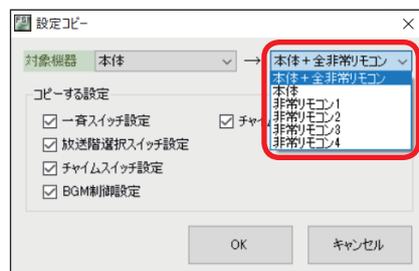
設定コピー画面が表示されます。



- 2 対象機器の左プルダウンメニューからコピー元の機種を選択する。



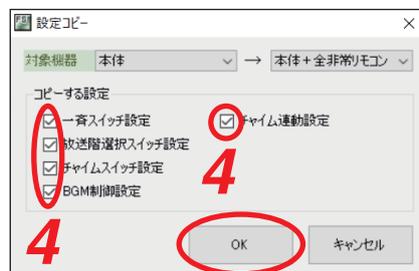
- 3 対象機器の右プルダウンメニューからコピー先の機種を選択する。



- 4 コピーする設定内容にチェックを入れる。

- 5 [OK] ボタンをクリックする。

選択した設定内容がコピー元からコピー先の機種へ反映されます。



5

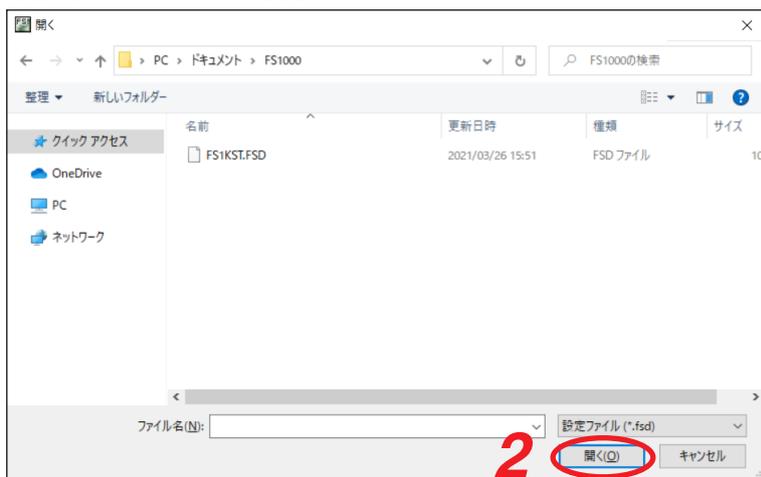
# 設定ファイルの読み込み

設定データを設定支援ソフトウェア FS-1000 Manager に読み込みます。

- 1 設定支援ソフトウェア FS-1000 Manager のメニューバーから【ファイル→開く→設定ファイル】を選択する。



【開く】ダイアログが表示されます。



- 2 設定ファイル「FS1KST.FSD」が保存されている場所を指定して、ファイルを選択し、【開く】ボタンをクリックする。

設定データと音源データを読み込みます。

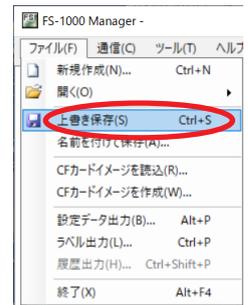
## ご注意

設定ファイル名が「FS1KST.FSD」以外のファイルを開いた場合は保存時に「FS1KST.FSD」のファイル名で保存されます。

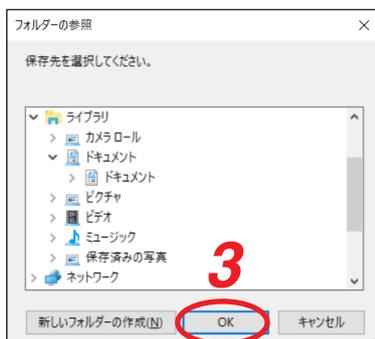
# 設定ファイルの保存

設定支援ソフトウェア FS-1000 Manager で設定したデータを音源データとともに保存します。

- 1 設定支援ソフトウェア **FS-1000 Manager** のメニューバーから【ファイル→上書き保存】または【ファイル→名前を付けて保存】を選択する。



以下のようなダイアログが表示されます。



- 2 保存する場所のフォルダーを選択する。

- 3 [OK] ボタンをクリックする。

メモ

設定データのファイル名は「FS1KST.FSD」に設定されています。

ファイル名を変更することはできません。

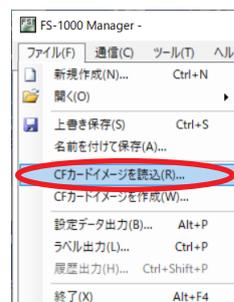
編集した音源データと音源設定データは、このフォルダ下の edit\_data フォルダ内に保存されます。

# CF カードイメージの読み込み

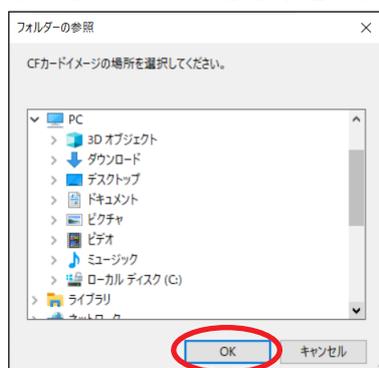
FS-1000 本体の CF カードをオンラインで読み込むのではなく、パソコンから直接、FS-1000 本体に付属の CF カードに保存されている設定データと音源データを読み込むことができます。

**1** FS-1000 本体に付属の CF カードを CF カードリーダー／ライターなどを使ってパソコンに接続する。

**2** 設定支援ソフトウェア FS-1000 Manager のメニューバーから【ファイル→CF カードイメージを読み込込】を選択する。



以下のダイアログが表示されます。



**4**

**3** 読み込む対象の CF カードイメージが保存されたフォルダーを選択する。  
CF カードのドライブを選択してください。

**4** [OK] ボタンをクリックする。

「SETTINGS」フォルダー、「MESSAGE」フォルダー、「LOG」フォルダーから設定データ、音源データ、履歴データを読み込みます。

設定データ (FS1KST.FSD) が存在しない場合は読み込めません。

# CF カードイメージの作成

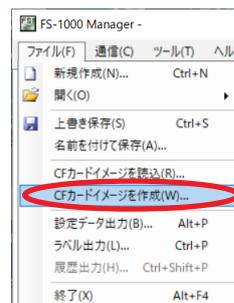
FS-1000 本体の CF カードにオンラインで書き込むのではなく、パソコンから直接、FS-1000 本体に付属の CF カードに設定支援ソフトウェア FS-1000 Manager で作成したデータを保存する場合、CF カードイメージ作成を行ってください。

また、CF カードに音源データを保存していない場合も、CF カードイメージ作成を行ってください。

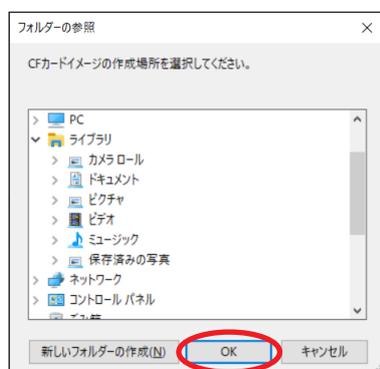
CF カードイメージ作成を行うことで、設定データと音源データが自動的に適切なフォルダー名とファイル名で保存されます。

**1** FS-1000 本体に付属の CF カードを CF カードリーダー／ライターなどを使ってパソコンに接続する。

**2** 設定支援ソフトウェア FS-1000 Manager のメニューバーから【ファイル→CF カードイメージを作成】を選択する。



以下のダイアログが表示されます。



**4**

**3** CF カードイメージの作成場所を選択する。

CF カードのドライブを選択してください。

**4** [OK] ボタンをクリックする。

選択した CF カードイメージの作成場所に「SETTINGS」フォルダーと「MESSAGE」フォルダーが作成され、それぞれ設定データと音源データが保存されます。

× モ

保存されるデータは以下のとおりです。

- ・ 設定データ : 設定支援ソフトウェア FS-1000 Manager で現在読み込んでいる設定データが保存されます。合わせて、設定データと同じフォルダー内にある音源設定データが保存されます。
- ・ 音源データ : ① 設定データが保存されているフォルダー下にある edit\_data フォルダー内にある音源データが保存されます。  
② 音源データ編集画面のすべての音源データで、①のフォルダーにないデータは、デフォルトの音源データが自動的に保存されます。

**5** CF カードを FS-1000 本体に挿入する。

FS-1000 本体に CF カードを取り付ける方法については、FS-1000 設置説明書「CF カードの取り付け」をお読みください。

**で注意**

設定・音源データが保存された CF カードは、そのまま FS-1000 本体に挿入しておいてください。

# 設定支援ソフトウェアを終了する

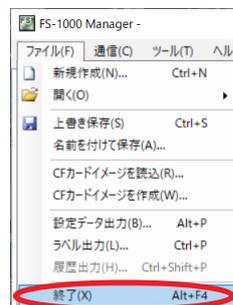
すべての設定、必要なファイルを出力し終えたら、設定支援ソフトウェア FS-1000 Manager を終了します。

手順：設定支援ソフトウェア FS-1000 Manager のメニューバーから【ファイル→終了】を選択する。

設定支援ソフトウェア FS-1000 Manager が終了します。

## ご注意

設定データを保存していない場合は、次のダイアログが表示されます。



<b>TOA お客様相談センター</b>	フリーダイヤル（固定電話専用） <b>0120-108-117</b>	商品の価格・在庫・修理などのお問い合わせ、およびカタログのご請求については、取り扱い店または最寄りの営業所へお申し付けください。最寄りの営業所については、TOA ホームページをご確認ください。
商品の内容や組み合わせ、操作方法についてのお問い合わせにお応えします。 受付時間 9：00～17：00（土日、祝日除く）	ナビダイヤル 0570-064-475（有料） FAX 0570-017-108（有料） ※ PHS、IP 電話からはつながりません。	

当社は、お客様から提供された個人情報をお問い合わせ対応または修理対応の目的に利用いたします。また、修理委託目的で委託先業者へ提供することがあります。個人情報の取り扱いに関する方針については、TOA ホームページをご覧ください。

TOA ホームページ <https://www.toa.co.jp/>

TOA 株式会社

202203